



國際公法

14
653



始



平時國際公法

下卷

14
2
653

14-653



平 時 國 際 公 法

下 卷

(以騰寫版換筆寫)

大正
3. 8. 20
購 求

大正二年度(東大)立博士述(補講)

(非賣品)

附) 一 以ノ講義ハ有志者ノ依頼ニヨリ四
*十五部ヲ限リ騰寫ニ附シ實費ヲ
(言) 以テ配本シタルモノ也本層(某部)也

平時國際公法 下卷目次

- 第十二章
- 第十三章
- 第十四章
- 第十五章
- 第十六章
- 第十七章
- 第十八章
- 第十九章
- 第二十章
- 第二十一章
- 第二十二章
- 第二十三章

公海
海賊
個人及國籍
外國人，入國及追放
犯罪人引渡
國家，元首及外務大臣
外交使節
領事
領事裁判及混合裁判
外國ニアル軍隊及軍艦
國際關係，進拔及維持方法
國際法上，法規關係及國際法上，事實

一七
二七
三六
四一
四五
七〇
一一五
一二二
一三七
一四七
一五七
一七二

(頁)

第二十四章	國際條約	一七二
第二十五章	國際紛爭平和的處理方法	二一八
第二十六章	國際紛爭強制的處理方法	二四五

二
一七二
二一八
二四五

平時國際公法 下卷目次畢

平時國際公法 (大正二年補講)

第十三章 公海



公海ノ觀念
公海トハ何國ニモ屬セサル海洋ノ部分ナリトス海洋ノ如何ナル部分カ一國ノ領域トナルヤハ沿岸海ニ于テ速ナルニ當リテ之レヲ説ケリ公海ハ何國ノ領域ニモ屬セス又何國モ之レヲ領域トナスコトヲ得サルヲ以テ何國モ公海ノ全部又ハ一部ヲ以テソノ主權又ハ法權ノ專ラ行ハル、區域トシテ主張スルヲ得ス從テ何國モ公海ノ全部又ハ一部ニ於テ他國ノ船舶ニ對シテ法令ヲ發シ行政ヲナシ警察ヲ行ヒ裁判管轄ヲ行フヲ得サルヲ原則トス公海ハ又凡テノ國民ノ公道ニシテ凡テノ國家ノ船舶カ對テ地位ヲ以テ航行ノ自由ヲ有セサルヘカラス。

所謂公海自由ノ原則ハ海洋ノ原則トシテ何國ノ領國ニモ屬スヘカラサルコ

トラ意味スルモノト解スヘキナリ、或ハ公海自由ノ原則ニ所謂自由ヨリ國家ノ有
スル自由ト解シ各國ノ公海ニ於テ他國家ノ權利ヲ侵サ、ル範圍ニ於テ他國家
ニ妨ケラレ、コトナク自ラソノ欲スル所ヲナシヌソノ所屬ノ船舶及ヒソノ中
ノ人ノ欲スル所ヲナスニ委スルヲ得ヘク、從テ公海ニアル自國船舶ニ對シテ他
國ノ于テ興ラ容レヌシテ自ラ法ヲ及ホシヌソノ所屬ノ船舶ヲシテ航海、漁業
オノ目的ノタメニ自由ニ公海ヲ使用セシムルヲ得ヘキコトヲ公海ノ自由ノ原
則ノ名ヲ以テ呼フ者アリ此意味ニ於ケル公海自由ノ原則ハ公海ニ於ケル行為
ノ自由ノ原則若クハ公海使用ノ自由ノ原則ト稱スヘキナリ。

公海カ何國ノ領域ニモ屬スヘカラストナシトナシテ使用シ得ヘク且ツ無盡藏ニ
基礎ニ于シテ或ハ何人モ之ヲ害スルコトナクシテ使用シ得ヘク且ツ無盡藏ニ
シテ凡テノ人ニ對シテ供給ノ充分ナル物ハ自然法上所有ノ物トナルヲ
得サルコトヲ以テ答フルモノアリ或ハ公海カ事實上占有ヲナスコト不可能ナ
ルコトヲ以テ答フルモノアリ故、説ハ自然法ヲ認メサル今日ノ法律的確信ニ
ヨレハ之レヲ是認スル能ハス所、説ハ今日ノ海軍力ノ發達ニ鑑ミテ事實ニ基
ウスト認メサルヲ得ス余ハ上述ノ原則ノ真ノ基礎ハ一ハ公海ヲ以テ諸國民ノ

交通々商ノタメノ自由ナル公道トナシ且ツ諸國民漁業ヲ自由ニ行ヒ得ルノ場
所トナスホノ公海ノ自由ナル使用ヲ確ムルノ必要ニ存シ一ハ或ル國ニ公海ノ
一部ヲ領域トスルノ主張ヲ認ムルコトノ國際ノ平和ニ害アリ且ツ公海ノ自由
ナル使用ヲ確ムルノ支障トナルコト過去ニ於テ経験セラレ此種ノ主張ノ實例
ニ反抗シテグロークウスガノ考者ノ唱道セル自由海ノ考説ノ論結カ國際團體
ノ法律的確信ニ於テ採用サル、ニ至レルコトニ存スルトナス。

公海ノ觀念ノ沿革

公海カ何國ノ領域ニモ屬セストスルノ原則ハ昔時ニ於テ認メラレタル所ニ
アラズ羅馬法皇アレキサンター四世ノ一四九三年ノ法皇令ニ基キテ西班牙カ
太平洋及ヒメキシコ灣ヲソノ領域ナリト主張シ葡萄牙カ印度洋及ヒモロツコ
以南ノ大西洋ノ部分ヲソノ領域ナリト主張シ共ニ外國船ノ此ホノ水域ニ入り
ヌハ之ホノ水域ヲ航行スルヲ禁シタルハ極端ノ例ナリトス此ホノ極端ノ主張
ハ英國人及ヒ和蘭人ノ反對ニヨリ實際ニ於テ行ハレスエリサバノ片英國ハ
西班牙ニ對シテ海洋ノ使用ハ空氣ノ如ク縱テノ人ニ共通ニシテ海洋ハ何國ニ
モ屬スル能ハサルヲ説ケリ一六〇九年グロークウス自由海論出テ海洋ノ性質

上何國ノ領域ニモ屬セサルヘキヲ説ケリ此處ハ和蘭ノ印度領易ノ利益ノタメ
ニ葡萄牙主張ヲ論破セント欲シテ著ハシタル所ナリ當時此説ハ許多ノ反対ヲ
受ケタリ反対説中最モ有名ナルハ英國ノセルバン、英國ノ海上ニ於ケル主權
ヲ并護スルヲ著ハセル閑鎖海論ナリトス英國ノ主權ハ西葡ノ如ク甚クシキ
ニ至ラサルモ猶十七世紀中北海ノ漁業ヲナスニ英國ノ特許ヲ得ルヲ必要トス
ト主張セリ又フイニステル岬ヨリスタットランドニ至ルマテノ海洋ニ於テ他
國ノ艦船ニ対シテ英國旗ニ對スル敬禮ヲナサシメ此ガノ水域ニ於ケル英國ノ
主權ヲ認メシムヘキヲ主張セリウエニスハ早クヨリアトリアック海ノ北部
ニ於ケルソノ主權ノ行ハルヲ主張シ之ヲ航行スル船舶ニ重税ヲ課シセノア
モリグリアン海ニ於テソノ主權ノ行ハルヲ主張セリ又瑞典及ヒ丁株ハハル
チックク海ニ主權ヲ行フヲ主張シ又丁株ハ那威ヨリアイスランドニ至ル間ノ海
洋ニ於テ漁業ヲナスニハ丁株ノ特許ヲ受クヘキヲ主張シ此主張ハ十八世紀ニ
入り始メテ英國及ヒ和蘭ノ反対ノタメニ拋棄サレタリ上速ノ如ク一定ノ海洋
ヲ領海トスル主張ハ一時國際慣例ニ於テ認メラレ海洋ノ一部ヲ領海トシテ主
張セル諸國カリノ部分ノ外國船ノ通航ヲ禁止セントスル如キ極端ノ主張ハ幾
セリ

モナク止モシモ外國船ニ通航税ヲ課シヌハ外國船ノ漁業ハ特許ヲ要ストシ又
外國船ヲシテ海上礼式ヲ行ハシメタリ但シ諸國ハソノ領海トシテ主張スル海
洋ノ部分ヲ航行スル船舶ヲ海賊ニ對シテ防禦スル責任ヲ認メ且ツ之レヲ実行
セリ

十七世紀ノ後半以來海洋ニ於ケル航海自由ノ原則普ク認メラルニ至リ若
岸海ヲ除キテハ通航税ノ賦課モ漸ク止ミ又漁業ノ禁止モ止ムニ至レリ唯海上
ノ礼式ニ于テ主張ハ残存セリ然レモ十九世紀ノ初メニ於テハ公海ノ自由ノ
原則國際慣例ニ依リ承認セラレタリト云フヘシ十九世紀ニ入り公海ノ自由ノ
原則ニ及スルニシテ見タルノミツノ一ハ露國ノ主張セル所ナリ露國ハ一
八二一年ノ勅令ニ依リ亞米利加ニ於ケル當時ノ露國ノ領土アラスカニ於テ海
岸ヨリ一百伊太利哩以内ニ外國船ノ近寄ルコトヲ禁シタリ露國ノ上速ノ主張
ハ露米間ノ一八二四年ノ條約及ヒ英露間ノ一八二五年ノ條約ニヨリ拋棄サレ
タリ其ニハ合衆國ノ主張セル所ナリ合衆國ハ一八六七年金銭ニ代ヘテ露領亞
米利加ノ割讓ヲ得タル后ベリング海ノ広キ範圍ニ巨リ海賊保護ノ法律ヲ外
國船舶ニ對シテモ適用セント欲シ一八八六年以來英國ト紛議ヲ生シ茲ニ仲裁

裁判ニ付スルコト、ナリ一八九三年ニ於テ仲裁判決ハ公海自由ノ原則及ヒソノ結果ヲ認メタリ。

以上述フル所ニヨレハ國際慣例ニ於テ十七世紀後半以來公海ノ使用（航行、漁業等）ノ自由先ツ認メラレヌニ至リ、十九世紀ニ至リ、公海ノ自由カ明カニ認メラレ、ニ至レルナリ。

公海ニ于スル諸法規于係

公海ハ何國ノ領域ニモ屬セス又屬セサルベキモノニシテ何國モ之ヲ先占ニヨリ取得スルヲ得ス又何國モ公海ニ於テ特ニ國際法規又ハ條約ノ明カニ認ムル場合ニアラザレハ他國ノ船舶ニ對シテ立法、行政、警察、司法等ノ統括作用ヲ行フヲ得ス之レ真正ノ意義ニ於ケル公海ノ自由ノ原則ノ當然ノ結果ナリトス。

公海ニ於ケル航行ノ自由ハ總テノ國ノ公私ノ船舶ニ對スル完全ナル自由ナリトス航行ノ自由ニハ他國ニヨリ通航稅ヲ課セラレサルコト及ヒ強制的ニ他國ニヨリ海上礼式ヲ行ハシメラレサルコトヲ含ム一國ハ公海ニ於テソノ軍艦ニ對シテ他國ノ商船ヨシテ敬礼ヲナサシムルノ權利ナキナリ公海ノ航行ノ自

由ノ結果トシテ一國ノ沿岸海ノ一部ニシテ國際交通ノ水路ニ當ルハ他國ノ國ノ軍艦及ヒ商船ニ對シテ無害航行ヲ許サ、ルヲ得ス是レ公海ノ自由ヲ完ウスルタメニ必要ナルヲ以テ認メラル、ニ至レル所ナリ公海ハ何國ノ領域ニモ屬セサルヲ以テ戰爭ノ際交戰國ハ戰爭ノ目的ノタメニ之レヲ使用スルヲ得、キナリ公海ニ於テハ船舶所屬國カ船舶ニ對シテノミナラス船舶中ノ人及ヒ貨物ニ付キ主權ヲ行フコトヲ認メラル是レ公海ニ於テハ他ニ主權ヲ行フノ國ナキヲ以テ船舶所屬國ノ主權カソノ船舶内ニ行ハル、ヲ認ムルコト最も自然的ナレハナリ故ニ船舶所屬國ハ公海ニアル船舶及ヒ該船舶中ノ人及ヒ物ニ付キ法ヲ有シ立法、行政、警察、司法ヲ行フノ權利ヲ有ス。

公海ニ於テハ船舶ハ船舶所屬國ノ主權ノ行ハル、領域ニ外ナラサルヲ以テ許多ノ事項ニ于シテ法規上恰モソノ國ノ陸地ノ領域（領土）ト全様ニ取扱ハル例ハ公海ニ於テハ船舶中ニ生ラタル子ハ船舶所屬國ノ陸地ノ領域ニ於テ生ラタルト全様ニ取扱ヒ船舶中ニ於テ生ラレタル契約ハ船舶所屬國ノ陸地ノ領域ニ於テ結ハレタル契約ト全様ニ取扱ヒ船舶中ニ行ハル犯罪ハ船舶所屬國ノ陸地ノ領域ニ於テ行ハレタル犯罪ト全様ニ取扱フ然レモ船舶ハ領土扱ノ目的物タル

意義ニ於テハ船舶所属國ノ領土タルコトナキヲ以テ商船ハ他國ノ領海ニ入レ
ハ領海所属國ノ法ヲ下ニ立ツニ至ルノミナラス公海ニ於テモ平時ニ於テ外
國軍艦ニヨル一定ノ処分ヲ受フルコトアリ又戰時ニ於テ仮令中立國船タリト
スルモ交戰國ノ軍艦ニヨリ臨檢搜索ヲ受ケ殊ニ戰時禁制品ノ輸送若クハ封鎖
侵破ホノクメ拿捕セラレ甚クシキニ至リテハ没収セラルコトアリト雖モ船
舶所属國ノ領土ノ侵害ト全視セラルコトナキナリ軍艦ト雖モソノ所属國ノ
領域ナルモ領土ノ目的物タル意義ニ於テハ領土ニアラスソノ他ノ國ノ領域
ニ入リテソノ國ノ法ヲ下ニ立タサルハ軍艦ノ治外法權ノ結果ニ外ナラス。
公海ハ何國ノ国籍ヲ有スル船舶ニ對シテモ航行自由ナリト雖モ現今ノ慣例
ニ於テ海上國旗ヲ有セサル國(例ハ瑞西)ニ屬スル人ハソノ所有船舶ヲ或ル
海上國ノ國旗ノ保護ノ下ニ置クモノトス何國ノ國旗ノ保護ヲモ受ケスシテ航
行スル船舶又ハ合時ニ二國以上ノ國旗ノ保護ノ下ニ航行スル船舶ハ國際法上
ノ保護ヲ享有スル能ハス又權利ナクシテ一國ノ國旗ヲ掲ケテ航行スル船舶ハ
國旗ヲ僭用サレタル國ノ軍艦ニヨリ拿捕サレ而シテ処罰ヲ受ケ没収セラル
ニ至ル。

公海ニ於ケル船舶ハソノ所属國ノ法ヲ下ニ立ツヘシ他國ノ國旗ニ對
シテ行ハレサルヲ原則トスルモ此原則ニ對シテ例外ヲ存セリ特定ノ例外ノ場
合ニ於テハ所属國以外ノ國家カソノ軍艦ニヨリ國旗ヲ行フモノトス今例外ノ
場合ヲ考ヘシ。

(1) 平時海賊ノ嫌疑ノタメ行フ停船、臨檢、搜索、

諸國ノ軍艦ハ海賊カ公海ニ於ケル船舶ノ安全ヲ害スルヲ防クタメニ海
賊ノ嫌疑アル私船ニ對シテ公海ニ於テ停船シ命シ船舶屠戮ヲ檢スルタメ
臨檢ヲナスヲ得ヘク更ニ進ニテ船内ヲ搜索スルヲ得ヘシ充分ナル嫌疑ノ
理由ナクシテ外國商船ヲ停止シ臨檢搜索ヲ行ヘルハ軍艦所属國ハソノ責
任ヲ負フ外國ノ海賊ヲ拿捕シ之レヲ処罰シ得ヘキコトニ于シテハ次章ニ
於テ之レヲ述フヘキナリ。

(2) 平時自國旗ノ濫用ノ禁遏

一國ハソノ國內法ノ定ムル条件ヲ具ヘスシテソノ國旗ヲ掲揚スル船舶
ヲ拿捕シ処罰スルヲ得但シ戰時ニ於テ拿捕ヲ免レンカタク中立國ノ國旗
ヲ掲クルモノハ処罰シ得ルノ限リニアラス。

(3) 平時ノ追跡取

一國ノ領水ニ於テソノ國ノ法取ニ違スヘキ犯罪ヲ犯セル外國ノ船舶ヲ領水中ヨリ追跡ヲ始メタルハ追跡ノ繼續中公海ニ於テ之ヲ拿捕シ之ヲ処罰スルヲ得此追跡ノ権利ハ領水所屬國ノ法取ノ作用ヲ究ウセシムルノ必要ニ基キテ認メラレ但シ外國船舶一旦他國ノ領水ニ入ルハ追跡取ハ終止スヘキモノトス(國際法学会ノ此点ニ于スル決議ハ沿岸海ニ于テ速テルニ當リ之ヲ速ヘタリ)

(4) 特別ノ合意

特別ノ合意ニ基キ軍艦ハ公海ニ於テ外國ノ國旗ヲ掲ケテ航海スル船舶ニシテ特定ノ行為ヲ行ハル嫌疑アル船舶ニ停船ヲ命ジソノ船舶各差ヲ臨檢シ又船内ヲ搜索シ嫌疑ノ事實存スト認メラレタルハ之ヲ拿捕スルノ権利ヲ有スルコトアリ此場合ニ於テ裁判官轄ハ船舶ノ國籍所屬國ニ屬スルヲ常トスルモ時ニ輕微ナル処罰ニ付テ拿捕者カ処分ヲナスヘキヲ定ムルコトアリ此種ノ條約ノ例ヲ考フレハ次ノ如シ

(1) 奴隸売買禁遏ニ于スル條約(殊ニ一八九〇年七月二十一日ブリュッセル

ル金談ノ決議各)

- (1) 北海ノ漁業ニ于スル一八八二年五月六日ノ條約
- (2) 海底電線ノ保護ニ于スル一八八四年三月十四日ノ條約
- (3) 北海ノ一部タル公海ニ於テ酒類売買ノ禁止ニ于スル一八八七年十一月十六日ノ條約
- (4) 北大平洋ニ於ケル鯨鯢保護ニ于スル一九一一年ノ日英露米間ノ條約

上速ノ(1)及(2)ニ於テ外國ノ軍艦カ輕微ナル処分又ハ輕微ナル事件ノ勸解ヲ行ヒ得ヘキヲ定ム

(5) 自衛取ノ行使又ハ緊急狀態行為

一國ハ劫迫セル危害ヲ防クタメ止ムヲ得サルハ自衛ノ必要上ソノ必要ノ範圍内ノ処分ヲ公海ニ於ケル外國船舶ニ加フルコトヲ得ヘキナリ

(6) 戰時交戰國ノ中立船ニ對スル權利

戰時交戰國ハ公海ニ於テ船舶ノ敵船ナルヤ否ヤヲ確ムルヲ及ヒ禁制品輸送ノ封鎖侵破ノ敵ヲ幫助オノ行為ノ有無ヲ確ムルヲメ臨檢搜索ヲ行

レ仮令中立船トリニ戰時禁制品輸送封鎖侵破敵對幫助ノ行為アレハ之ヲ拿捕シ得。

平時ニ於テ軍艦カ国旗ヲ掲ケサル嫌疑アル商船ニ出令シテソノ国旗ヲ確ムルヲ欲スルハ軍艦ノ旗章ヲ掲ケ空砲ヲ発シテ以テ国旗ヲ掲ケヘキヲ商船ニ合図ス若シ商船カ此合図ニ為シテ国旗ヲ掲ケサルハ軍艦ハ先ツ船体ニ命中セサル様ニ実弾ヲ發ス嫌疑アル船舶ヲ猶国旗ヲ掲ケエシテ嫌疑ヲ深カラシムルハ該船舶ニ臨檢シテソノ国旗ヲ確ムルヲ停船ヲナシムルノ処置ヲ取ルヲ得停船臨檢搜索拿捕ゾニテスル手續ハ戰時ニ於テ行フ処ト異ナラサルヲ以テ此ニ迷ヘス但シ拿捕ノ場合ニ於テ拿捕カ特別ノ合意ニ基キテナシ得ヘクシテ船舶ノ裁判管轄カ船舶所屬國ニ屬スルハ船舶ヲソノ所屬國港ニ引致シソノ國ノ官憲ニ引渡スヘキトモノリス。

公海ニ於テ船舶ノ衝突ヲ避ケ又衝突ノ右人命ヲ救フオノ目的ヲ有スル國際法規ハ未タ存立セズ各國カ各々ソノ國內法ヲ以テ自國船舶ニ于テ信號水先航路衝突ホニ于テ規定ヲ設フルアルノミ此ホノ點ニ于テ國內法ノ規定ハ漸次統一ノ傾向アリ諸海上國ニ共通ノ國際信號行ハルニ至リシカ一八八九

年ノワシントンノ海軍會議ニ於テ海上衝突ヲ防クツノ規則案及ヒ國際信號ノ改正ヲ議決シ大体ニ於テ此決議ニ基キ諸海上國ノ國內法ノ規定成レリ。

公海ニ於ケル船舶ノ衝突ニヨル損害賠償ノ訴訟ノ裁判管轄ノ問題ハ國際法上未タ決定シ得サル所ナリ損害ヲ加ヘタル船舶ハ所屬國ノ法廷ニ損害賠償ノ訴訟ヲ提起スルヲ得ヘキハ勿論ナルモノ以外ノ國ノ裁判所モ裁判管轄ヲ主張スルコトアルナリ或ハ外國船舶間ノ衝突ノ場合モ總テ管轄スヘシトナスアリ(合衆國ノペンシルヴァニアノ「サーキット・コルト」)或ハ被害船カ自國船ナルハ仮令加害船カ外國船ナルモ裁判管轄ヲ主張スル國アリ(仏國)又仮令雙方ノ船舶カ外國船ナル場合ニモ雙方ノ合意アルカ又ハ一時的性質ノ緊急ナル処分ノタメカ又ハソノ國カ并濟地ナルハ裁判管轄ヲ主張スル國アリ(仏國)雙方々外國船ナル場合ニソノ國ノ港灣カ衝突ノ場所ニ近キ者クハソノ國ノ港灣カ被害船ノ最初ノ避難港タルハ於テ裁判管轄ヲ主張スルアリ(伊國)又今シ場合ニ加害船(又ハソノ所有者)カ損害賠償ノ訴訟提起ノ際自國港ニアルハニ裁判管轄ヲ主張スル國アリ(英國)學說ニ於テモ加害船舶ノ所屬國ノニ專ラ裁判管轄ヲ有スヘキトモト為スアリ(ハール)

被害船ノ最初ノ避難地（又ハ衝突ニヨリ難破セル船舶ノ乗組員ノ恙ヲ上陸セル地）ノ裁判所カ管轄スヘシトナスマリ（伊國ノ學說）又船舶ノ自由港ヲ有スル國モ裁判管轄ヲ有スヘシト為スマリ（ファイオーレ）國際法協會ハ原告又ハ被告ノ國內法ニ從ヒテ裁判管轄ヲ認メラル、裁判所ナレハ孰レニテモ訴ヘ出ツルヲ得ルトナス。

現今ニ於テハ公海ニ於テ難破ニ遭ヘル人及ヒ貨物ハ難破船所属國ノ保護ヲ失ハサルコト認メラレ如何ナル國家モ遺棄サレタル外國ノ難破船又ハ外國ノ難破船内ニアリシ漂流貨物ヨリ自存ニヨリ取得スヘキヲ國內法上ニ於テ定ムルヲ得ス但シ各國ハソノ臣民カ遺棄サレタル難破船又ハ難破船内ニアリシ漂流貨物ヲ原所有者ニ恢復スルニ當リテ得ヘキ救済謝金ヲソノ國內法ヲ以テ定ムルヲ得。

公海ニ於テ海難ニ遭ヘル船舶ニ對シテ英國ノ國ノ軍艦カ救助ヲ興ヘサルヘカラスト為ヌノ説アリ（ベルルス、ファイオーレ）然レモ道德上ノ論ヲ屬セラ

國際法上ノ論トシテハ此ノ如キ義務カ確立セリト言フヲ得ス。
公海ノ使用ノ自由ノ結果トシテ公海ニ於テ漁業ヲ行フコトモ自由ナルヘク

シテ何國ノ船舶モ漁業ヲ行ヒ得ヘキナリ但シ一國ハ自國船舶ノ公海ニ於ケル漁業ニテシテ規則ヲ設クルヲ得又一國ハ條約ニ依リ公海ノ一部ニ於ケル自國船舶ノ漁業ニテシテ制限ヲ設クルヲ得スルコトアリ此種ノ條約ノ例ハ北海ノ漁業ニ于スル英、日、仏、独、和、オノ諸國ノ間ノ一八八二年五月六日ノ海牙條約及ヒフエロエ群島及ヒアイスラント附近ノ沿海ニ於ケル漁業ニ于スル一八九〇一年六月廿四日ノ英、日、間ノ倫敦條約ノ如キ是レナリ此等ノ條約ニ於テ締約國ノ軍艦カ漁業ノ監視ヲナシ他ノ締約國ノ國籍ヲ有スル船舶ニ對シテモ臨検搜索ヲナシ條約違反ノ外國船舶ヲ拿捕スルヲ得ルトス但シ極メテ輕微ナル事件ノ場合ヲ除キ船舶ノ所属國カ裁判管轄ヲ有スルトス北海ニ于シテ漁船ニ酒類ヲ売ルコトヲ制限スル條約案カ一八八七年十一月十六日成リシカ一八九四年ニ至リ始メテ上述ノ一八八二年ノ條約ノ締約國ニヨリ批准サレタリ（仏國ハ批准セス）。

ヘーリング海峡ノ臨検保護問題ハ種々ノ事件ヲ生セリ一八八六年英領加奈陀ノ三隻ノ漁船カペーリング海ノ合衆國沿岸以外ノ水域ニ於テ合衆國ノ漁業ノ制限ニ于スル法令ヲ遵守セサルノ故ヲ以テ拿捕サレタルヨリ英米間ニ

紛議ヲ生シ一八九二年仲夏々判ニ付セラレシカー一八九三年ノ仲夏判決ニ於テ
合衆國カベリリング海ヲ以テ合衆國ノ領海ト主張スルコトノ根拠ナク又臘納
歎ニ于シテ公海ニ於テ合衆國カ特別ノ権利ヲ有セサルヲ認メタルカ仲夏々判
定ハ兩國カソノ住民ニブリビロツク島ノ周圍六十哩ノ水域中ニ於テ臘納歎ヲ
殺スヲ禁シ又毎年五月一日ヨリ七月三十一日ニ至ル間ニ於テ臘納歎ヲ殺スコ
トヲ禁スヘク又烟火器又ハ爆發物ヲ以テ獵獲スルヲ禁シ時許ヲ得タル船舶以
外ノ船舶ニヨル漁獵ヲ禁スヘキヲ定メタリ一八九四年兩國ハ仲夏判決ノ定メ
タル所ヲ実行セルカ合衆國ハ他ノ海上國ニモ仲夏々判所ノ定メタル規則ニ任
意ニ従フヘキコトヲ請求セシカ之レニ恣シタルハ伊國アルノミ然ルニ仲夏々
判ノ定メタル規定カベリリング海ノ臘納歎ノ剿絶ヲ防クタメニ不充分ナリト
シ合衆國ノ主張ニヨリ一九〇一年ワシントンニ於テ我カ國及ヒ英米露ノ委員
ノ會議開カレ一九〇一年七月七日ノ條約ニ調印サレタリ此條約ニヨリ各締約
國ノ人民及ヒ船舶カベリリング海勸察加海オコツク海及ヒ日本海ヲ包含スル
北緯三十度北以ノ太平洋ノ公海ニ於テ臘納歎ノ海上獵獲ヲナムヲ禁止スルヲ
定ム

公海ノ使用ノ自由ノ結果トシテ何國モ自國ノ既ニ設メル電線ヲ害スル忍マ
ル場合ノ外ハ他國ノ海底電線ヲ破壞スルヲ妨クル能ハス海底電線ノ保護ノ謀
早クヨリ存セシカ他國ノ招請ニヨリ巴里ニ國際會議開カレタル結果一八八四
年海底電線保護ヲ目的トスル國際條約成リ我カ國モ之レニ加盟セリ此條約ニ
ヨリ公海ニ於テ故意ニヨリ又ハ許スヘカヲサレ不注意ニヨリ電線ヲ切斷又ハ
毀損シタル者ニ對シテ締約諸國ハ刑罰ヲ科スヘシトス但シ自衛ノ目的ニ出ツ
ル行為ハ此限リニアラストス而シテ條約ニ違反スル行為ヲナセル船舶ノ所屬
國ノ法廷ノミカモ判管轄ヲ行フヘキモ能ヲノ締約國ノ軍艦ハ條約ニ違反スル
行ヲナセル嫌疑アル商船ノ停船ヲ命シソノ国籍ヲ確ムルヲ得ルトス而シテ該
條約ハ平時ニモ適用アリテ戰時ニ於テハ女戰國ノ行為ヲ制限スルモノニア
ラサルコトヲ明言セリ

第十三章 海賊

海賊ノ定義

國際法上ノ海賊トハソノ元來ノ意義ニ於テハ (1) 一ノ私船カ公海ニ於テ掠

奪ノ意思ヲ以テ他ノ船舶ニ對シテ行フ所ノ孰レノ國際法上ノ主体ノ認許モナ
キ暴行ニシテ尙書セハ海上ノ強盜ナリトス然ルニ此場合ノ以外ニ於テ現今ノ
國際法上海賊トシテ取扱ハル、場合アリ (2) 一船舶ノ船員カ船長オノ復讐ニ
脅反シ船舶及ヒ貨物ヲ自由ニスルトキハ他ノ船舶ニ對シテ暴行ヲ加ヘサルモ
海賊トシテ取扱ハル又 (3) 他ノ船舶ヲ襲ヒテソノ中ノ人ヲ殺シソノ中ノ貨物
ヲ破壊スル如キ國際法上ノ主体ノ認許ナキ暴行カ公海ニ於テ行ハルレハ仮令
掠奪ノ意思ナキモ海賊トシテ取扱ハル然レモ海賊行為ト云フヲ得ルニハ船舶
全体ニ對スル暴行ナラサルヘカラス船舶内ニ於テ暴行ヲナスモ普通ノ殺人罪
又ハ服務規律ノ違反オニ過キサルコトアルナリ又海賊行為ハ國際法ノ主体ノ
認許セル行為即チ國家又ハ交戦國體ノ命令シヌハ認許スル行為ニテラスシテ
ソノ脅反ニソノ行為ニ對スル國際ノ責任ヲ負フヘキ者ナキモノトス又海賊行
為ハ万國民ノ敵タル性質ヲ有スヘキモノナルヲ以テ蓋シ政治上ノ目的ヲ以テ
一定ノ國家ノ船艦ニ對シテ加害行為ヲ行フモノヲ含マサルヘキナリ但シ此点
ニ付キテハ異論アリトス。
國際法上ノ海賊行為トナルニハ公海ニ於テ行ハル、行為ニ限ルトナスヲ普

通説トス或ハ海上ヨリ上陸シテ無所屬ノ土地若クハ或ル國ノ領域内ニ於テ行
フ暴利ヲ含ムトナス。

今日ノ國際法上普通ニ認メラレタル海賊ノ定義ヲ挙クレハ海賊行為トハ何
オノ國際法ノ主体ノ認許ヲ受ケスシテ公海ニ於テ行ハル、船舶及ヒソノ中
ノ人若クハ貨物ニ對スル暴行ニシテ一ノ私船カ他ノ船舶ニ對シテ行ヒ又ハ一
船中ノ船長オノ復讐ニ脅反セル海員若クハ乗客ソノ船舶ニ對シテ行フ所ノモ
ナリトナスヘシ。

海賊ヲ行フ船舶

海賊ヲ行フモノハ國際法ノ主体(交戦國體ヲ含ム)ニヨリ認許セラレサル暴
行ヲナスモノナルヲ以テ之レヲ行フモノハ通常私船ナリトス一國ノ軍艦ソノ
他ノ公船ハソノ公船トシテ存スル間ハ暴行ヲ行フモ海賊行為トナルコトナシ
若シ公船ニシテ不法ノ暴行ヲ行ハソノ所屬國ニ對シテ救正ヲ求ムヘキノミ
但シ公船ト雖モ後逆ヲナシ縱ニ航海スルモ其ハ最早公船タルノ資格ヲ失ヒテ他
國船舶ニ害ヲ加フルモ其ハ海賊ヲ以テ同シ得ルコトアリ。
戰時ニ於テ捕獲免許狀ヲ有スル捕獲私船ハソノ暴行カ敵船ニ對シテ、之行

ハル、片ハ認許サレタル行為ナルヲ以テ海賊行為ニアラス捕獲私船ハ仮令中立國籍ヲ有スルモ海賊船ニアラス然レモ中立船カ雙方ノ交戦國ヨリ捕獲免許状ヲ受ケテ捕獲ヲナス片ハ雙方ノ交戦國ヨリ得タル免許ハ無効ノモノト看做サル、ニ至ル内乱ノ場合ニ未タ交戦國体トシテ認メラレサル叛徒ヨリ捕獲免許状ヲ得タル捕獲私船及内乱ノ場合ニ未ク交戦國体ト認メラレサル叛徒ニ屬スル軍艦ノ如キニ付キテモ在来ノ普通ノ定義ニヨレハ海賊ナルヤ否ヤニ于テ疑ヲ存セサルヲ得ス本國政府ハ之レヲ国内法上ノ海賊トシテ取扱ヒ又他國ニ對シテ國際法上ノ海賊トシテ之レヲ取扱フコトヲ要求セル例アルモ他國ハ此レボノ船舶カ他國ノ船舶ニ害ヲ加ヘサル以上ハ之レヲ海賊トシテ取扱フコトナクソノ他國ノ船舶ニ害ヲ行フルニ及ヒテ始メテ被害船舶ノ所屬國ノ軍艦カ之レニ直接ノ強力手段ヲ加ヘタル例アルモ此ボノ場合ニ於テモ多クハ全然海賊ト全様ニ取扱ハサルモノ、如シ(拙著、内乱ト國際法一。六頁乃至一。八頁参照)余ハ海賊行為ハ凡テノ國民ノ船舶ニ危害ヲ与ヘ万國民ノ敵タル性使ヲ有スヘキモノニシテ政治上ノ目的ヲ以テ特定ノ國家ノ船舶ニ對シテノミ加害行為ヲ行フ船舶ハ海賊船ヲ以テ目スルヲ得ストス。

公海ニ於テ一ノ船舶ノ船員又ハ乗客カ船内ノ船長ガノ復讐ニ着反シテ謀反的行為ヲナシ船舶貨物ヲ左右スルニ至ルハソノ船舶カ公船タルト私船タルトヲ向ハス海賊行為ノ行ハレタルモノトス然レモ船員又ハ乗客カ単ニ暴行ヲナセルノミニテハ未タ國際法上ノ海賊行為ヲナス例ハ船舶カ船長ノ虐待ヲ憤リテ船長ヲ殺シ復讐ノ航海ヲ繞行スル如キ場合ハ殺人罪ヲ犯シタルモノニシテ國際法上ノ行為ノ行ハレタルモノニアラス謀反的行為カ単ニ船長ガノ復讐ニ對スルニ非スレテ船舶自身ニ對スルモノニシテ船舶及ヒ貨物ヲ左右セシトスルヲ目的トスルトキニ於テ始メテ海賊行為カ成立スト云フヘシ。

海賊行為ノ目的物

海賊行為ノ目的物ハ公海ニ於ケル公私ノ船舶及ヒソノ中ノ人若クハ貨物ナリトス元來ノ意義ニ於テハ海賊ハ貨物ヲ得ントスルモノニシテ船中ノ貨物ヲ主タル目的物トナス既ニ他ノ船舶ヲ襲ヒテ貨物ヲ掠奪セハ船舶ヲ沈メ人ヲ殺傷スルボノ暴行ヲ行フト右トニ拘ハラズ海賊クリトス然レモ貨物ノ掠奪カ行為ノ目的ニアラサル場合ニ於テモ現今ノ國際法上海賊タルヲ妨ケサルナリ例ハ船舶ニ停船ヲ命シテ贖金ヲ得ルガノ目的ノタメソノ中ノ人ヲ拉シ去リ又

ハ単ニソノ中ノ数人ヲ殺戮シテ船ヲ去ル場合モ海賊行為タリトス又一船内ノ船員又ハ乗客カ謀反的行為ヲナシテ船舶及ヒソノ貨物ヲ左右スルニ至レルオ
ノ場合モ海賊行為タルコト既ニ述ヘタル所ノ如シ。

海賊行為ノ手段

海賊行為ノ手段ニテシテ無認許ノ暴行ナル件ハ如何ナル種差ノ暴行モ海賊行為ノ手段トナルト云ハサルハカラス 腕力及ヒ兵器ノ力ノ直接ノ行使ナルト之レヲ行フノ威脅ナルト同ハサル所ナリ一船カ他船ヲ威脅シ若シソノ云フ所ヲ拒マハ船舶ヲ沈ムルノ形勢ヲ示シテ強ヒテ載貨又ハ人ヲ渡サシムルトキハ恰モ他船ヲ襲撃シテソノ船員ヲ殺シ依ツテ載貨又ハ人ヲ奪ヘルトキト全シク海賊ノ行為タリトス又船員又ハ乗客カ船舶及ヒ貨物ヲ左右スルカタメ船長ヲ殺シテ自ラ航行シ若クハ船長ヲ威脅シテ航路ヲ変セシムルモ亦海賊タルニ於テ全シトス。

海賊トシルニハ暴行ヲ遂行スルコトヲ要セス例ヘハ他船ニ對シテ攻撃ヲ始メ又ハ攻撃スルツメニ他船ヲ追フ片ハ既ニ海賊行為タリ一任シ海賊行為ヲ行フノ意思ヲ以テ武装セル船舶ニヨリ巡洋スルモノハソノ未ダ暴行ヲ始メサ

ル輩ニ海賊トシテ取扱フヲ得ヘキヤ否ヤハ疑問ノアル所ナリ此場合ニテシテ將來ノ國際法規ヲ確定シテ依令海賊トシテ処罰シ得ストスルモ公海ノ秩序ノ維持上何國ノ軍艦モ公海ニ於ケル予防警察的行為トシテ之レヲ拿捕シ得ルコト、為サ、ルヘカラサルナリ。

海賊行為ノ行ハル場所

國際法上ノ海賊行為ノ行ハル、所場ハ公海ニ限ルトナスヲ通説トナスモ此点ニ付キ反對説アルコト既ニ之ヲ述ヘタリ。

海賊ノ拿捕及ヒ処罰

海賊行為ノ結果殊ニソノ裁判管轄及ヒソノ処罰ニテ一言セシニ多枚説ニヨレハ海賊及ヒソノ船舶ハ海賊行為ニヨリ当然ソノ有シタル国籍ヲ失フトナス此説ハ多枚ノ学者ノ説ク所ナルニ拘ハラス余ハ此ノ如キ國際法規カ確立セルヲ疑ハサルヲ得ス國際法ハ人及ヒ船舶ノ国籍ノ取得喪失ハ原則トシテ之ヲ当該國家ノ國內法ニヨリテ定ムルヲ認ム而シテ諸國ノ國內法上ニ於テ海賊行為ヲ以テ人又ハ船舶ノ国籍喪失ノ原因トスル成文法的又ハ不文法的規則カ確立セリト云フヲ得ス海賊及ヒソノ船舶カ海賊行為ニヨリ当然ソノ国籍ヲ失

トトナスノ言ハ畢竟海賊及ヒ海賊船ハ仮令国籍ヲ有スルモ海賊行為ニ于スル
事項ニ付キリノ所屬國ノ保護ヲ失ヒ其人又ハソノ船舶ハソノ国籍ノ如何ニ拘
ハラス恰モ国籍ヲ有セサルカ如ク何國モ之ヲ処罰シ得ヘキコトヲ不精確ノ言
ヲ以テ言ヒ表ヒセルモナラサルヘカラス今日ニ於テ許多ノ學者カ何國モ海
賊ヲ拿捕処罰シ得ヘキ理由ヲ説明スルニ海賊カ国籍ヲ有セサルコトヲ以テス
ルハ誤謬モ亦甚シト云ハサルヘカラス海賊ニ付キ何國モ拿捕及ヒ処罰ヲ行ヒ
得ルコト國際法上確立セリトセハ是レ海賊カ万国国民ノ故タルノ理由ニ基キ特
ニ此事項ニ于スル國際慣例ヲ生シタルニ因ルモノナラサルヘカラス海賊カソ
ノ人又ハ船舶ノ国籍ノ如何ニ拘ハラス之レヲ拿捕シ得ヘキコトニ付キテハ何
人モ異論ナキモ之ヲ処罰シ得ヘキヤ否ヤニ于テハ肯定説ノ學說上左ク行ハ
ルニ拘ハラス近來之レヲ疑フノ説ヲ生スルニ至レリ拿捕國処罰セサル際引
渡ヲナスノ義務アリトスル説アルモ國際法上未ク定ミレル所ニアラス(一八
六八年ノ白耳義犯罪人引渡法ハ海賊ノ國際法上引渡スヘキモノニアラサルヲ
定ム是レ拿捕國カ処罰ヲ有スルコトヲ故提トスルモノナリ)
海賊ハ何國ノ軍艦モ之レヲ拿捕シ得ヘキコトハ學說ノ一致スル所ナリ軍艦

以外ノ公船又ハ私船モ拿捕ヲ行ヒ得ヘキヤ否ヤニ于テ談論アリ普通説ハ公
私船ノ區別ナク拿捕ヲ行ヒ得ヘシトナスニアリ而シテ多數ノ學者ハ海賊船ハ
國際法ノ保護ノ外ニ立ツモノナルコトヲ以テソノ理由トナス之ニ對シテ軍艦
ノモカ拿捕ヲ行ヒ得ヘシトナスノ説アリ思フニ自ラ海賊ノ攻撃ヲ受ケタル場
合又ハ海賊ノ他船ヲ攻撃スルヲ回撃セル場合ニ於テハ私船又ハ軍艦以外ノ公
船モ海賊ヲ拿捕シ得ヘキヲ認メサルヘカラスモ此ガノ船舶ハ海賊ニ于テ
軍艦ニ認メラルル臨檢ノ権利ヲ有セサルヲ以テ單ニ嫌疑アル場合ニ海賊ヲ拿
捕スルコト實際ニ於テ不能ナリト云ハサルヘカラス。
海賊ヲ拿捕シ得ヘキ場所ハ公海又ハ軍艦所屬國ノ領海ナルヘキモ或ハ公海
ニ於テ追跡ヲ始メタル中他國ノ沿岸海ニ於テモ之ヲ追跡シ得ヘキヲ認ムル
學者アリ此ガノ學者モ此場合ニ裁判管轄ハ沿岸國ニ屬スヘク拿捕ヲナセル軍
艦ハ海賊船ヲ沿岸國ニ引渡サ、ルヘカラスアルヲ認ム余ハ海賊ヲ他國ノ領域内
ニ於テ拿捕スルヲ得ルニハ特別ノ合意ヲ要スルトナス。
昔時ニ於テ海賊ハ拿捕者カ直ニ之ヲ帆架ニ懸ケテ絞殺シテ海ニ投スルノ
例ナリシカ今日ニ於テハ抵抗ニヨルホ止シテ得スレテ殺戮スル場合ヲ除キテ

ハ戈判所ノ戈判ヲ受ケシムルヲ引致セサルヘカラサルコト認メラル海賊行
為ニ對スル処罰ノ程度ハ之レヲ戈判スル國ノ国内法ニヨリテ定マル。

各國ノ軍艦カ公海ニ於テ交通ノ安全ヲ確ムルタノ海賊ノ嫌疑アル商船ヲ臨
檢スルヲ得ヘキハ既ニ述ヘタリ。

海賊ノ拿捕ノ際ソノ船舶及ヒソノ船中ノ貨物ノ処今如何ニテ議論アリ
タリ十七世紀ノ間諸國ノ慣行ハ船舶及ヒ貨物ヲ拿捕者ニ賞与トシテ与ヘタリ
然レモ十八世紀ノ間ニ海賊行為ハ所有者ヲ變セストナスノ原則漸ク認メラレ
今日ニ於テハ船舶貨物ハソノ正当ノ所有者ニ回復スヘシトナス但シ一定ノ割
合ノ謝金ヲ拿捕者ニ与フヘキヲ国内法ヲ以テ定ムルヲ得ヘキナリ所有者不明
ナルカ海賊リ所有者ナル片ハ普通拿捕國カ船舶及ヒ貨物ヲ没収シ得ヘキヲ認
メラル此場合ニ拿捕ヲナセル船舶ノ乗員ニ賞与ヲ与フヘキヤ否ヤハソノ国内
法ヲ以テ定ムヘキ所ナリ。

海賊ハ國際法上何國ノ軍艦モ之ヲ拿捕シ得ヘク且ツ普通説ニヨレハ何國モ
之ヲ処罰シ得ヘキヲ以テ國際犯罪ノ名ヲ与フルコトアリ但シ國際的犯罪タル
海賊ハ國際法上ノ海賊ニシテ單純ナル国内法上ノ海賊ヲ含マサルナリ。

国内法上ノ海賊

一國ノ国内法上ニ於テ海賊ト称スルモノ即チ国内法上ノ海賊ハ必スシ國際
法上ノ海賊ニアラス例ヘハ英國ノ国内法ハ戰時海上ニ於テ敵ニ援助ヲ与フル
英國臣民又ハ公海ニ於テ奴隷ヲ運搬スル英國臣民ハ海賊トナスモ是レ国内法
上ノ海賊ニシテ國際法上ノ海賊ニアラス一國ハ公海ニ於ケル國際法上ノ海賊
ニアラサル外國臣民ヲソノ国内法上ノ海賊タルノ故ヲ以テ海賊トシテ取扱フ
ヲ得ス國際法上ノ海賊カ他國ノ國籍ヲ有スルモ自國戈判所ニテ必ス処罰ヲ行
フ國ニ於テハソノ国内法上ノ海賊中犯罪人引渡ノ目的トナルモノアルヘキモ
國際法上之海賊ノ性質ヲ有スルモノハ犯罪人引渡ノ目的トナラストナス。

第十四章 個人及ヒ國籍

國籍ノ着念及ヒソノ國際法上ノ效果

國家ハソノ成立ノ要件トシテソノ國家ニ屬スル人民ノ存在ヲ要ス一國家ニ
屬スル個人ハソノ國家ノ臣民ニシテソノ國家ノ國籍ヲ有ス。

個人ノ國籍ハソノ一定ノ國家ノ臣民タル資格ヲ表スルモノナリ現今ニ於テ

ハ國籍法ハ未ク一國ノ國籍ノ取得喪失ノ條件ヲ一定スルニ至ラサルヲ以テ原則トシテ各國ノ國內法ニヨリソノ國ノ國籍ノ取得喪失カ定ムルナリ各國ノ國內法ノ立法ノ主義必スシモ一定セサルノ結果トシテ國籍ノ消極的抵觸（無國籍人ヲ生スル場合）又ハ積極的抵觸（複國籍人ヲ生スル場合）ヲ生スルヲ免レヌ。

國籍ノ國際法上ノ效果ノ第一ハ之レヲ有スル個人ニ對スル國籍所屬國ノ主權ノ行使ヲ他國ヲシテ認メシムルコトナリ此結果トシテ一國ノ國籍ヲ有スル個人ハ假令他國ニアルモ本國ノ命令ヲ受クルコトヲ認メテ該個人ノ所在國モ之レニ對シテ強制的ニ自國ノ國籍ヲ強フルヲ得ヌ又ソノ本國ノ兵役ニ就クオノタメ本國政府ノ命令ニ恣レテ帰國スルヲ得ヌ又之レヲ強制シテ所在國ノ兵役ニ就カシムルヲ得ヌ（但シ外國人ト昂尼社會ノ安寧若クハ秩序維持ノタメニ之レヲ使用スルヲ得）本國ハ亦ソノ臣民ノ外國ニ於テ行フ婚姻又ハ外國ニ於テナス遺言ノ本國法上有效ナルヲノニ必要トスル條件ヲ定メ其臣民ノ外國ニ於テ犯シタル犯罪ヲソノ帰國后処罰スルヲ得ルナリ。

國籍ノ國際法上ノ效果ノ第二ハ國籍ヲ有スル個人ヲシテ外國ニ對スルソノ

本國ノ保護ヲ下ニ立タシムルモノトス個人ハ國際法上ノ主權主体タルヲ得サルヲ以テ國家ヲ經由シテ始メテ國際法ニヨリ利益ヲ受クルヲ得ルナリ一國家ハ自國ノ國籍ヲ有スル個人ヲ保護スルノ國際法上ノ權利ヲ有シ個人ハ國家ノ保護ニヨリ國際法ノ間接ニ与フル利益ヲ享クルニ至ル無國籍人ハ之ヲ他國ニ對シテ國際的ニ保護スヘキ國際法上ノ權利アルモノナキヲ原則トス保護民及ヒ事實上ノ臣民ニテハ既ニ之ヲ違ヘタリ。

國籍ノ國際法上ノ效果ノ第三ハ國籍所屬國ハ終局ニ於テ自國ノ國籍ヲ有スル者ヲ自國領域内ニ收容スルコトヲ外國ニ對スル國際法上ノ義務トナスコトナリ一國ハソノ臣民ヲ領域外ニ追放スルヲ得ヌト去コト能ハサルモ他ノ總テノ國カソノ領域内ニ住ハシムルコトヲ許セサル個人ハソノ本國（國籍所屬國）カ之ヲソノ領域内ニ收容セサルヲ得ヌ。

國家ハソノ國內法ニヨリソノ國籍ヲ有スル一個人ノ國外ニ移住スルヲ禁スルヲ得ルモ移住ヲ許スヲ常トス本國ハ移住ニ對シテ制限ヲ附スルヲ得ヘキナリ又本國ハ移住ニヨリ國籍ヲ喪失スルコトヲソノ國內法上定ムルヲ得ヘキナリ然レモ多クノ場合ニ於テ移住ニヨリ國籍ヲ喪失セシメサルナリ。

国籍ノ取得喪失ハ現今ニ於テハ特別ノ条約ナケレハ各國ノ国内法ニヨリ定
コルヲ原則トストモ凡ソ国籍ハ國際法上重大ナル效果ヲ有スルヲ以テ国籍ノ取
得喪失ノ大要ヲ説クヘシ。

国籍ノ取得

国籍取得ノ原因ハ出生左義ノ帰化併合割譲ガナリ

出生ニヨル国籍ノ取得ニ于テ主義ハ之ヲ四ニ別ツテ得

(1) 純粹ナル血統主義即チ出生地ノ内國タルト外國タルトニ論ナク常ニ父
母ノ国籍ニヨリ子ノ国籍ヲ定ムルモノ(独逸、瑞西)。

(2) 純粹ナル出生地主義即チ父母ノ国籍ノ如何ニ拘ハラズ出生地ノ国内ナ
ルハ之ヲ内國人トシ國外タルハ之レヲ外國人ト定ムルモノ(アルヘ
ンチナ)。

(3) 出生地主義ヲ原則トシテ血統主義ヲ加ヘタルモノ例ハハ出生地ニヨリ
国籍ヲ定ムルヲ原則トスルモ自國人ノ外國ニ於テ生メル子孫ニ付キ血統
主義ヲ加味スルモノ(英、米)。

(4) 血統主義ヲ原則トシ國內ニ於テ生マル、子ニ付キ多少出生地主義ヲ加

ハタルモノ(仏、白、和、丁、瑞典、露、伊、西、我、國)。

左義ノ帰化ハ狭義ノ帰化即チ個人ノ国籍取得ノ志望ヲ有シ且ツ法定ノ条件
ヲ備フル場合ニ國家ノ許スル国籍取得ノミナラス法律ノ規定ニヨル取得ヲ
含ム法律ノ規定ニヨル取得中ニハ更ニ婚姻認知(入夫婚姻養子縁組)オ、親
族子孫ニ基テ取得及ヒ住所ノ取得官吏ノ任命オ、他ノ子孫ニ基テ取得ヲ含ム
左義ノ帰化中ニハ又狭義ノ帰化ト法律ノ規定ニヨル取得トノ中間ニ位スル選
擇ニヨル国籍ノ取得ヲモ含ム(例ハハ自國內ニ生レタル外國人ノ子ハ外國人
トナスモノノ成年トナリタル片ソノ国籍ヲ選擇スルヲ許スノ義)。

狭義ノ帰化ハ国籍ヲ取得スル個人ノ国籍取得ニ于テスル志望ヲ条件トシテ國
家ノ許スルモノトス帰化ノ条件ハ各國ノ國法ニヨリテ全シカラズ普通國內
ニ若干年ノ住所ヲ有スルコトヲ条件ノ一トス(我國ハ五年)(英國ノ「デニゼー
ション」ハ住所ヲ要セス)又或ル國ノ国内法ニヨレハ帰化ノ際未ダ故國ノ国籍
ヲ喪失セザレバ故國ノ領域内ニ在ル間ハ自國人ト見做サ、ルヲ定ムルコト
アリ(英國)帰化ノ效果ハソノ專及ヒ未成年ノ子ニ及ブラ常トス。
狭義ノ帰化ノ一種ニ復帰化ナルモノアリ是レ故ニ一國ノ国籍ヲ有シ帰化婚

姻オ、原因ニヨリ国籍ヲ喪失セルモノカ再ヒ旧国籍ヲ取得セントスルニ當リ
 ナサル所ニシテ普通ノ帰化ヨリ通常条件ヲ尚易（例ハ住所ヲ有スルヲ要
 セサルホ）ニセリ。
 国家併合及ヒ領土割譲ノ場合ニ於ケル国籍ノ取得ニテハ既ニ故ニ速ハ
 アリ。

国籍ノ喪失

- 国籍喪失ノ原因トシテ国内法ノ認ムルモノ種々アリ
- (1) 外国ノ国籍ノ取得。結婚帰化オノ一定ノ原因ニヨリ外国ノ国籍ヲ取得
 セル者カ当然本国ノ国籍ヲ喪失スルヲ定ムルモノ。
 - (2) 併合及ヒ割譲。併合及ヒ割譲ノ場合ニ于シテハ既ニ速ヘタリ。
 - (3) 外国ノ国籍ノ選擇。法律ノ規定ヲ以テ一定ノ条件ヲ備フル個人カ外国
 ノ国籍ヲ選擇スルノ宣言ヲナスコトニヨリラ国籍ヲ喪失スルヲ認ムルモ
 ノ（英國ハソノ領土内ニ生レタル外國人ノ子ヲ英國人トナスモ成年トナ
 リテ右外國人タル宣言ヲナスヲ得セシム）。
 - (4) 連続セル外国ノ居住。一定ノ期間連続シテ外国ニ滞在スルハ国籍ヲ

喪失スヘキヲ定ムルモノ（独國ニ於テハ国籍ヲ確保スル手續ヲナサズシ
 テ外國ニ十年滞在セハ本國ノ国籍ヲ失フ）。

- (5) 国籍ノ解除。国籍ヲ有スル個人ノ国籍喪失ニ于スル志望ヲ有スルニ對
 シテ國家カ特ニ之ヲ許スモノ（獨乙）。
- (6) 国籍ノ剝奪。国籍ヲ有スル個人ノ或ル行為ニ對スル結果若クハ制裁ト
 シテ生ズルモノ（獨乙ニ於テハ許可ナクシテ外國ノ國務ニ付キ之ヲ去ル
 ヘキ明カナル命令アルモ之ニ從ハサルハ又ハ戰爭ニ際シ明白ナル命令ア
 ルニ拘ハラズ本國ニ歸ラサルハハ国籍ヲ剝奪スブルガリア爲脈伊太利和
 蘭葡萄牙西班牙ボニ於テモソノ国籍ヲ有スル個人カ君主ノ許可ナクシテ
 外國ノ文武ノ勤務ニ從事セルハハ国籍ヲ剝奪ス）。

国籍ノ抵觸

國際法ハ併合及ヒ割譲ノ場合以外ニ於テハ未ダ国籍ノ取得喪失ニ付キ明定
 スル所ナク各國ノ国内法ノ定ムル所ニ委テ而シテ各國ノ国内法ハ區々ノ規定
 ナナスヲ以テ国籍ノ積極的抵觸（複国籍）又ハ消極的抵觸（無国籍）ヲ生
 スルヲ免レス。

国籍ノ積極的抵觸ノ原因ハ種々アリ出生ニヨル国籍抵觸ハ純粹ナル出生地主義ノ法制ト純粹ナル血统主義ノ法制トノ間ニ生ズルノミナラス折衷的ノ主義ノ法制ノ間ニモ生ズ仮令ハ他國ニ出生シタル我國人ノ他國ニ於テ生ズル子又他國人トノ婚姻ニヨリ自国籍ヲ喪失スルヲ認メサル國(例ハハヴェチズエーラ)ノ女子カ自國ノ男子トノ婚姻ニヨリ国籍ノ取得ヲ認ムル國(例ハ我カ國)ノ男子トノ婚姻スルハ積極的抵觸ヲ生ズソノ他認知選擇ホニヨリ積極的抵觸ヲ生ズルコトアリ然レモ積極的抵觸ノ生ズル最モ者シキ場合ハ狹義ノ歸化ノ場合トス。

国籍ノ積極的抵觸ノ場合ニ於テハ二以上ノ國家カ全一ノ個人ニ對シテ主權ヲ主張スル場合ヲ生シ國際ノ紛議ノ原因トナルコトアリ一八六八年「バンク」ロフト」条約締結以テ普魯西人ノ兵役ヲ終ヘスシテ合衆國ニ歸化シ更ニ普魯西ニ歸レルモノニ於テ普魯及ヒ合衆國間ニ紛議ヲ生シ遂ニ該條約ノ締結ヲ見ルニ至レリ「バンク」ロフト」条約ニヨレハ締約國ノ一方ノ臣民カ他方ニ歸化シ五年間引續キテ歸化國ノ領域内ニ在住シタル片ハ一方ノ國モ亦之オノ者ヲ歸化國ノ臣民トシテ認ムヘク此オノモノハソノ生國ニ歸レル片移住故ニ行ハル

犯罪ニ于シテノミ処罰ヲ受クヘク移住ニヨル犯罪(主トシテ徵兵忌避)ニ付キ責任ヲ負フコトナシトシ歸化國ニ歸復スルノ意思ナクシテ生國ニ住所ヲ定ムル片ハ歸化ヲ放棄セルモノト看做スヘシトス而シテ一方ノ歸化人カ生國ク他方ノ領土ニ二年以上滞在スル片ハ歸化國ニ復歸セサルモノト看做シテ歸化ノ效果ヲ認メサルヲ得ルトナス。

国籍ノ積極的抵觸ニ于シ今日ニ於テ条約ヲ待タズシテ国内法上ニ於テ予防方法ヲ設クル國ナキニアラス、タトヘハ歸化婚姻ホニヨリ他國ノ国籍ノ取得ヲナス片ハ自國ノ国籍ノ喪失ヲ認メ(英)又ハ他國ノ国籍ヲ失ハサルモノハ歸化婚姻ホニヨリ自國ノ国籍取得ヲナシ得サルヲ定ム(我國歸化ニ付キ)ルカ如キ是レナリ自國ノ歸化人カ歸化ノ際既ニ旧国籍ヲ喪失シタリシニ非サルハ歸化故ニソノ国籍ヲ有シタル國家ノ領域内ニ滞在スル間ハ歸化ノ效果ヲ認メストナシ歸化ノ效果ヲ制限シテ故國トノ紛議ヲ避ケントスルアリ(英)然レモ国内法上ノ国籍抵觸又ハソノ結果ノ予防方法ハ諸國ノ悉ク採用スル所ニアラサルヲ以テ抵觸ヲ全ク防クヲ得ズ積極的抵觸ヲ根絶スルコトハ之ヲ各國ノ一般的ナル國際條約ニヨリ各國ノ国内法ニ於テ定ムヘキ国籍ノ取得喪失

条件及び抵触予防方法ヲ一定スルノ目ニ待タサルヘカラス。

国籍ノ消極的衝突ニモ種々ノ原因アリ時ニ出生ニヨリ生スルコトアリ（純粹ノ血統主義ヲ採ル國ニ生レタル無国籍人ノ子）又出生後ニモ婚姻ノ国籍剝奪ノ籍解除等ニヨリ旧国籍ヲ失ヒテ新国籍ヲ得サルカタノ生スルコトアリ（我カ國ノ女子カ國籍ヲ有セサル人又ハ南米諸國和蘭ルーツコニヤ人ト婚姻スル場合）国籍ノ消極的抵触ノ場合ニ生スル無国籍人ハソノ所在國ノ処置ニ對シテ何國ノ國際的保護ヲ受ケサルヲ原則トス。

消極的抵触ハ國際紛議ヲ生スル憂少ナク且ツ國際法上ソノ所在國カ無国籍人ニ對シテ歸化ヲサレハ追放スルギノ処置ヲ取リ得ルノミナラス更ニ進ンテ之ニ各自ノ意思ニ拘ハラズ自國籍ヲ強フルコトヲモナシ得サルニアラサルヲ以テ抵触ヲ去ルノ方法ニ于テ積極的抵触ノ場合ニ比シテ困難ノ點少ナキモ無国籍人ヲ生スルハ國際法上國內法上共ニ望ミ難シカラサル現象ナルヲ以テ一般の条約ニ於テ此點ノ予防方法ヲモ講スルヲ可トス。

第十五章 外国人ノ入國及ヒ追放

外国人ノ入國

或ル學者ハ所謂國際相互交通权ナル基本の權利ノ結果トシテ各國家ハ正當ナル目的ノ下ニ外国人ノソノ領域ニ入ルヲ禁セサルノ義務在リトス然レモ個人ノ交通ニ于テ所謂國際相互交通权ナルモノハ之カ存在ヲ認ムルヲ得ナルコト既ニ之ヲ述ヘタリ國際法上ニ於テハ特別ノ条約ナキハ一國家ハソノ臣民ノ他國家ノ領域ニ入ルヲ許ス事ヲ他國家ニ強制スルノ權利ナシトス如何ナル國家モソノ領土内ニ於テ主權ヲ行フヲ認メラル、結果條約ニ反セサル以上ハ外國人即チソノ国籍ヲ有セサル者ニシテソノ入國カ自國ニ不利益ナリト認ムルモノ、ソノ領域内ノ全部又ハ一部ニ入ルヲ禁スルヲ得サルヘカラス但シ現今ニ於テハ國際的共存生活ノ必要上國際団体内ノ國家ハ總テ、外國人ニ對シテ領域ヲ鎖スコトナク又條約ナキモ特ニ或ル國人ノミノ入國ヲ禁スルトキハ國際禮讓ニ反スルト認メラレ又特定ノ個人ニ至リテモ正當ノ理由ナクシテ之レカ入國ヲ禁スルハ國際禮讓ニ反スルト認メラル、ナリ而シテ現今ニ於テハ各國ハ通商條約ニ依リ相互的ニ正當ナル目的ノ下ニソノ外國人ノ入國ヲ禁セサルノ義務ヲ負フヲ常トス。

此ニ附言スヘキハ國家ハ國際法上條約ナケレハ外國人ノ入國ヲ禁スルヲ得
ヘキモ國際法上無害通行^行ヲ認メサルヘカラサル水域ニ外國人ノ單ニ通行ノ目的
ノクメニ入ルコトハ之ヲ禁シ得ルノ限ニアラサルコトナリ。
一國家ハ外國人ノ入國ヲ拒絶スルヲ得ヘキヲ以テソノ入國ニ制限ヲ附シ得
ヘキハ言テ僕タス露國ニ於テハ放券ナケレハ外國人ヲ入國セシメス又猶太教
徒ノ外國人ハ一定ノ制限ヲ受ク濠洲ハ外人ノ來住ニ對シ語學ノ試験ヲナスノ
條件ヲ附ス合衆國ハ一八九一年ノ法律ヲ以テ三十歳以上ヲ攜帶セサル外國勞
働者ノ入國ヲ禁ス(支那人ニ對シテハ一八八〇年ノ條約ニヨリ來住ヲ制限シ
一八八八年ニハ一旦帝國セル支那人ノ再來ヲ禁シ且ツ二十年間支那人ノ移住
ヲ禁シ今日モ此禁止ヲ継続ス)。

國家ハソノ領域ニ於テ主權ヲ認メラル、結果ソノ領域内ニ入レル外國人ハ
本國ニ對スル犯罪アルモ引渡ヲ受ケサレハ本國モ之レヲ処罰スル能ハス然ル
ニ特別ノ均等ナキ片ハ國家ガ外國ノ処罰ヲ免レントスル外國人ノ入國ヲ禁ス
ルノ義務ナク又入國台之カ引渡ヲナスノ義務モナキヲ以テ此ニ於テ一國ノ領
域ハ或ル種ノ外國人ニ庇護ヲ与フル結果ヲ生ス或ハ庇護ヲ受クルノ権利ナル

特別ノ権利カ庇護ヲ受クル個人ノ権利トシテ存スルトナスモノアルモ誤レリ
個人ハ國際法上ノ権利主体タルヲ得サルノミナラス庇護ヲ与フルヤ否ヤハ國
家ノ自由ニ決定シ得ヘキ所ナリ但シ國家ハソノ庇護ヲ与ヘタル者カ他國家ノ
安全ニ危害ヲ与フルコトヲ防クタメニ相當ノ処置ヲ(例ハ監視ヲナス必要
アレハ拘留ヲナスホノ処置)ヲナス義務アリトス。

入國台ノ外國人ノ地位

一國ノ領域内ニ入レル外國人ハ治外法權ヲ有スルモノニアラサレハソノ國
家ノ領域内ニ行ハル、法權ノ下ニ立ツニ至ル故ニ此ガノ外國人ハ所在國ノ行
政權及ヒ裁判管轄權ノ下ニ立テソノ國ノ臣民トシテ行政上ノ命令及ヒ処分
ニ服シ民事及ヒ刑事ノ訴訟ノ原告又ハ被告トナルナリ然レモ國際法ハ外國人
カソノ本國ニ對スル身上ノ子係ヨリ全時ニ本國ノ主權ニ服スルコトヲ認ムル
ヲ以テ駐在國ハ外國人ニ要款スルニソノ臣民ノ如ク一身ヲ奉ケテ自國ノ公ニ
奉スルヲ以テスルヲ得ス從テ義務トシテ海陸軍ノ兵役ニ服セシムルヲ得ス
又特別ノ事由アルニアラサレハソノ領域ヲ去ラントスルヲ妨クル能ハス又ソ
ノ領域ヲ出ラントスルニ當リソノ所有財産ヲ携ヘ去ルヲ禁シ若クハ此ノ如キ

財産ニ対シテ特ニ課税スルヲ得ヌ又ソノ自他及ヒ財産ノ安全ニ于テ自國人ノ如ク國家ノ欲スル所ノ取扱ヲナスヲ得ヌ從テ外國人ヨリ自他財産ノ安全ニ于テハ内國人ト全様ノ保護ヲ与ヘサルヘカラサルモ内國人ニ充分ノ保護ヲ与ヘサル場合ニ於テ内國人ト全様ノ保護ノミヲ以テ充分ナリトセシテ秩序ナル普通ノ社会ノ与フル程度ノ法律上ノ保護ヲ与フルノ責任アリ但シ自他財産ノ安全ニ于テ保護以外ノ事項ニ於テハ外國人ニ内國人ト全様ノ利益ヲ与フル必要ナキニテナラズ特ニ外國人ヲ内國人ヨリモ不利益ノ地位ニオクコトヲ得例ヘハ一定ノ職業ヲ外國人ニ禁シ不動産ノ所有ヲ外國人ニ禁シ外國人ノ監視ノタメ登録ヲ強フルガコトヲナシ得然レモ輓近政治上ノ權利義務以外ニ於テハ法律上外國人ヲ内國人ト全オニ取扱フノ主義各國ニ行ハルノ傾向アリ又土耳其支那ソノ他ノ東洋諸國ニアル外國人ノ條約又ハ慣例ニ基キソノ本國ノ法救ノ下ニ立ツナリ此点ハ領事裁判權ヲ説クニ當リテ詳述スヘキナリ。

一國家ハ外國ニアル臣民ヲ保護スルノ國際法上ノ權利ヲ有スルヲ以テソノ臣民カ駐在國ニ於テ駐在國自他ノ加害ヲ如ハタル場合ニ於テ之オノ被害ニ對

シテ駐在國ガ救正ノ手段ヲ与ヘサルハ國籍ヲ有スルモノヲ保護スル權利ニ基キ駐在國ノ責任ヲ問フヲ得ヘキナリ。

外國人ノ追放

外國人ノ追放トハ既ニ一國家ノ領域内ニ在ル外國人ヲ強ヒテ領域外ニ去ラシムル行政処分ナリトス今日ニ於テハ一國家ハ條約上又ハ國內法上ノ制限ナキ以上ハツ、駐在ラ不利益ト認ムル所ノ外國人ヲ領域外ニ去ラシムルヲ得ヘキナリ故ニ犯罪ヲナセル外國人ノ浪浪の生活ヲナス外國人オヨ追放シ得ヘキコト勿論ナリ但シ正当ナル理由ナクシテ外國人ヲ追放スルハ外國人ノ本國ニ對スル非友誼的行為ニシテ國際禮讓ニ反スルモノト認メラル。

第十六章 犯罪人引渡

概論

犯罪人引渡トハ外國法ヲ犯セル犯罪人ノ現ニ居ル國ノ政府カ犯罪人ヲ外國(多クハ場合ニハ犯罪ノ行ハレタル國)ノ政府ノ請求ニヨリ訴追又ハ処罰ノため引渡スコトヲ去フ。

或ル論者ハ一國ハソノ国内法上犯罪人ト認ムルモノ、逃レテ他國ノ領域内ニ入りタル場合ニソノ引渡ヲ請求スルノ権利アリトナス此種ノ論者ハ或ハ曰ク犯罪時ニ重罪ハ或ル一國ニ於ケル命令ノ違反ナルノミナラス社会的生活ノ基礎ヲ動搖シ害毒ヲ人類全体ニ及ボスモノナルヲ以テ苟クモ人タル者ハカキ之カ鎮圧ニ借サハルヘカラスト或ハ曰ク各國ハ犯罪ヲ防遏スルニ付キテ自己ノ利益ヲ有スルソ犯罪者ニシテ一タヒ逃レテソノ領域外ニ出ツレハ即チソノ処罰ヲ免ル、コトヲ得ルハ犯罪ハ益々ソノ救ヲ増加スヘシ而シテ一國カ自國ニ犯罪人ノ引渡ヲ得ント欲セハ必スヤ他國ノ引渡ノ請求ニ応セサルヘカラスト右ノ説ハ他國ノ利益タルヘキ犯罪人引渡ヲサハ之ヲ行フ國モ間接ニ利益ヲ得ヘキコトヲ説クモノナルモ是レ毫モ犯罪人引渡ヲナスノ義務ノ存在ヲ証スルモノニアラス故説ハ國際法カ社会生活ノ基礎ニ付シテ重大ナル危害ヲ与フル事項ヲ防遏スルカタノニ人災ノ快カスヘキコトヲ命ストナスモノナリ然レドモ此説タルヤ現実ノ國際法ノ實際ニ及スルモノナルコト明カナリ現ニ各國ハ犯罪人引渡ノ問題ニ付シテ当然之カ引渡ヲナスヘキ義務アルヲ認メサルナリ条约ニ基カスレテ犯罪人ヲ引渡シタル例ハ稀ナリト云ハサルヘカラス

假令条约ナキ場合ニ之カ引渡ヲナスモ是レ引渡ノ義務ヲ認メテ之レヲ行フニアラスレテ引渡ヲ要スル國ニ對スル好意ノタメニ之ヲナスモノトスルヲ常トス故ニ現実ノ國際法ノ議論トシテハ犯罪人ヲ引渡スノ義務ハ引渡条约ヲ商レテ一般國際法ノ原則トシテ存スルコトナキモノト云ハサルヘカラス

往時國家機子ノ組織統一ヲ欠キ殊ニ司法警察ノ制度完備セサルハ當リテハ犯罪ノ容易ニソノ踪跡ヲ晦マシ得タリ故ニ犯罪人ノ處罰ヲ受ケサルモノヨク犯罪人ノ外國ノ領域内ニ逃亡スルニ及ヒテハ之レヲ捕縛シテ処罰スルカ如キハ不可能ト思惟サレタリ故ニ犯人引渡ノ事多ク行ハレス近時ニ於テ吾界交通ノ便利ヲ加ヘタル事實ハ一方ニ於テ犯人ノ搜索ノ便宜ヲ加ヘ他方ニ於テハ適々以テ犯罪人ヲシテ犯罪ヲ行ヘル國ヨリ容易ニ他國ニ逃避セシムルノ趨キカヲ致セルヨリ各國ハ之カ引渡ヲ求ムル事ノ必要ヲ感シソノ結果條約ヲ以テ一定ノ犯罪ヲナセルモノヲ一定ノ条件ヲ付シテ引渡スヘキコトヲ相約スルニ至レリ現今ニ於テハ此ホノ条约ニヨリ政事犯罪以外ノ重罪ヲ犯シタル者ヲ犯罪人所在國カ罰セサル場合ニ於テ処罰ヲナサントスル國ニ引渡スヲ常トスルニ至レリ然レモ十八世紀以前ニ於テハ常事犯罪人ノ引渡ハ殆ント行ハレス唯時

ニ政事上ノ逃遁者要致信者又ハ楊住者ヲ条約ニ基キ又ハ(條約ナキモ)任意ニ引渡セルコトアリタリナハ古紀ニ入リテ政治上ノ逃遁者陰謀者軍隊逃走者オ、ヒナラス常事犯人ヲモ引渡スコトヲ相互的ニ約スルノ条約比隣國ノ間ニ屢々結ハレタリ十九世紀ニ入り古界交通ノ便利開ケルニ及ヒ比隣國ノミナラズ遠隔ノ國家トモ犯罪人引渡ニ于スル条約ヲ結フノ必要ヲ生シ今日ニ於テハ國際団体ノ易救ノ國ハ他ノ許多ノ國ト犯罪人引渡条約ヲ結フニ至レリ然レトモ此オノ引渡条約ハソノ内容ノ科目ニ於テ差異アルヲ免レス。

或ル國ニ於テ犯罪人引渡法ナル特別ノ國內法ノ規定ヲ定メテ引渡ヲ認許シ又ハ要救スヘキ罪種及ヒ引渡手續ヲ一定シ以テ外國ト犯人引渡条約ヲ結フ際ニ於ケル準據トナス國內法ニ於テ犯罪人引渡法ヲ存セス又憲法上及テノ規定ナキ以上ハ一國政府ハソノ適宜ト認ムル所ニヨリ外國ト犯罪人引渡条約ヲ結フヲ得ヘク又引渡条約無キモ適宜ト認ムレハ引渡ヲナスヲ得ヘキナリ。

犯罪人引渡ヲ請求スル國ハ普通犯罪ノ行ハレタル土地ヲ有スル國家ナリトス引渡ノ目的タル犯罪人ヲ引渡ヲ請求スル國ノ臣民タルコトアリ引渡ヲ請求サルノ國ノ臣民タルコトアリ第三國ノ臣民タルコトアリ引渡ヲ請求サルノ國

ノ臣民ハ之カ引渡ヲ認ムル國ト否トアリ歐洲大陸諸國ハ自國臣民ヲ引渡サ、ルノ主義ヲトリ英米ハ之ニ反シテ自國臣民ヲモ引渡スコトアリ此点ニ付キ別項ニ於テ述ツヘシ。

國家ハ犯罪人引渡法ノ制限ナキ以上ハ如何ナル犯罪ニテモソノ適宜ト認ムル場合ニハ引渡ヲナスヲ得又國家ハ犯罪人引渡条約ニヨリ拘束サル場合ニアラサレハ如何ナル犯罪ニテモソノ不可ナリト認ムル場合ニハ引渡ヲ拒絶シ得ヘキナリ犯罪人引渡法ヲ有スル國家ハ該法ニ遵依シテ犯罪人引渡条約ヲ締約シ引渡条約中ニ引渡ヲ認ムル罪種ヲ明定ス。

凡ソ引渡ハ引渡請求國及ヒ引渡國ノ雙方ノ國內法カ犯罪ト認ムル行為ニ限リテ行ハル又政治犯罪人ハ之ヲ引渡サ、ルヲ原則トス而シテ易救ノ引渡条約ニ於テハ軍隊逃走者及ヒ索救ニ于スル犯罪人モ引渡サ、ルモノトス。

犯罪人引渡ハ他國ノ引渡ノ請求アリ且ツ引渡条約及引渡法ノ規定スル方カ履行サレタル場合ニ限リテ之ヲ行フ引渡ハ犯罪人ヲ引渡國ノ警察ノ手ヨリ請^ル國ノ警察ノ手ニ渡スコトニヨリテ行ハル。

易救ノ引渡条約ハ引渡サレタルモノハ引渡ヲ請求サレ且ツ承諾サレタル犯

罪又ハ少クハ引渡条約ノ列記セル犯罪ニ于テノニ審問処罰セラルヘキヲ定ム若レソノ以外ノ犯罪ニ于テ審問処罰セラルヘキハ引渡國ハ之ヲ爲メニ手覆ヲナスノ権利ヲ有ス。

自國臣民ノ不引渡ノ原則

学説ニ於テハ自國臣民ヲ引渡スヲ不可トスルモアリ然ラサルアリ自國臣民ノ引渡ヲ不可ナリトスル大陸學者ノ多數ノ説ハ一方ニ於テハ自國臣民カ外國ニ滞在申ナル場合ハ自國ノ法扱ノ下ニ立ツモノニシテ外國ニ於テ犯シタル違法行為モソノ法廷ニ於テ審判セラルヘキモノトナシ他方ニ於テハ各國ハソノ自國臣民カ不案内ナル外國法廷ノ手續ヲ踏ミテ公平ヲ得ヘキヲ信賴シ得サル外國ノ法廷ニヨリ裁判ヲ受クルニ委スヘカラヌトナスモノ、如シ然レハ歐洲大陸ニ於テモ所謂世界共通刑罰主義ノ理論ニ基キテ自國臣民不引渡ノ主義ニ對シテ反對ヲナス學者ヲ生スルニ至レリ此種ノ論者ニヨレハ犯罪ノ犯罪タル所以ハソノ行為地ノ如何ニ于係ナク又加害者若クハ被害者ノ国籍如何ニモ全ク于係セス各國ハ自國民カ加害者ニモアラス被害者ニモアラス領域外ノ犯罪ニ付キテモソノ撲滅ニ助力スル義務アリトス而シテ國家カ人類社会ノ利益

ノタシニ負担スル此義務ヲ履行スル方法ニアリ一ハ國家カソノ扱内ニアル犯罪人ヲ自ラ処罰スルコト是レナリ一ハ犯罪人ノ審判又ハ処罰ヲ他國ニ委スルコト即チ引渡ヲナスコト是レナリト歐洲大陸ニ行ハル、訖ハ自國臣民不引渡ノ主義ヲ採ルト之ヲ反對ニ出ツルトヲ向ハス自國臣民カ外國ニ於テ行ヘル犯罪ニ于テ法扱ヲ有シソノ歸國台処罰ヲナシ得ルコトヲ認ムルナリ然ルニ英米ノ法律ノ主義ニ於テハ嚴格ナル屬地主義ヲ採用スルヲ以テ特定ノ場合ヲ除ク、外國ノ領域内ニ於テ犯罪ヲ犯シタル自國臣民カ自國ニ歸來シタル時之レヲ罰スルヲ得ナルナリ英米主義ノ法制ノ國カ外國ニ於テ犯罪ヲナセル自國臣民ヲ引渡スヲ認ムル一ノ理由ハ英米風ノ屬地主義ノ法制ニヨレハ此ノ如キ自國臣民ヲ自國去テ以テ罰スルヲ得ナルヲ以テ引渡ヲナサレハ外國ニ於テ行ヘル自國臣民ノ犯罪ヲ全ク無制戈ニ終ラシムルニ至ルカ爲メナリト云フヘシ然レハ大陸風ノ法制ノ如ク自國臣民ノ外國ニ於テ犯セル犯罪ヲ自國ニ於テ罪スル場合アルヲ認ムル主義ノ法制ニ於テモ自國臣民ノ犯罪人ノ引渡ヲ絶対的ニ認メサルコトヲ主張スルノ理由ニ至シト云ハサルヘカラス(現今ニ於テ自國臣民以外ノモノニ付キテ犯罪人引渡ヲ認ムルハ既ニ或ル程度マテ外國ノ法

律制度及レ裁判所ヲ信用スルカクメナラサルハカラス若シ自國臣民ニ于テ
信用シ得ストセハ第三國民ニ于テモ亦信用シ得サルヘキヲ以テ此レボノ人
ノ為メニモ引渡ヲ認メサルヘキノ理ナリ且ツ或ル犯罪行為ニ適用セラルヘ
キ最も適當ナル法令ハ犯罪地ノ法ニシテ該行為ヲ審判スヘキ最も適當ナル法
廷ハ犯罪地ノ法廷ナリ外國ノ領域内ニ於テ犯シタル犯罪ニ于テ証憑ハ犯罪
地ノ法廷ニ於テ比較的ニ明確ニ得ラルヘキナリ自國臣民タル犯罪人ヲ引渡ス
ハ自國ノ尊嚴ヲ害スルト論スルカ如キハ取ルニ足ラサルノ論ナリ國際法協會
ノ決議セルオツクスフォルド規則中ニ曰ク刑事司法カ美似ノ基礎ヲ有シ且ツ
相互ニ裁判制度ヲ信用スル國ノ間ニアリテハ自國人ノ犯人引渡ハ刑事司法ノ
善良ナル執行ヲ確ムルノ手段タルハ是レ出來得ヘキ大キ犯罪地ノ裁判所ニ
裁判ヲナサシムルコト望マント思惟セサルヘカラサレハナリ然リト雖モ今日
ニ於テハ英米ガノ救國ヲ除キテハ自國臣民タル犯罪人ヲ引渡サ、ル主義ヲ取
ル國實際ニ於テ多數ヲ占ムルヲ認メサルヲ得ス此自國民不引渡ノ原則ハ古來
ヨリ一般的ニ採用セラレタルモノニアラスシテ十八世紀ノ末以來尤モ認メ
ラルハニ至レリ仙國ニ於テハ一八三四年ノ自耳義トノ條約ニ於テ始メテ此原

則ヲ明言シタリ。

政事犯人不引渡ノ原則

十八世紀以後ニ於テハ常事犯人ノ引渡ハ行ハレヌシテ及テ時ニ政事犯人ノ
引渡ヲ見ツリグロウチウスモ政事犯人ノ引渡ヲ是認セリリノ自仙國革命ニ至
ル迄ハ政事犯人ハ常事犯人ト等シク引渡サレタリ然ルニ仙國革命起ルニ及ヒ
一七九三年ノ仙國憲法ハ自由ノタメニソノ本國ヲ追ハレタル外國人ニ庇護ヲ
与フヘキヲ認ムルニ至レリ然レトモ一八三〇年ニ至ルマテハ政事犯人屢々引
渡サレシカ自國主義ノ國ニ於テ輿論カ政事犯人ノ引渡ヲ非難スル甚クシク英
國及ヒ瑞西ハ率先シテ政事犯人不引渡ノ主義ヲトルニ至リ一八三〇年ノ仙國
革命ノ自仙國政府ハ一時凡ソノ犯罪人不引渡ノ原則ヲ立ラント欲スタルモソ
ノ必要ノ程度ヲ越エタルヲ覺リ一八三三年ノ仙瑞間ノ犯人引渡條約ニ於テ常
事犯人ノ引渡スヘク政事犯人ハ引渡サ、ル定メタリ一八三〇年ニハ埃及
ト普ノ二國モ露國ノ波蘭革命ノ逃避者ヲ引渡ヌ要求ヲ拒絶セルカ一八三三年
ニハ却ツテ埃普露三國ハ締約國間ニ於テ互逆罪不敬罪ヲ犯シ又ハ王位若クハ
正当政府ノ安全ヲ危フセント謀リ又ハ謀反ニ于テ与セル者ノ引渡ヲナスヘキヲ

約セリ然ルニ今年自耳義ハ夫ノ有名ナル犯罪人引渡法ヲ定メソノ中ニ明カニ
外國ノ政事犯人ノ引渡ヲ禁シタリ是レヨリ以テ政事犯人不引渡ノ主義ハ左ク
行ハルニ至リ露國ノ如キモ終ニ此主義ヲ認ムルニ至リ一八八八年ノ露西間ノ
条約ヲ除キテハ露國ノ他國ト結フ引渡条約ニ於テ概テ此主義ヲ認メタリ今日
ニ於テハ各國ノ引渡条約ニ於テ此主義ヲ明言スルヲ常トシ偶々此ノ主義ニ于
スル規定ヲ明カニ掲ケサルモ当然此主義ハ認メラルノ趣意トシテ解セテ
ルニ至レリ。

政治犯人ノ不引渡ノ主義ヲ明ニスルヲメニハ政治犯罪ノ何タルヤヲ明ニセ
サルヘカラス政事犯罪トハ特定ノ國家ノ政治的安寧秩序ヲ紊乱スルコトアリ
ノ直接ノ目的トスル進法行為ナリト云フヲ得ヘシ政事犯罪タルコトヲ定ムル
標準ヲ或ハ行為ノ政治的動機ニ求メ或ハ単純ニ行為ノ政治的目的ニ求メ或ハ
単純ニ行為ノ客觀的性質ニ求ムト屈臣氏公時ニ行為ノ政治的目的及ヒ行為ノ客
觀的性質ノ二者ニソノ標準ヲ求メサルヘカラス此ニ注意スヘキハ普通所謂政
治犯罪ハ特定ノ國家ノ政治的安寧秩序ニ對シテ行ハルモノヲ指シ無政府黨
ノ如ク吾界ノ凡テノ國家凡テノ君主ニ對シテ攻撃ノ態度ヲトルモノハ政事犯

罪ヲ以テ論セサルコトナリ此ガハ反社会的犯罪ト稱シ普通犯罪人不引渡ノ主
義ノ適用ノ外ニアリト認メラル。

政事犯人ノ不引渡ノ主義ノ理由トスル所ハ (1) 政事犯人ハ引渡ヲ請求スル
國ノ政治主義ニ反スル目的ヲ有スル行為ニシ却テ引渡ヲ請求サレタル國ノ政
治主義ニ適スル目的ヲ有スルコトアリ得ヘク此場合ニ引渡ヲナスハ自國ノ政
治主義ノ着念上ヨリ不穩當ヲ免レス (2) 然レトモ引渡ノ請求ヲ受ケタル國カ
自國ノ政治主義ニ適スル目的ヲ有スル政事犯人ノ引渡ヲ然ラサル故ニ政治
犯人ヲ引渡ストセハ他國ノ政事ニ于テ不公平ノ地位ニ立ツヲ免レス政事犯
人ヲ一般的ニ引渡サストナスヲ可トス (3) 且ツ犯人引渡ノ左ク國際間ニ認メ
ラルニ至レルハ元來一般的ニ社會ニ害毒ヲ流ス種類ノ犯罪ノ処罰ヲ相互的
ニ確ムルコトカ相互ノ公共利益ナリトスルノ思想ニ基ツク所アリ故ニ現時ノ
引渡条約ハ引渡請求國ト被請求國トノ雙方ノ国内法ニ於テ有罪ト認ムル行為
ニアツサレハ引渡サハルヲ定ム今政事犯罪ハ特定ノ國ノ利害ニ于係スルニ
シテ一般的ニ社會ニ害毒ヲ流ス種類ノモノニ屬セスソノ犯人ノ処罰ヲ確ム
ルコトカ被請求國ノ利益ニ于係アリト云フヲ得詰ヲ換ヘテ之ヲ云ハハ被請求

國ハ此種ノ犯罪ニ依リテ政治的法律利益ヲ侵害セラル、請求國政府ニ犯罪鎮
壓ニ付テ援助ヲ与フル程ニ共合ノ利益ヲ有セサルナリ而シテ請求國ノ政事犯
罪ハ被請求國ニ於テ之ヲ有罪ト認ムルコトナキヲ以テ（于係的政治犯罪ニ于
シテハ右ニ述フ）引渡条約ノ普通取ル所ノ雙方ノ国内法ノ有罪ト認ムル行為
ニテラサレハ引渡サストノ主義ノ上ヨリ云フモ引渡スヘキ性質ノモノニテラ
ス此ニ注意スヘキハ現今ノ國際法上常事犯人引渡ノ國際法上ノ規則カ一般
規則トシテ未タ成立セザルト全シク政事犯人ノ引渡ヲナスコトヲ不法ナリト
スル國際法上ノ規則モ未タ存スルト認メ得サルコトコレナリ故ニ露國カ一八
八八年ニ西班牙ト結ル政事犯人引渡ヲ目的トセル条約ノ如キモ國際法上不
法ナリト云フヲ得サルナリ。

于係的政治犯罪ハ純粹ナル政事犯罪又ハ絶対的ナル政事犯罪ニ對スルモノ
ニテ純粹ノ政治犯罪ヲ実行スル目的ヲ以テ或ル常事犯罪ヲ犯シ若クハ純粹
ノ政事犯罪ノ準備行為トシテ或ル常事犯罪ヲ犯ス場合又ハ自己ノ政事犯罪
ノ妨害ヲ除去スルタメ若クハ政治犯人ヲ庇護スルタメ常事犯罪ヲ犯ス場合
ニ於テヒテ所謂于係的政治犯罪ノ特徴ヲ考クレハ犯人ノ行為ヲ政事犯罪ノ構

成要素ノ外ニ常事犯罪ノ構成要素ヲ有スル場合ニソノ常事犯罪タル部分ヲ実
行スルニ常事犯罪ソノモノ又ハソノ結果ヲ目的トナセルニアラスシテ國家ノ
政治的安寧秩序ヲ紊乱スル目的ヲ以テ実行シタル場合ニ存スルナリ即チ政治
的目的ヲ実行スルタメニ必要ナル手段又ハ準備行為トシテ常事犯罪ヲ犯シタル
場合ニ於テ于係的政治犯罪存スルモノナリ。

于係的政治犯罪ニ于シテモ原則トシテ政事犯罪不引渡ノ主義ヲ適用スヘキ
コト認メラル、モ之ニ于シテ或ル場合ニ例外ヲ認メラル一八五四年仙國ニ於
ケルジュニール・ジャックカンノ十ホレオンニ在リテ殺害セントスル事件アリテ右
自耳義ハ一八五六年ニ至リソノ引渡法ヲ改正シテ所謂自耳義加害條款ナルモ
ノヲ採入シテ之ニヨリ外國ノ元首又ハソノ家族ノ一員ノ身体ニ對スル加害ハ
故殺謀殺又ハ毒殺ノ場合ニハ政事犯罪又ハ政事犯罪ニ于係スル行為ト見做サ
スト定メタリ此條款ハ英國瑞典ヲ除ケル他ノ諸國ノ採用スル所トナレリ（該
條款ハ一方ニ於テ君主ニ對スル加害以外ヲ含マス他方ニ於テ君主ニ對スル加
害ニ付テ政治上ノ目的ニ出ラタルト否トヲ區別セス）一八八一年露國ハマレ
キサンダーニ在リテ殺害アリタル后ブリニツセルニ國際會議ヲ開キテ條約ノ殺

人及び毒殺又ハソノ未遂共犯及ヒ予備ハ政事犯罪ト看做サスシテ引渡スヘキ
 モノトスルノ提案ヲ審議スルコトヲ提議セリ英仙ヲ之ニ列スルヲ欲セサルヨ
 リ會議開カレシテ止メリ露國ハ一八八五年ノ普魯西及ヒバグアリヤトノ条
 約ニ於テ君主又ハソノ家族ノ生命自體又ハ名誉ニ加害シ又ハ殺人ヲ行ヒ又ハ
 行ハントセルモノハ引渡スヘキヲ定ム一八九二年ノ瑞西ノ犯罪人引渡法ニ於
 テ政事犯人ノ不引渡ノ原則ヲ揚ケタルモ犯罪ノ主タル狀態カ政事犯罪ヨリモ
 常事犯罪ノ性質ヲ多ク具備スルモノハ引渡ラナスヘキモノトシ此種ノ犯罪人ヲ
 引渡スヘキヤ否ヤハ瑞西ノ最高裁判所ニ於テ決定スヘキモノトナセリ(標準
 ヲ確定セシテ各場合ニ就テモ所定ノ認定スルモノナリ)

國際法協會ハ一八八〇年ノ決議ニ於テ常事犯罪ノ性質ヲ具備スルモノ
 (殺人放火竊盜)ハ単一ノ犯罪人ノ政治的目的ヲ有スルヲ以テノ故ニ引渡
 ノ例外ヲナサストセリ然レモ一八九二年ノ決議ニ於テ係的政治犯罪ハ之ヲ引
 渡サストシ但シ道德及ヒ普通法ニ照シテ重大ナル犯罪(故殺謀殺毒殺持凶器
 強盜等)ハ此限ニテアラストス。

第十七章 國家ノ元首及ヒ外務大臣

國家ノ國際上ノ概テ概説

國家ノ國際上ノ概テ概説 (1) 國家ノ元首 (2) 外務大臣 (3) 外交使
 節 (4) 領事ヲ主タルモノトナスモノ以外ニ於テ陸海軍指揮官モ主トシテ戰
 時ニ於テ國家ノ國際上ノ概テ概説ヲナス又平時ニ於テモ外交使節ニテラ
 スシテ特別ノ國際的任務ヲタメニ任命サルハ概テアリ例ハ (1) 特別ノ國際
 會議ニ國家ヲ代表シテ参列スヘキ外交官以外ノ全權委員 (2) 境界劃定条約施
 行監視等ノ特別ノ國際的任務ヲタメニ任命サルハ委員 (3) 君主ノ即位ノ通知書
 冠式参列ニ參列ボニテシテ儀式上ノ使節 (4) 公ニ認メラレタル資格ヲ有セ
 スシテ外交ニテスル任務ヲ有スル使節(例ハ秘密ニ派遣サレタル使節)オ
 之ナリ余カ此章ニ於テ主トシテ述ベント欲スルハ元首外務大臣ニテ外交
 使節及ヒ領事ニテハ次ノ二章ニ述ベヘキナリ外交官以外ノ國際會議ノ全
 權委員モ今日ニ於テ治外法权及ヒ自己及ヒソノ隨員ノ不可侵及ヒ安全ニテシ
 テハ外交使節トシテ特權ヲ有スト認ムルニテナリ特別ノ國際的任務ヲタメニ
 任命サレタル委員ニテハ外交使節トシテ特權ヲ有ストナスノ説アル

モ(例ハ、ブルンチユリ、ヘフター)此点ニ於テ國際慣例未タ確定セズ但テ特別ナル保護ヲ与ヘサルヘカラス而シテ好意上ソレ以上ノ特權ヲ与フルコトアルナリ公ニ認メラレタル資格ヲ有セスレテ外交ニ于スル任務ヲ有スル使節ニ于シテハ迅速スヘキナリ。

國家ノ元首

國家ノ元首ハ國家ノ總般ノ國際于係ニ付キ國家ヲ外部ニ代表ス何人カ一國ノ元首タルヤハ各國ノ國內法ノ定ムル所ナリ國家ノ元首ハ君主國ニ於テハ君主(國ニヨリ帝王太公公オノ名ヲ有ス)共和國ニ於テハ大統領又ハ國家最高會議(瑞西ノ聯邦議會)ナリトス國家ノ元首ハ一人ヲ以テ成ルルヲ常トスルモ國家最高會議カ國家ノ元首タル場合ニハ多人數ヨリ成ルナリ。

元首ノ變更ハ國內法上ヨリニハ他國ノ通知及ヒ他國ノ承認ヲ待テ始メテ全キモノニテラズ國際于係ニ於ケル通知又ハ承認ノ有無ニ于セス國家ノ元首ハソノ國內法ノ規定ニヨリテ既ニ定マルモノナリ然レテ元首ノ變更ニ際シ國家ハ外國ニ通知ヲナスヲ常トシ外國モ亦祝賀ヲ表スルガノ形式的行為ニヨリ承認ノ意思ヲ表示スルヲ常トス國際法上ヨリ見ルキハ通知ニヨリ國家ハ

特定ノ個人カ國家ノ總般ノ國際于係ニ付キ國家ヲ外部ニ代表スルコトヲ外國ニ宣言シ又承認ニヨリ外國ハ元首ノ總般ノ國際于係ニ付キ國家ヲ代表スルノ地位ヲ公然認メ之ト交渉スルノ意ヲ示スモノナルヲ以テ通知及ヒ承認ハ法規上ニ于テ係アリ國際法上正当ナル元首ハ諸國ノ承認ヲ經タルモノナリ然レトモ諸國ノ承認ハ元首ヲシテ國內法上正当ナラシムルモノニアラス一國ハ他國ヲシテ新元首ヲ承認セシムルノ權利ナク特ニ元首ノ承認ハ全然承認國ノ力量ノ問題ナリトス然レトモ實際ニ於テ新元首ノ承認ヲ行ハサルハ該國トノ國際的交渉ヲナスコト困難ナルヲ以テ國際團體内ノ一國ハ實際上ニ於テ永ク國際團體内ノ他國內ニ於ケル地位確立セシ新元首ノ承認ヲ拒ム能ハサルナリ他國ノ新元首ノ承認ヲ拒ムハ相手國トノ國際交渉ヲナスコト困難ナルノミナラス相手國ノ報復ノ強力的手段ヲ招クノ恐アリ一八七〇年伊國統一后メクレンブルグ及ヒバヴアリアガヴィクトル、エマニユエルノ伊王タルノ承認ヲ拒ミシカ伊國政府ハ之レガノ國ヨリ伊太子ニ派遣セル領事ノ認可ヲ取消シテ以テ之ニ報シタリ。

國家ノ元首ハ國家ヲ代表シ元首タルノ名ヲ以テ外國ト交渉ス而シテソノ元

首タルノ名ヲ以テスル國際于係上ノ行為ハ國際法上國家ノ行為ト看做スヘキ
モノニシテ國家ニ對シテ効力ヲ生ス元首ノ國際于係ニ於ケル機能ノ重ナルモ
ハ國際條約ノ締結外交使節ノ領事ノ接受ノ權差遣宣戰媾和ナリトス
但シ國內法上元首ノ國際于係ニ于スル機能ノ行使ニ付キ條件ヲ附セラルル場
合(例ハ議會ノ快贊ナケレハ條約ヲ批准シ得サル場合)ニ於テソノ條件ヲ
充タカレハ(例ハ上述ノ場合ニ快贊ナクシテ批准スルハ)ハ元首ノ行為
ハ國際法上ノ効力ヲ生セス(例ハ上述ノ如キ條約ハ國際法上有效ニ成立セ
ス)

君主又ハ皇位(英國ニ於テハ代々ノ君主ニ代表サル、皇位ヲ統治ノ主体
タル者念アリ)ハ國ニヨリ國內法上統治ノ主体トシテ考ヘラル、コトアリ
此ノ如キ國ニ付キテハ國際法上ニ於テモ君主ハ國家ノ元首ト言ハンヨリ寧ロ
國家ソノモノトシテ國際法ノ主体トリト云フヲ得ヘキナリ然リト雖モ國際法
上ニ於テハ苟クモ有形的ナル國ナル政治社会カ存続スル間ハ假令君主王統又
ハ政体ノ変更アリトスルモ國際法ノ主体タル國家ハ國內法上ノ者念如何ニ拘
ハラヌ國際法上故存全一ナリト見做スヲ以テ君主ヲ統治ノ主体トナス國ニ

アリテモ内部ニ於テ統治ノ主体ノ者念ニ變更ヲ生スル如キ國ニ於テハ君主
ハ國際法上ヨリ見レハ國際法ノ主体タル國家ト爲テ、時代ヲ通シテ終始全然
合一スルモノト言フヲ得ヌ該國內ノ法律的確信ニ於テ一定ノ血統ノ君主ヲ統
治ノ主体即チ國家トナス思想行ハル、時代ノ間上述ノ如キ君主ハ國內法上
ハ權利義務ノ主体タルナリ^{然レシ}歐米ノ普通ノ國內法上ノ法律的確信ニヨレハ所謂
國家ノ元首ハ國內法上ニ於テモ統治ノ主体タル國家ノ最高機子トシテ統治
ノ主体タル國家ソノモノト明カニ區別シテ考ヘラル、モノニシテ國家ノ元
首カ國際法ノ主体タル國家ト全視セラル、コトナキハ言フ俟タヌ又國家ノ元
首ハ國家ト合一セサル資格ニ於テ別ニ國際法ノ主体トナルコトナキナリ故ニ
元首カ元首トシテ國家ヲ高レテ有スル權利義務ハ國際法上ノ權利義務ニマラ
ス元首カ外國ニ於テ享有スル所謂特權ハ國際法上ノ權利ナルカ如キモノノ實
ハ然ラスレテ國外ノ國內法上ニ於ケル特別ノ資格ヨリ生スル利益トナス而シ
テ此ノ如キ國內法上ノ特別ノ資格ハ外國カ元首所屬國ヲ尊重スルノ國際法上
ノ義務ニ基キ元首ニ對シテ認ムルモノナリトス故ニ元首ノ所謂特權ニ于スル
國際法上ノ權利者ハ元首ニマラスレテ元首所屬國ナリトス。

國家ノ元首中君主ト大統領トハソノ国内法上ノ地位實際ニ於テ差異アリト
 雖モ國際法上ニ於テ定ムルソノ特別ノ資格ニ由ル利益(所謂特權)ニ于シテ
 差異ヲ認ムヘカラス但シ此点ニ于テ反對説アリ(ウルマン・リグイエ、ス
 テルク)固ヨリ國際法ニ于テ係キ實際ノ礼節上ノ事項ニ於テ君主ト大統領ト
 ノ間ニ事實上差異ノ認マラルコトハ之ヲ否ム能ハス。
 君主中ニ於テモ統治ノ主体タルアリ統治ノ主体ノ最高權ヲタルアリソ
 ノ他尊號憲法上ノ地位及ヒ實勢カホニ於テ相合シカラス皇帝アリ、王アリ、大公
 アリ、又現今ハ概テ立憲君主ナルモ專制君主モアリ得ヘク等シク立憲君主タル
 モ英國王ト露國皇帝トハソノ憲法上ノ地位ニ違庭アリ又猶乙皇帝トサン、マリ
 ノノ君主トハソノ實勢カニ霄壤ノ差アリ然レモ國際法上ニ於テハソノ特別ノ
 資格ニ由ル利益(所謂特權)ヲ異ニセス君主ハ常ニ法權ニ服セス外國ノ君主
 ヲ被告トスル訴訟ハ裁判所之ヲ受理スルヲ得ス。
 國家ノ元首カ外國ニアルハ國際法上ニ於テ特別ノ資格ヲ認メラル駐在國
 ハ身體榮譽ノ不可侵及ヒ治外法權ヲ認メサルヲ得ス。
 (1) 國家ハ外國ニ在ルソノ元首カ駐在國ニヨリ身體及ヒ榮譽ノ不可侵ヲ認

メラル、コトヲ要スルノ權利アリ身體榮譽ノ不可侵ハソノ本國トノ交
 通ノ自由ヲ制限セサルコトヲモ含ム身體ノ不可侵ノ一ノ結果トシテ外國
 ノ元首ニ對スル威嚴上又ハ身體上ノ侵害ノ行爲ヲ重ク処罰セサルヘカラ
 ス。
 (2) 國家ハ外國ニアルソノ元首ヲシテ駐在國ノ法權ヲ免レシムルノ權利ヲ
 有ス元首ノ此点ノ特別資格ハ謂ハユル治外法權ノ語ヲ以テ表セラル治外
 法權ノ結果トシテ國家ノ元首ハ外國ノ民事及ヒ刑事ノ裁判管轄ニ服セス
 但シ元首カ原告トナルハ裁判權ニ服シ且原訴訟上ノ要件ト與ニ于テ係
 ル及訴訟ニ于シテモ裁判權ニ服ス又元首カ私人ノ資格ニテ有スル外國ノ不
 動産ニ于スル民事訴訟ニアリテハ元首ト居ヒソノ地ノ裁判權ノ管轄ニ服
 ス又元首カ私人ノ資格ヲ以テ所在國ニテ常メル商業ニ付キテソノ國ノギ
 判管轄ヲ認ムル場合ヲ想像シ得サルニアラヌ又元首ハ治外法權ノ結果ト
 シテ一般ニ駐在國ノ行政上警察上ノ法令ニ服従スルノ義務ヲ負ハスシテ
 駐在國ノ諸種ノ課税ヲ免レソノ居宅ハ恰モ公使館ノ如ク不可侵ニシテ元
 首ノ承諾ナクシテ駐在國ノ官憲ノ侵入ヲ許サス犯罪人カ外國ノ元首ノ居

六二
宅ニ逃匿スル場合ニモ警吏ハ元首ノ承諾ヲ經スシテ追テ之ニ入ルヲ得ス
若シ外國ノ元首カ犯罪人ヲ警吏ニ手渡スコトヲ拒ム片ハ政府ハ此ノ如キ
外國ノ元首ノ國ヲ去ルコトヲ求メテ右犯罪人ヲ捕フヘキノミ外國ノ元首
カ不動産ヲ有スル片ハ不動産ニ于テ不動産所在地ノ屬スル國ノ法ヲ
認メサルヘカラス然レモ外國ノ元首カ之ヲ居所トスル間ハ一時治外法
的資格ヲ有ス一國ニ滞在スル外國ノ元首ハソノ隨員ニ對シテ民事裁判官
轄又ハ刑事裁判官轄ヲ行フコトヲ認メラレズソノ隨員ニ對スル民事
訴訟及ヒソノ隨員ノ犯罪ハ本國裁判所カ之ヲ裁判スヘキモノトス。
一國ニアル外國ノ元首カソノ特權ヲ濫用スル片ハ駐在國ハ外國ノ元首
ノ領域ヲ去ルコトヲ求ムルヲ得而シテ外國ノ元首カ暴行又ハ駐在國ノ内
部若クハ外部ノ秩序ヲ危ウスル行為ヲ行フ片ハ駐在國ハ此ノ如キ行為ノ
再ヒ行ハルヲ防クノ処置ヲ採ルヲ得(必要アルハ拘禁ヲモナシ得)但
シコノ場合ニハ出來得ヘキ迅速カニ外國ノ元首ヲ領域外ニ出スヘキモノ
トス決シテ元首ヲ裁判シ若クハ処罰スルコトヲ得ス。
外國ノ元首ノ配偶ハ元首自身ト同様ノ保護及ヒ特權ヲ受ク然レモ元首ノ他ノ

家族(皇太子ヲ含ム)ハ元首ノ隨員タル場合ノ外ハ國際法上ニ於テハ特別ノ
保護又ハ特權ヲ認メラレズ。

隨員一國ニ滞在スル外國ノ元首ノ隨員ノ地位ニ于テ議論分レタリ或ル學者ハ
治外法權ヲ有スルヲ説キ他ノ學者ハ之ニ反對ス然レモ外國ノ元首ノ隨員ハ外
交官ノ隨員ノ如ク治外法權ヲ認ムヘキモノトシ外國ノ元首カ所謂嚴密微行ヲナ
シ滞在國政府ニ全然通知ヲササシテ外國ニ滞在スル片ハ仮令駐在國官憲カ
外國ノ元首タル事實ヲ知ラスシテ外國ノ元首ニ對スル保護ヲ行ハス又ハ外國
ノ元首ノ特權ヲ認メサルモ外國ノ元首ハ之ニ對シテ滞在國ノ責任ヲ負フヲ得
ス但シ外國ノ元首ハ何時ニテモソノ微行ノ資格ヲ捨テソノ元首タルノ地位ヲ
表ハシ保護及ヒ特權ヲ求ムルヲ得單純微行ノ場合即チ元首タルノ地位ニ對ス
ル禮遇ヲ避ケテ旅行スルコトヲ駐在國政府ニ通知シタル場合ハ滞在國ハ外
國ノ元首ニ對スル普通ノ禮節上ノ待遇ヲササルモ微行ト而立スヘキ程度ニ
於テ保護及ヒ特權ヲ失ハサルヘカラス。
外國ノ元首ノ特權ハ元首ノ地位ヲ失ハル個人ニ之ヲ与フルヲ要セス。
外國ノ元首ノ特權ハ攝政ニ對シテモ之ヲ認メサルヘカラス。

一國ノ元首カ外國ノ官吏タルキハ官吏ノ職務ニ于スル範圍内ニテハ外國ノ
ノ扱カ下ニ立ツモノニシテ本國ハソノ範圍内ニ於テハ之ト接觸スル特扱ヲ
ソノ元首ノタメニ主張スルヲ得ス。

一國ノ元首カ全時ニ他國ノ臣民タル場合ニハソノ元首トシテノ行為ト外國
ノ臣民トシテノ行為トヲ區別シ外國ノ臣民トシテノ行為ニテシラノミ一國ノ
元首カソノ臣民ノ資格ヲ有スル外國ノ法扱ニ服スルコトノナサハルヘカラス
此ニ羅馬法皇ノ地位ニ付キ一言スヘシ羅馬法皇ハ一八七〇年ニ於テ伊太利國
ニ併合サレシ台ハ國家ノ元首タル資格ヲ有セサルモ羅馬教令ノ國際的性質ヲ
維持スルノア史上及ヒ宗教上ノ必要ニ基キ伊太利ハソノ一八七一年五月十三
日ノ担保法ニヨリテ羅馬法皇ニ特別ノ地位ヲ認メタリ。

(1) 羅馬法皇ノ身位ハ神聖ニシテ不可侵トシ(但シ民事裁判ニ付キハ伊
國ノ管轄扱及フトスルノ説アリ)ソノ身位ニ對スル犯罪ハ伊國王ニ對ス
ル犯罪ト全樣ニ重ク罰ス。

(2) 羅馬法皇ハ一ノ君主ノ總ヲノ殊養ヲ享有シ羅馬教令ノ君主ノ認ムル位
次優勝ノ特扱ヲ保有シソノ身位及ヒ官殿ノ安全ノタメ併合故ト全教ノ武

裝セル護衛兵ヲ有スルヲ得年額三百二十万五千フランノ伊國政府ヨリ
ノ支給ヲ受ケルヲ得(法皇ハ實際之ヲ受取ラス)。

(3) 羅馬教令ノアルガチカ官殿及ヒ新法皇ヲ送ムヘキ高僧ノ集會若ク
ハソノ他ノ高僧會議ノ開ケルヘキ地ハ不可侵トナシ羅馬教令ノ承認ナケ
レハ伊國ノ官憲ハ之ニ入ルシ得ス。

(4) 羅馬法皇ハソノ羅馬教令ノ首長タル地位ニ于スル總テノ職務ヲ行フニ
付キ全然自由ニシテ法皇ノ官吏モ然リトス。

(5) 羅馬法皇ハ使節ヲ差遣接受スルノ権利ヲ有シ此ホノ使節ハ伊國ノ差遣
接受スル外交使節ノ有スル總テノ特扱ヲ享有ス。

(6) 羅馬法皇ト全羅馬教令ノ間ノ交通ノ自由ヲ承認シ羅馬法皇ハヴ
アチカン宮又ハソノ他ノ居宅ニ於テ自己ノ郵便及ヒ電信ノ局ヲ有スルノ
権利アリトス。

(7) 羅馬及ヒソノ近鄰ニアル僧侶ノ教育ノタメニスル教育官造物ハ^{法皇}獨專的
監視ノ下ニ立テ伊國官憲ハ之ニ于テ涉スルヲ得ス。

伊國担保法ハ羅馬法皇ノ未テ承認セサル所ナルモノノ大部分ハ實際ニ於テ

行ハル羅馬法皇ハ真ノ國家ノ元首ニアラヌシテソ、差遣接受スル使節モ宗教事務ノ處理ニ関スルモノニシテ、國際事務ノ處理ニ于スル外交使節ニアラヌ然レトモア史上及ヒ宗教上ノ理由ニヨリ羅馬法皇ハ一方ニ於テハ伊國担保法ニ依リ他方ニ於テハ羅馬法皇及ヒ諸國間ノ慣行ニヨリ國際的ノ資格ヲ認メラル羅馬法皇ハ伊國ノ臣民ニマス伊太利ハ羅馬法皇ノ行為ニヨリ間接ニモ國際的責任ヲ負ハス但シ羅馬法皇ノ國際的資格ハ未タ羅馬法皇又ハソノ代表スル羅馬法皇ノ結フ所ノ教法條約(「コンコルダ」)ハ羅馬教令ノ事項ニ于レテ主トシテ羅馬國ト結フ所ニシテ國際條約ヲ以テ目スルヲエス。

外務大臣

今日ニ於テハ國家ノ元首ハ直接ニ外務事務ヲ處理スルコト稀ニシテ外務省ヲ經由シテ之ヲ處理スルヲ常トス從ツテ日常ノ外交事務ニ于シテ國制駐外國ノ外交使節ト往復スル文書ハ外務省ノ長官タル外務大臣又ハソノ代理タル外務次官カ署名ヲナスヲ常トス但シ條約ノ締結ハ特ニ外務大臣以外ノ全權委員ニ命スルコトアリ外務大臣ハ自國ノ外交使節及ヒ領事ヲ指揮監督シ外國ニアル自國ノ外交使節又ハ自國ニアル外交使節ヲ至由シテ他國ノ外務大臣ト

交渉ヲナス外務大臣ノ更迭ノ際ハ新外務大臣他國ニ對シテ更迭ノ通知ヲナスヲ常トス。

雜種ノ國家ノ國際關係ノ概

既ニ述ヘタル國家ノ元首外務大臣又ハ右ニ述ヘントスル外交使節及ヒ領事ノ外ニ於テ國家カ外國ニ對スル概テ使用スル人アリソノ中公然タル政治的使節秘使ノ政事的使節國際委員ガアリ通信傳送者及ヒ間諜モ此レニ附説スヘシ。

外交使節ニアラサル公然タル政事的使節ハ一國カ談判ノタメ他國ニ派遣スル所ナリ永続的ニ派遣セラレ、コトアリ此ガ使節ハ外交使節ノ資格ヲ有セサルヲ以テ信任状ヲ携フルコトナク紹介状又ハ委任状ヲ携フルノミ此種ノ使節ハ一ノ獨立國ヨリ他ノ獨立國ニ對シテ派遣セラル、コト稀ニ之ナキニアラサルモ然ラサル場合ニ於テ派遣サル、コト多シトス例ハ從國ヨリ他國ニ他國ヨリ從國ニ派遣スル使節ノ如キ若ク交戰團體ヨリ他ノ國家ニ又ハ他國ヨリ交戰團體ニ派遣スル使節ノ如キ是ナリ。

此ガ使節ハ外交使節ノ資格ヲ有セサルヲ以テ外交使節ノ有スル地位及ヒ

特許ヲ認メラレス然レモ公ノ性價ヲ有スル他國ノ機子トシテ接受スルニ當リテハ特別ノ保護ヲ之ニ与ヘサルヘカラスト云フヘシ但シ此ノ如キ使節ニ与フヘキ特許ニ于シテ明確ナル規則未タ成立セス唯ソノ身体及ヒ公用層美ノ不可侵ハ之ヲ認メサルヲ得サルモノト云フヘシ。

秘密ノ政事の使節ニ二種アリ他ニ秘シテ一國政府ヨリ他國政府ニ對スル紹介状ヲ与ヘテ派遣サレ他國政府カ之ヲ接受スルコトアリ此ノ如キ秘密使節ノ地位ハ接受國ニ取リテハ公然タル使節ト異ナル所ナシ然レモ秘密ナル政事の使節ニシテ他國政府ニ對シテ派遣サレシテ單ニ政事ノ目的ノタメノ例ハハ政府ノ政敵又ハ虛無黨員ノ動靜ヲ監視スルタメノ秘密ニ他國內ニ派遣サレモノアリ是レソノ性價全ク政事ト異ナリ此ノ如キ秘密ノ使節ハ在留國ヨリ見レハ外國ノ個人ト同一ノ地位トアルモノニシテ在留國政府カ之ニ特許ヲ認ムルヲ要セスレテ必要アレハ之ヲ追放シ得ヘク又ソノ政事犯者クハ常事犯ヲ犯スルハ之レヲ帶人ノ如ク処罰シ得ヘキナリ。

國際年貢ハ一國ヨリ他國ニ紹介状又ハ委任状ヲ携ヘテ派遣セラル、モノニシテ政治的ノ性價ヲ帶ヒスシテ技術的又ハ行政的ノ性價ヲ帶フル事項ニ付キ

談判スルモノナリ例ハ國境劃定鐵道郵便電信航路ホニ于スル國家間ノ決定ノタメニ差遣接受サル、所ナリ未タ此ノ季貢ニ一定ノ特許ヲ与フルノ規則カ國際法上確立セサルモ他國ノ公ノ機子トシテ接受セルモノナル故ソノ身体及ヒ公用層美ノ不可侵ヲ認ムヘキモノトス。

一國ノ政府ヨリ外國ニアル元首又ハ外交使節ニ公用層^信ヲ傳達スルノ任務ヲ有スルモノハソノ國家ノ機子タル人ナリ通信傳達者ニシテ外交使節ノ隨員タルモノハ使節ノ駐劄スル國家ニヨリ特別ノ保護ヲ受ク民事及ヒ刑事ノ裁判管轄ヲ免除サルヘク又第三國ニヨリソノ領域ノ無害通行ヲナスヲ認メラルヘキナリ外交使節ノ隨員タラサレ書信傳達者ハ此ノ如キ尤キ特許ヲ有セザルモノノ層信傳達者タル公ノ資格ヲ明カニスル特別ノ放券ヲ有スルトキハソノ身体及ヒ公用層美ノ不可侵ヲ認メラルヘキモノトスヘシ一時外國ニアル元首トソノ本國政府トノ間ノ層信傳達者モ亦然リトス。

間諜ハ隱密ニ軍事上又ハ政治上ノ秘密ニ于スル情報ヲ得ルタメ外國ニ派遣サル、モノニシテ之ヲ派遣スル國家ノ秘密ノ機子ノ一タリ間諜ヲ使用スルコトハ國際法上之ヲ禁セラル、コトナキモ外國ハ間諜タルヲ知レハ之ヲ処罪シ

又ハ追放ハ間諜ハリノ政府・命令ヲ行ヘルノ故ヲ以テ免罪ヲ免ナルヲ得ス。

第十八章 外交使節

外交使節ノ沿革

古代及ヒ中古ニ於テモ外交使節ヲ派遣スルコトアリテ宗教上ノ思想オモ基キテ外国ノ使節ニ對シテ身體ノ不可侵ヲ認メタリ然レモ中古ノ終期ニ至ルマテ常駐ノ外交使節ヲ存セス或ハ羅馬法皇カ「フランケン」人種ノ王ノ朝廷及ヒコンスタンチノールニ所謂「アポクリシアリイ」又ハ「レスポンサレ」ト稱スル常駐的代表者ヲ置ケルヲ以テ常駐外交使節ノ濫觴トナスモアルモ此オノ法皇代表者ノ処理セル所ハ國際ノ事項ト云ハシヨリハ寧ろ宗教ノ事項ト云フヘキモナルヲ以テ之ヲ以テ常駐外交使節ノ濫觴トナスハ當ラサルカ如シ十三世紀ノ頃ヨリ伊太利内ノ諸共和國殊ニヴェニスカ國際ノ事項ノ便宜ノタメ對手國ノ都ニソノ代表者ヲ常駐セシムルニ至リ十五世紀ニ於テハ伊太利諸共和國ハ西獨仏英等ニ常駐外交使節ヲオクニ至レリ此世行ハ他國ノ模スル所トナリ歷々常駐外交使節ノ派遣接受ニ于テ約條ヲ以テ均スル

所アリ(例ハ一五二〇年ニハ英國王ト獨ヒ帝ノ間ニ約スル所アリ)十五世紀ノ終ヨリ此世行西歐及ヒ中欧ニ拡カリ英仏西獨ノ諸國ハソノ相互ノ間ニ常駐外交使節ヲ派遣接受スルニ至レリ一六四八年ウエストファリアノ全議以後仏國ノ行々例ニ倣ヒテ常駐外交使節ノ制度ハ普及サルニ至リ北歐諸國ニモ行ハレ一般的ノ制度トナレリ但シ露國ノ始メテ常置ノ外交使節ヲ派遣接受スルニ至リシハ十八世紀ノ初ニアリ。常駐外交使節ノ制度ノ完全ハ國家間ノ公ノ交通ヲ円滑ニシ國際團體ノ鞏固ヲ強ムルニ至リ國際ノ係ニ新面ヲ開ケリ往時常駐外交使節ハ極メテ重要ナル任務ヲ負ヒタリシモ現今ニ於テ本國トノ交通々々ノ便宜ナルニ及ヒ請訓ノ便ヲ増シ稍ソノ任務ノ性質ヲ變ムルニ至レリ。往時歐洲ニ於テ外交上ノ用語ハ拉丁語タリシナルイ十四世紀ノ頃仏國ノ地方カ盛ナルニ及ヒ仏語カ外交上ノ用語トナレリ今日ニ於テモ國際全議ニ於テハ多クノ場合ニハ仏語カ用ヒラル然レトモ國際法上ヨリ言ハハ各國ハソノ國語ヲ以テ交通スルヲ得ルモト言ハサルヘカラス。

外交使節ヲ派遣接受スル技能

普通學者ノ所謂公使扱又ハ代表扱ハ嚴正ノ意義ニ於テハ、^{七二} 權利ニアラステラ國
家ノ國際法上ノ能力ノ一方面ニ於ケル發現タル外交使節ヲ接受差遣スルノ
能ヲ指スト解セサルハカラス。

義務ニ対応スル嚴正ノ意義ニ於ケル權利トシテハ外交使節ノ接受差遣ニ于
シテ差遣國及レテ受國ヲ第三國ヨシテ接受差遣ヲ尊重セシメ之ヲ妨ケシメサ
ルノ權利ヲ有シ(第三國ノ領域ヲ通過スルノ權利ヲ含ム)又差遣國カ他國ヲ
シテ自己ノ必要ト認ムル場合ニ之レニ對シテ差遣スル臨時的ナル外交使節ニ
應接セシムル權利ヲ有スト云フヲ得ヘキモノ、如シ然レバ此以外ニ於テ外交
使節ノ接受差遣ニ于テ嚴正ノ意義ニ於ケル權利ノ存在ヲ認ムルヲ得ス。

國際法上外交使節ヲ差遣接受スルヲ得ルモノハ國家ニ限ル羅馬法皇ハ今日
ニ於テハ國家ニアラサルモ丁史的ノ係ニ基キ依然外交使節ノ名アル使節ヲ接
受差遣スルヲ認メラル然レバ此ホノ使節ハ外交使節ノ名アルモノ、實ハ外交
使節ト異ナル所アリ此ホノ使節ノ処理スルハ國際事務ニアラステテ末敘事務
ナレハナリ。

交戦団体ハ外交使節ヲ差遣接受スルノ權利ナクソノ外國ニ差遣スル使節ハ

國際法上外交使節ノ資格ヲ有セサルナリ又外國ハ交戦団体ニ對シテソノ能力
ノ下ニアル自國臣民ノ保護ニ于テ交涉ヲナスモ是レ不正式ノ交涉ニシテ之
カ判談ニ當ルモノハ外交使節ノ資格ヲ有セス。

獨立國ハ總テ外交使節ノ派遣接受ノ權利ヲ有スルモノトス然レバ從國ハ此
權利ヲ有セサルヲ原則トス但シ主國カ從國ニ對シテ國際法上ノ行為能力ヲ認
ムル場合ニハ上述ノ原則ニ對スル例外ヲ生スヘキナリ例ハモルダヴィヤ及
ヒワラキヤハ一七七四年ノ「カイナルデイ」條約ニヨレバ代理公使ヲ外國ニ派
遣スルヲ得テリ保護國ニ付キテモ保護ヲナス國家カ總テノ國際ノ係ニ付キ保
護國ヲ代表スル種差ノ保護國ニアリテハ保護國ハ上述ノ權利ヲ行ヒ得サルニ
至ルモ直接ニ國際ノ係ヲ維持スル種差ノ保護國ニアリテハ此權利ヲ行フヲ得
(例ハ英國ニ併合故ノトランスウヰールハ外國ニ外交使節ヲ派セリ) 聚合
國內ノ各國家ハ聚合國ノ憲法ニヨリ聚合國(中央國家)以外ニ上述ノ權利ヲ
有スルコトアリ然ラサルアリ北米合衆國ノ各州ハ上述ノ權利ヲ有セサルモ独
立ノ各邦ハ上述ノ權利ヲ有レバヴヰヤノ如キハ之レヲ行使セリ。

國家ノクメニ外交使節ノ接受差遣ノ權利ヲ行フ機子ハ宛般ノ國際ノ係ニ付

一 國家ヲ代表スル國家ノ元首ニシテ元首ヨリ元首ニ宛テタル信任状ヲ以テ外交使節ヲ差遣スルヲ例トス（但シ代理公使ハ一國ノ外務大臣ヨリ他國ノ外務大臣ニ宛テタル信任状ヲ以テ差遣サル）元首ハソノ國內法カ之ヲ許ストキハ上述ノ権能ノ行使ヲ他ノ概テ委任スルコトアリ。

外交使節ノ階級

常駐ノ外交官ノ制度カ一般ニ採用サル、頃ヨリ外交使節ニ特命使節タル大使及ヒ普通外交使節タル并理公使ノ二階級カ認めラル、ニ至リ十八世紀ニ於テ更ニ特命全权公使ナル一階級設ケラレシモ榮譽及ヒ位次ニテモ特等ヲ杜絶スルヲ得ヌ一八一五年ノ維納會議ニ於テ外交使節ノ榮譽及ヒ位次ニテモ紛議ヲ止ルルヲ目的トシテ大使全权公使及ヒ代理公使ノ三階級ヲ定メシカ一八一八年ノエイクス・ラ、シヤペルノ會議ニ於テ當時ノ歐洲ノ五強國ハ全权公使ト代理公使トノ間ニ更ニ并理公使ヲ置クヲ議定セリ此オノ各階級ノ外交使節ハソノ特權ニ於テ異ナルコトナキモソノ榮譽及ヒ位次ニ於テ差異アリトス。

(1) 大使ハ他ノ外交使節ノ上ニ位ス或ハ學者ハ大使ハ王ノ榮譽ヲ有スル國

家ニアラサレハ接受差遣スルヲ得ストナス然レモ現今ニ於テハ所謂王ノ榮譽ヲ有スル國家ノ着念ハ最早國際法上效力アル國家ノ階級ノ着念トシテ認め得ス。

大使カ特ニ代表的資格ヲ有スルコト維納會議ノ決議（第二條）ニ定ムル所ナリ所謂代表的資格トハ大使カ當ニ他ノ外交使節ト全シク國家ノ機子トシテ外交事務ノ處理ニ從事スルノミナラスソノ一身ニ於テ君主及ヒソノ威嚴ヲ代表スルモノトナスナリ而シテ學者ハ此資格ノ結果トシテ駐劄國ノ君主ト直接ニ談判ヲナシ得ルトナシ進ニテ此結果トシテ何時ニテモ直ニ君主ニ謁見スルノ權利アリトナスニ至ル然レモ大使カ一身ヲ以テ君主及ヒソノ威嚴ヲ代表スルニ稱スルモ大使ハ實際ニ於テ君主全クノ取扱ヲ受ケルコトナク派遣セル君主ノ一種ノ機子トシテ取扱ハル、ノミ且ツ駐劄國ノ君主ノ欲セサルニ拘ハラズ直接ニ之ト談判スルコトヲ主シシヌハ大使ノ欲スル時ニ於テ駐劄國ノ君主ニ謁見ヲナスコトヲ主シタルカ如キコトハ國際法上大使所屬國ノ權利トシテ認めラレタリト云フヲ得ス大使ハ君主ト直接ニ談判スルヲ得ルヤ否ヤハ駐劄國ノ制度依行ノ如何

ニヨリテ定マル、故ニ現実国際法上ニ於テハ特ニ大使ニ對シテ特別ナル意味ノ代表的資格カ認めラレタルノ實ナリ、單ニ大使ヲ榮誉及ヒ位次ニ于レテ他ノ公使ニ優先スヘキヲ主張シ得ヘク、全一駐劄國ニ派遣サレタル他國ノ大使ト全オニ取扱ハル、コトヲ主張シ得ヘキニ止マル。

大使ハソノ榮誉及ヒ位次ニ于シテ全一駐劄國ニ派遣サレタル他國ノ大使ト全オニ取扱ハル、コトヲ主張シ得ヘキモノノ取扱ノ内容ニ就テハ國際法上一定セム所ナク、諸國ノ國際禮讓トシテ慣行スル所ノ外ニ於テハ駐劄國ノ慣行ニ依ルヘキモノトス。

(2) 特命全權公使ハ外交使節ノ第一級ニ位ス、維納會議ノ決議(第一條)ニヨレハ全權公使ハ大使ト異ナリテ所謂代表ノ資格ナルモノヲ以テ、現実国際法上ニ於テ國家ノ概テトシテ外交事務ノ處理ニ當ル資格ノ以外ニ於テ所謂代表ノ資格ナルモノヲ認ムルヲ得ヌ、而シテ國家ノ概テトシテ外交事務ノ處理ニ當ル點ニ於テハ全權公使ト大使トノ間ニ毫モ差異ナキナリ；公使ハ大使ノ次ニ位シテソノ榮誉及ヒ位次カ大使ニ劣ルノミニシテソノ國家ヲ代表スルノ資格及ヒソノ特扱ハ毫モ大使ト異ナレド、所ナキナリ。

リ。

(3) 弁理公使ハ外交使節ノ第三級ニ位ス、ソノ榮誉及ヒ位次ニ于シテ全權公使ニ劣ルモ、國際法上國家ヲ代表スル資格及ヒ特扱ニ於テ異ナル點ナシ、唯國際禮讓トシテ慣行サル所ニヨレハ弁理公使ニ對シテハ大使及ヒ全權公使ニ對スル如ク閣下ノ敬稱ヲ加ヘス。

(4) 代理公使ハ現今ニ於テハ外交使節ノ第四級ニ位ス、代理公使ノ場合ニハ國際慣行上他ノ外交使節ノ如ク元首ヨリ元首ニ宛テ信任状ヲ發セシテ外務大臣ヨリ外務大臣ニ宛テ信任状ヲ發スルモノトス、榮誉及ヒ位次ニ于シテ他ノ公使ト異ナル所アルモ、特扱ニ至リテハ異ナル所ナシトス、代理公使ハ臨時代理公使即チ公使ノ一時不在ノ間臨時之ニ代ハリテ公使ノ職務ヲ執ル者ト異ニシテ位次ソノ上ニ位ス。

上述ノ四階級中ノ全階級ニ屬スル外交使節ノ間ノ位次ハ駐劄國ニ到着ノ公通知ヲナセルノ時ノ順序ニヨリ之ヲ定ム。

一國ニ駐劄スル諸國ノ外交使節ハ外交團ナル一ノ団体ヲナス、外交團ハ特別ノ法律上ノ人格ヲ有スルモノニマラスシテ、法規上ノ職分ヲ有セズ、然レモ駐劄

七八
國ニ於ケル外交官ノ特權及ヒ榮譽ニ于スル事項ヲ監視スルノ働ヲナス外交官ノ首席ハ儀式上ノ事ニ于テ駐劄國ニアル諸國ノ外交官ヲ代表スルヲ常トス通常ノ國ニアル外交官中最高級ニシテ且ツ最先任ナル外交官ヲ以テ之ニ推スト雖モ舊教國ニ於テハ旧慣ニヨリ羅馬法皇ノ代表者ヲソノ首席トナスヲ常トス。

外交使節ノ任命

外交使節ハ各國ノ國內法ニヨリ之ヲ任命スル權限ヲ有スル者之ヲ任命ス普通一國ノ元首カ任命ノ權限ヲ有ス而シテ外交使節ノ任命ノ資格ハ各國ノ國內法ノ定ムル所ナリ。

外交使節ノ任命ハ接受國ニ對シテ一定ノ公文書ヲ以テ宣言ス信任狀ハ國家ノ元首(代理公使ノ場合ニハ外務大臣)カ正式ニ外國ニ對シテ常駐的大使又ハ公使ノ任命ヲ宣言スル文書ナリトス。

外交使節ハ封緘セル信任狀ノ正本ノ外ニ副本ヲ携ヘテ任地ニ就キ到着スルヤ副本ヲ外務大臣ニ送リテ正式ノ到着ノ通知ヲナス信任狀ノ正本ハ外交使節カ親シク元首(代理公使ノ信任狀ハ外務大臣)ニ呈スルモノトス。

全權委任狀ハ或ル條約ノ締結ホノ特別事項ノ裁判ニ于シテ國家ヲ代表スル權限ヲ与フルコトヲ宣言スルモノナリ全權委任狀ト稱スルモ場合ニ依シ權限ニ制限ヲ認ムルヲ得ヘキナリ全權委任狀ハ信任狀ヲ有スル常駐外交使節ニアリテハ普通ノ外交事務ヲ行フニ付キ之ヲ要スルコトナク條約締結ホノ如キ特別事項ノ談判ニ于シテ始メテ之ヲ要スルナリ又常駐外交使節ニアラスシテ臨時ニ本國ヲ代表スル使節例ハ國際會議ニ列席シヌハ特別ノ條約ノ談判ヲナスオノ使節ハ信任狀ヲ要スルコトナク全權委任狀ヲ有スルヲ以テ足レリトス、外交使節ハ本國ヨリ訓令ヲ受クルモ是レ本國ノ内部ノ事項ニシテ國際法ノ于係スル所ニマラス。

外交使節ハ又自身及ヒソノ隨員ノタメニ旅券ヲ自國外務省ヨリ得テ駐劄國ノ外務省ニ寄托シソノ國ヲ去ラントスルハ駐劄國ヨリ使節ニ退去ヲ求ムルハ之レカ返還ヲ受ク。

外交使節ハ一國ヨリ一國ニ對シテ差遣セラレ、ヲ常トスルモノ一國ヨリ數國ニ對シテ一人ヲ差遣スルコトアリ數國ヨリ一國ニ對シテ一人ヲ差遣スルコトアリ。

往時國家ハ敎人ノ常駐ノ大使スハ公使一國ニ派遣スルコトアリタリ然レトモ今日ニ於テハ此ノ如キコト殆ト之レナシ但シ國際會議ニ参列ノタメ一國ヨリ敎人ノ使節ヲ生スルコトアリ此場合ニソノ中ノ一人ヲ首席使節ト定ムルヲ常トス。

外交使節ノ接受

國際団体内ノ一國ハ外國カ談判ノタメニ必要ニ際シ臨時ニソノ國ニ差遣スル外交使節ニ應接スルノ義務アリト云フハ之ニ對シテ右文(乙)ニ於テ述フヘキ例外ヲ認ムルハ之ヲ首肯シ得ヘキモ國家、他國ノ自國ニ派遣スル常駐外交使節ヲ接受スルノ義務アリト云フヲ得ヌ又臨時の使節アリトモ如何ナル場合ニモ之ヲ接受スルノ義務アリト云フヲ得ヌ。

國家ハ常駐ノ外交使節ヲ接受スルノ義務ナキカ如ク又之ヲ差遣スルノ義務モナキナリ然レモ國際団体内ノ獨立國ハ實際上常駐外交使節ヲ接受シ且ツ差遣スルヲ常トス。

(甲) 一國ハ甲國ヨリノ常駐外交使節ヲ接受シ乙國ヨリノ^{常駐}外交使節ノ接受ヲ拒ムコトアリ得ヘキナリ例ヘハ新敎國ハ羅馬敎會カ領土人民ヲ有スル國

家ヲナセル際ニ於テモ法皇ノ派遣スル常駐外交使節ヲ接受セサルヲ常トセリ。

(乙) 臨時的外交使節ニ于シテ仮令之ヲ接受スルノ義務アリトスル原則ヲ認ムルトスルモ此原則ニ對スル例外ヲ認メサルヲ得ヌ例ヘハ予メ談判ノ事項ノ知ラレ而シ該事項ニ就キ接受國カ談判ヲナスヲ欲セサルハ又ハ双方ノ國家ノ間ニ戰爭狀態カ存スルハ又ハ差遣サル、外交使節ノ一身ニ于スル理由ニヨリ接受ヲ欲セサルハ又ハ付キテ例外ヲ認メサルヲ得ヌ。

外交官ノ一身ニ于スル理由ニヨリ外國ノ差遣スル外交使節ノ接受ヲ拒ムコトハ常駐的外交使節ニ付キテモ臨時的外交使節ニ付キテモ行ヒ得ヘキ所ナリ國際法上一國ハソノ送ル所ノ人ヲ外交使節トシテ外國ニ之カ接受ヲ強ユルノ権利ナシ接受國ハ常ニ自己ノ接受スルヲ欲セサルモ、接受ヲ拒ムヲ得ヘキナリ之カ拒絕ニ當リ拒絕ノ理由ヲ述ヘソノ理由ニ付キ兼明ラナスヲ要セス普通個人的理由ニヨル拒絕ノ事由トナル事實ヲ例示スレハ左ノ如シ。

(1) 他國ノ外交使節トシテ任命サレタル者カ自國臣民ナルコト(但シ自國臣民モ一旦外交使節トシテ接受セハ外交官ノ特權(若シテ法廷ヲ含ム)ヲ

与ハサルヲ得ス。

四、曾テ言論又ハ行為ヲ以テ駐在國ニ對シテ^敵讒意ヲ表シタルコト

ハ、曾テ犯罪ヲナシタルコト

(二)、駐劄國ノ利益ニ反スル宗教ヲ信スルコト

(三)、使節ソノ人ノ特有スル社會上ノ地位ニヨリソノ駐劄カ駐劄國ニ危險ナルコト (例ハ羅馬加特力教諸國ニテハ羅馬教念ノ僧正カ公使トナルハ

ハソノ宗教上ニ有スル勢力ヲ國交上ニ濫用サル、ノ恐アルヲ以テ之カ接

受ヲ拒ムコトアルヘシ。

國家ハソノ送ム所ノ者ヲ外國ヲシテ使節トシテ接受セシムルノ権利ナキモ

外國カ自己ノ差遣セル使節ノ接受ヲ拒ムルハ惡感情ヲ表スルヲ常トス一ハ

三二年露國カサー、ストラツトフオールド、カンニングヲ大使トシテ接受スル

ヲ拒ムヤ英國ハ三年間依然之ヲソノ職ニ在ラシメテ之ヲ右任者ヲ定メス一ハ

ハ五年埃國カ合衆國ノ使節ノ接受ヲ拒ムヤ合衆國ハ右任者ヲ作ラヌ等ノ間

代理公使ヲシテ事務ヲ執シメタリ今日ニ於テハ此ノ如キ紛争ヲ避クルタメ

外交使節ノ任命ヲナスニ先テ先ツ接受國ノ接受ヲ拒マサルヤ否ヲ確ムル

ヲ常トス。

ヲ常トス。

一國カソノ國ニ差遣サレタル他國ノ外交使節ノ接受ヲ拒マサルハ到着后

駐劄國ノ元首ニ信任状ノ奉呈(代理公使ハ外務大臣ニ呈出ス)ヲナシテ之ニ

對スル儀式上ノ接受ヲ受テ外交使節トシテ正式ニ承認サル、ニ至リ此以後正

式ニ外交ノ職務ヲ行ヒ得ルニ至ル然レモ外交使節ノ特權ヲ享有スル理由ノ一

ハ職務ノ執行ノ必要ニアルモ一ハ外交使節カ本國ノ威嚴ヲ代表スルト思惟サ

ル、ニ基クモノニシテ儀式上ノ接受以前ニ於テモ他國ヨリ差遣サレタル外國

使節ニ對シテソノ身體ノ安全ムヒ不可侵ニ于係アル筈ヲノ特權ヲ認メサルハ

カラス(但レ反對說アリテ實際信任状奉呈以故ニ特權ヲ認メラハ、ハ好意ニ

出ツルニスキスト為ス)。

國際會議ニ列席スル全權委員ハソノ會議ノ開會サル、地ニ屬スル國家ニ對

スル信任状ヲ附与サル、コトナキヲ以テ信任状奉呈ニ對スル儀式上ノ接受ヲ

行フコトナシ此オノ使節ハ開會地ノ國家ニ對シテ差遣サル、モノニアラサル

ヲ以テ開會地ノ屬スル國家ハ任命サレタル外國ノ全權委員ノ接受ヲ拒ムヲ得

ズ本國政府ハ會議ノ開會地ノ國家ノ外務省ニソノ全權委員ノ任命ヲ通告シ全

叔季員到着后外務大臣ヲ訪問スルモ全叔季任状ヲ之ニ示スコトナク列國會議
開會ノ際ソノ席上ニ於テ始メテ他國ノ列席全叔季員ト相互的ニ全叔季任状ヲ
検査スルモノトス。

外交使節ノ職務

外交使節ノ職務ニ于テ常駐的外交使節ト臨時的外國使節トノ間ニ區別ヲ
立テ、設カサルヘカラス臨時の使節中礼式上ノ使節ハ勿論他ノ特別事項ニ于
シテ外國政府ト談判ノタメ任命サル、者ニ至リテモソノ任命ノ目的ニヨリ職
務ノ性質ハ明白ニ足マルモノナリ故ニ此ニ研究スルヲ要スルハ常駐外交使節
ニ外ナラス。

今常駐外交使節ノ職務ヲ(1)交渉及ヒ談判ノ職務 (2)省察及ヒ報告ノ職務

(3)保護ノ職務ノ三ニ分テテ論セントス。

(1) 交渉及ヒ談判ノ職務。常駐外交使節ノ最も重ナル職務ハ本國臣民ノ叔
利々益ヲ進捗シヌハ駐劄國トノ親交ヲ維持増進シヌハ一般ノ平和ヲ維持
進捗スルハ目的ノタメ外務大臣ノ指揮監督ノ下ニ本國政府ヲ代表シテ
駐劄國政府ト外交上ノ談判ヲナスニアリ(現今ノ各國ノ制度ニ於テハ國

家ノ元首カ直接ニ外國ノ外交使節ト交渉談判スルコト稀ナルモ猶ホ外交使

節ノ駐劄國ノ元首ト、交渉談判ヲ直接ノ交渉談判ト稱シ外務大臣ヲ經由

シテ行フヲ間接ノ交渉談判ト稱スルコトアリ)

(2) 省察及ヒ報告ノ職務。常駐外交使節ハ本國ノ利害ニ直接又ハ間接ノ于

係アル駐劄國ノ内治上及ヒ外交上ノ事項ニ付キ省察ヲナシソノ省察ノ結

果ヲ本國政府ニ報告スルノ職務アリ。

(3) 保護ノ職務。常駐外交使節ハ又駐在國ニマル本國臣民ノ身位上若クハ

財産上ノ利益及ヒソノ他ノ利益ヲ保護スルノ職務ヲ有ス若シ本國臣民ニ

シテ駐在國ニ於テ不法又ハ不当ノ加害ヲ受ケ普通ノ訴訟若クハ訴訟ノ方

法ニヨリ救正ヲ得ル能ハサルハ外交使節ハ之カ救正ヲ得ルタメニ尽力

セサルヘカラス外交使節ハ保護ノ職務ヲ行フニ當リ駐在國ノ外務省ト交

渉談判スヘキモノニシテ直接ニ駐在國ノ他ノ行政官ナ又ハ司法官ナト交

渉談判スルヲ得サルモノトス。

上述ノ如ク交渉及ヒ談判ノ職務、省察及ヒ報告ノ職務並ヒニ保護ノ職務ハ常

駐外交使節ノ主要ナルモノナルモノ以外ニ於テモ常駐外交使節ノ職務ニ屬

ル事項アリ一國ハソノ公使ヲシテ本國臣民タルノ証明各ヲ与ヘシメ旅行券ヲ附与セシメ文卷ノ証明ヲナサシメ自今ニ于スル登記ヲナサシメ（戸籍法五九六の六一、七八、一三〇）外國ニアル日本人同ノ婚姻ノ届出ヲ受理セシメ（民法七七七）又訴訟ニ于スル送達ノ囑託ヲナスコトアリ（民訴法一五三、一五三）但シ駐劄國ノ法ヲ屬シ駐劄國法カソノ國ノ官衙ニ限リテ行フヲ許ス事項ニ付キテハ外交使節ノ本國ノ外交使節ヲシテ之ヲ行ハシメサルヲ要ス例ハ駐劄國ノ国内法ハ婚姻ハ必スソノ國ノ身分取扱吏ノ面故ニ於テ行フヲ要求スルトキハ駐劄國ノ外交使節ノ駐劄國ニアル本國臣民同ノ婚姻ヲ取扱フヲ認めサレテ得ヘキナリ又駐劄國ノ外交使節カ証人ノ審問ヲナスヲ許サレテ得ヘキナリ外交使節ハ上述ノ職務ヲ行フニ當リ本國ノ国内法ニ於テソノ本國政府ニ對シテ訓令ヲ遵守スルノ義務ヲ有シ又職務ニ于テ秘密ヲ守ルノ義務ヲ有ス而シテ外交使節ハソノ国内法上駐劄國ニアリテソノ品位ヲ保ツノ義務ヲ有ス。

外交使節ノ地位及ヒソノ特權

外交使節ハ國際法ノ主体ニテ外交使節ノ有スル所謂特權ハ外交使節自身ヨリ云ヘハ國際法上ノ權利ニアラスシテ駐劄國ノ国内法ノ外交使節ニ認め

ル特別ノ資格ヨリ生スル利益ニ外テラス唯國際法ハ駐劄國ノ外交使節ニ所謂特權ヲ認メテソノ特別ノ資格ヲ認ムルコトヲ以テ外交使節ヲ派遣スル國家ニ對スル駐劄國ノ國際法上ノ義務トナシヨリ外交使節ノ所謂特權ハ國際法ノ基礎ノ上ニ立ツナリ。

國際法上外交使節ニ認めサルヲ得サル特權ハ不可侵及ヒ治外法權ナリトス國際法カ此ノ特權ヲ認メシムル理由ノ主タルモノニアリ一ハ外交使節カ本國ノ威嚴ヲ代表スルト思惟セシレ而シテ本國ノ威嚴ノ尊重ヲ受クルノ權利ハ國際法上ノ基本扱ノ一ナルヲ以テ外交使節ノ代表スル本國ノ威嚴ヲ全クスルタメニ外交使節ニ一定ノ特權ヲ認ムルコトニアリ一ハ外交使節ヲシテ自由ニソノ職務ノ執行ヲナスヲ得セシムルタメニ必要ナル一定ノ特權ヲ認ムルコトニアリ而シテ今日ニ於テ產キマ置クヘキハ管口右ノ理由ニアリ。

外國ノ外交使節ノ不可侵ハ古代ニ於テモ宗教オノ思想ニ基キ認めラレタリ不可侵ノ思想ハ希臘ニ入り羅馬ニ傳ハレリ羅馬法ニ於テハ外交使節ニ加害セシモノハ「ユスゲンチウム」ニ進及スルトシ或ル學者ハソノ使節ノ本國ニ引渡スヘシトシ或ル學者ハ公安ヲ害シタル罪人トシテ処罪スヘシトセリ中古ニ於テ

羅馬法ノ再興ト共ニ外交使節ノ不可侵モ諸國ニ承認サルニ至リ常駐外交使節ノ制度確立スルニ及ビ外交使節ノ特權ハ確立シ且ツソノ範圍ヲ拓ケテ治外法權ノ擬制ヲ生スルニ至レリ。

外交使節ノ特權ハ之レカ分テ種々ニ立ツルヲ得ヘシ之ヲ不可侵權及ヒ治外法權ニ大別スレハソノ間ニ何レモ屬スル場合ヲ生シ(例ハ刑事裁判管轄權)又不可侵ノ語義ヲ極メテ尤ク鮮スルキハ治外法權ヲ不可侵權中ニ包括スルニ至ラシムルヲ得ヘキヲ以テ理論上必分ノ遺憾ナキニアラサルモ尤ク行ハル、所ナルヲ以テ此二者ニ大別シテ論ス但シ公使ノ不可侵權ハ沿革上所謂第一國際法ニ基キ他ノ特權ハ各國民ノ慣習ト各國民ノ承認(即チ所謂第二國際法)ト國際法ノ擬制ニ基クモノナリトシテソノ間ニ區別ヲ立テントスル論者アルモ是レ所謂第一國際法ナルモノヲ認メントスル自然法ノ思想ヲ含ムモノニシテ今日ニ於テ此說ヲ採ルヲ得ス。

外交使節ノ身體及ヒ榮譽ハ不可侵ニシテ駐劄國官憲カ之ヲ攻撃シ之ヲ侮辱スルヲ得サルノミナラス私人ノ之ヲ攻撃シ又ハ侮辱セントスルヲ必要ナル警察上ノ処置ニヨリテ防又既ニ此ノ如キ行為ヲナセル者アレハ殊ニ重ク処罰シ

ヲ以テ全種ノ行為ノ再ヒ生スルヲ防カサルヘカラス。

外交使節ニ對スル保護ハ使節一身ニ制限サル、モノニアラスレテソノ隨員(公使隨員、家族、私ノ隨員ヲ含ム)、ソノ公ノ居宅(公使館)、ソノ家、馬車、ソノ居、及ヒ又之、電報又ハ特使ニヨルソノ本國トノ交通ニ及フ又使節ノ職務終了ノ后ニ於テモ封緘サレ他ノ使節ノ保護ニ託セラレタル大使館ノ各員ハ駐劄國官憲カ之ニ触ルヲ得サルモノトス公使館ニ于テ使節ノ特權ハ沿革上ハ治外法權ニ屬スルモ今日ニ於テハ一種ノ不可侵權トシテ說明シ得。

外交使節ノ不可侵權アルノ故ヲ以テ使節ハ駐劄國ニ於テ何ゾ、拘束ヲ受ケルコトナク行動シ得ルト云フヲ得ス使節カ不可侵權ヲ享有スルハ接受國ノ内部ノ秩序ニ順適スルノ行動ヲナスコトヲ故提トス若シ外交使節ヨシテ故意ニソノ職務ノ執行ニ于テ係ナキ駐劄國ノ國內法ノ規定ヲ犯シテ駐劄國ノ内部ノ秩序ヲ紊亂スルハ駐劄國ハ之カ召還ヲ要求シ又ハ直チニ之ヲ退去セシムルニ至ルコトアルヘキナリ加之外交使節カ接受國ノ内部ノ秩序ヲ紊亂スル場合ニ於テハ全様ノ行為ヲ行フヲ妨クニ為ル必要アルハ又ハ外交使節カ接受國ニ對スル陰謀ヲ策スルヲ必要アルハ之ヲ逮捕拘禁シ得但シ之ゾ必要ノ

処置ハ刑事上ノ処罰ト全視スヘキモノニアラスシテ駐劄國ハ出来得ヘキ丈ク
 速カニ之レヲ領域外ニ出シテ自由ナラシメサルヘカラス(一七一九年倫敦駐劄
 ノ瑞典ノ大使ギレンブルグハデジョーグーチニ對スル陰謀ニ与レテ逮捕セラレ
 ソノ居業ハ搜索サレタリ一七一八年仙國駐劄ノ西班牙大使セラマール公ハ仙
 國政府ニ對スル陰謀ヲ企テタルヲ以テ拘禁サレタリ)

外交使節ハソノ不当ナル行為ノタメニ加害ヲ受ケタルノ故ヲ以テ駐劄國ニ
 責任ヲ負ハスヲ得ス例ヘハ使節自ラ他人ニ攻撃ヲ加ヘ他人カ正当防衛トシテ
 使節ニ加害セシ場合又ハ故意若クハ不当ニ自ラ危險ノ地位ニオクカヌハ使節
 トシテ足ヲ容ルヘカラサル場所ニ赴キテ暴行ヲ受ケタル場合オハ於テハ被害
 ニ于シテ駐劄國ニ責任ヲ負ハスヲ得ス。

外交使節ハ普通不可侵權ノ外ニ治外法權ノ資格ヲ有スルコト認メラル治外
 法權トハ法規ノ擬制ニ基キテ認メタル資格ニシテ治外法權ノ資格ヲ享有スル
 人又ハ物ハ一國ノ領域内ニアルモ恰モソノ領域外ニアルカ如ク所在國ノ法權
 カ之ニ及ハサルモノトス故ニ治外法權ノ正当ナル概念ノ内容ハ所在國ノ法權
 ニ服従セサルノ消極的且ツ受動的ナルモノナリトス治外法權ノ擬制ハ法理上

完全ヲ以テ許シ難ク今日ニ於テハ特權ノ基礎ヲ説明スルニ足ラス且ツ詳密ニ
 涉ルテ特權ノ範圍ヲ説明スルニ於テモ不充分ナリト虽此語ハ尤ク慣用サレ
 且ツ人又ハ物ノ法律上ノ概括的性質ヲ明カニスルニ便利ニシテ此語ニヨリ指
 示セントスル特權ニ付キ一々詳細ノ説明ヲナスハ此語ヲ用フルカ為メニ法
 理ヲ誤マルノ恐キヲ以テ余ハ多量學者ノナス所ニ倣ヒ此語ヲ棄用ス。

外交使節ノ治外法權ハ(1)刑事上ノ法權ニ于スル特權 (2)民事上ノ法權ニ于
 スル特權 (3)使節ノ居宅(公使館)ニ于スル特權 (4)租税ニ于スル特權 (5)

警察權ニ于スル特權 (6)証人トナルコトニ于スル特權 (7)宗教ニ于スル特
 權 (8)本國ノ法權執行ノ補助ニ于スル特權ガヨ含ム。

(1) 刑事上ノ法權ニ于スル特權。外交使節ヲ駐在國ノ刑事上ノ法權ヲ免除
 サルノ特權ヲ有スルコトハ一方ニ於テハ治外法權ノ資格ヲ以テ説明シ得ヘ
 キモ他方ニ於テハ不可侵權ノ結果トシテ説明シ得ルナリ現今ニ於テハ外交使
 節カ刑事上ノ法權ノ免除ヲ受ヘク駐在國カ如何ナル場合ニ於テモ外交使節
 ヲ許追シ刑事上ノ処罰ヲ加フル能ハサルコト普ク認メラル唯外交使節ハ元來
 駐劄國ノ国内法令ノ拘束ヲ受フヘキモノナルヤ否ヤニ于シテ國際法學者ノ間

ニ異論ナキニアラサルモ外交使節カ治外法権ノ資格ニ於テ駐劄國ノ法権ノ下ニ立タスト云フハ岸ニ裁判官轄権ニ服セサルノミナラス又法令ノ拘束ヲ受ケサルモノト認メサルヲ得ス但シ使節ノ不可侵權ハソノ接受國ノ内部ノ秩序ニ順適スルノ行動ヲナスヲ前提トシテ享有スルヲ得ルモノナルヲ以テ使節カ内部ノ秩序ヲ紊乱スレ行為ヲサハ駐劄國ハソノ召還ヲ派遣國政府ニ求メ又ハ使節ノ領域外ニ退去スルヲ要求シ得ヘク軍臺ニシテ必要アルハ逮捕拘禁スルヲ得ヘキモ是レ刑事上ノ処罪トシテ行フモノニアラサルナリ。

(2) 民事上ノ法権ニ于テハ特權。外交使節ニ對シテハ駐在國ノ民事上ノ法権及ハサルヲ以テ駐劄國ノ裁判所ハ外交使節ニ對スル民事訴訟ヲ他ヨリ提起セルヲ受理スルヲ得ス外交使節ハ負債ノタメニ自體ノ拘束ヲ受クルコトナクソノ家財ソノ車輛ソノ馬匹ゾハ差押ノ処分ヲ受クルコトナシ外交使節ハソノ負債ヲ弁済セサルノ故ヲ以テソノ國ヲ去ルヲ妨ケラレ又ハ旅券ノ交付ヲ拒マルコトナカルヘキナリ(一七七)年仏國政府カ巴里駐劄ノヘツセカツセルノ君主ノ使節フオン、レツ、男爵ノ負債ヲ弁済セサルノ故ヲ以テ旅券ノ交付ヲ拒ミタルハ巴里駐劄ノ他ノ使節ハ皆仏國政府ノ行為ヲ以テ國際法違反トシテ

スニ

異議ヲ述ヘタリ。

外交使節カ駐劄國ノ法権ニ服セサル原則ニ例外ヲ存ス。

(a) 外交使節カ駐劄國ノ法廷ニ訴訟ヲ提起シタル場合ニハ駐劄國ノ民事上ノ法権ニ服スヘク此場合ニ該訴訟上ノ要求ト與ニ于係アル反許ニ對シテモ法権ニ服ス。

(b) 外交使節カ私人ノ資格ニテ駐劄國ニ不動産ヲ有スルハ不動産ハ所在地法ニ從フノ原則ニ基キ該不動産ニ于テハ駐劄國ノ民事上ノ法権ニ服スヘキモノト認メラレ。

(c) 外交使節カ私人ノ資格ヲ以テ駐劄國ニ於テ商業ヲ営ム場合ニハ該商業ニ于テ駐劄國ノ民事上ノ法権ニ服ス外交使節カ駐劄國ノ臣民タル場合ニ於テ民事上ノ法権ニ服ストノ説アレモ誤マレリ。

(3) 外交使節ノ居宅(公使館)ニ于テハ特權。第十六世紀ノ頃ニ於テハ公使館總テ于係ニ於テ駐劄國ノ領域内ニ在ルカ如ク取扱ハレ且ツ多クノ場合ニハ公使館ノ存在スル全市區ニ治外法権及フト認メラレタリ當時此特權ヲ名ケテ市區特權ト稱セリ市區特權ニヨリ外交使節ハ該市區ニ逃入セル個人ヲ庇

九三

護スルノ権利ヲ主張セリ犯罪人カ一度該市区ニ逃入レハ駐劄國ノ警察及ヒ
 裁判官カ及ハサルコトナリ犯罪人ハ外交使節ノ保護ノ下ニ立ツニ至リ之ヲ
 駐劄國政府ニ引渡スト右トハ一ニ外交使節ノ自由ニ存スルニ至ル使節ノ市区
 特權ノ弊害著シキヨリ既ニ十七世紀ノ頃ヨリ多數ノ國カ使節ノ市区特權ニ反
 對ナルニ至リ十八世紀ニ於テハ全クソノ跡ヲ絶テリ然レモ公使館ノ庇護權ハ
 猶主權ナレ一七二六年西班牙ノ故首相リッペルダ公カソノ君主フリーツプ五
 世ニ疾視サレ反逆罪ノ訐追ヲ受クルヤマドリッドノ英國大使館ニ投シタルカ
 英國大使カリッパルダ公ヲ公使館外ニ放ツヲ肯セサルヨリ西班牙政府ハ一隊
 ノ兵ヲ英國公使館ニ派シ遂ニリッパルダ公ヲ逮捕シソノ唇舌ヲ差押ヘタリ英
 國政府ハ西班牙政府ノ処置ヲ以テ國際法違反トシ此事件ニヨリ英西兩國間ノ
 外交關係ハ破裂セリ一七四七年ニ於テ全權ナル事件瑞典ニ起レリ瑞典ノ商人
 スプリンガー反逆罪ヲ以テ問ハレストツクホルムノ英國大使館ニ逃ケ入レリ
 英國大使カスポンガリヲ引渡ヌヲ拒ムヤ瑞典政府ハ兵ヲ以テ英國大使館ヲ圍
 ズ大使ノ馬車カ大使館ヲ出ツルヤ騎馬ノ兵士ヲシテ之ニ從ハシム英國大使ハ
 止ムヲ得ス抗議ヲナシナカラスプリンガーヲ瑞典政府ニ引渡シタルカ英國政

府ハ改正ヲ要求シ瑞典政府カ之ヲ允ヤソノ大使ヲ召還セリ此ノ事例ヲ以テ見レバ當時公
 使館ノ庇護權ハ主張サタルモ一般ニ承認サレタル所ニアラス十九世紀中ニ於テ公使館ノ庇護
 權ハ改米諸國カ南米ニ於テ主張スル以外ハ全クソノ跡ヲ絶テリ南米ニ於テモ一八六七
 年リマ駐劄ノ佛國ノ使節ガ之ニ于テ主張ヲナセルニ秘露政府ハ拒絶ヲナセリ今日國際
 法上使節ノ居宅又ハ官車手シテ庇護權ヲ認ラズトモ之ヲ今日於テ公使館或ハ係於テ之ニ格モ
 駐劄國領域外ニアル如ク取扱ハルモノナリ使節ノ居宅ニ于テ特殊ノ使節ノ承諾ナクテは受國警察
 察司法收税官吏カ之ニ入ルヲ得アルコトアリ其結果トシテ受國ノ行政上司法上ノ行為ハ外交使
 節ノ承諾ナクハ外交使節ノ居宅内ニ行ハルコトナキナリ使節ノ麻舎及ヒ車輛ハソノ居宅ト見ル
 上述ノ居宅ニ于テ特殊ノ使節ノ承諾ナクテは受國ノ警察官カ之ニ入ルヲ得アルコトアリ其結果トシテ受國ノ行政上司法上ノ行為ハ外交使
 節ノ承諾ナクハ外交使節ノ居宅内ニ行ハルコトナキナリ使節ノ麻舎及ヒ車輛ハソノ居宅ト見ル
 使節ノ特殊ノ權利ニ於テ受國ハ之ヲ黙視スルヲ要ス故ニ受國ノ犯罪人又ハ公使ノ隨員以外
 但ニ對シテ公使館ニ於テ庇護ヲ与ルノ權利ヲ使節ニ認ムルヲ要ス使節ハ固ヨリ公使館ニ
 逃込メル犯罪人入ルヲ許スヲ得ベキモ受國ノ政府ノ請求アルハ之ヲ引渡ササルベ
 カラス若シ使節カ引渡ヲ拒ムハ使節ノ身體ニ攻撃ヲ加フル以外ニ或ハ守衛ニヨリテ
 引渡ヲ強要スルヲ得普通ノ犯罪人ナルハ公使館周圍各路ヲ遮斷シ犯罪人ノ公使館外
 ニ出ツテ待テテ之ヲ逮捕スルヲ可トスルモ犯罪人駐劄國ニトリ重ナルハ強ク引渡シ公

使館内ニ付キ犯人ヲ逮捕シウヘキ也(コレヨリ立行日本使、若シ犯罪云々ハツク)

* 外國使節ニ接受國ノ領域内ニアル本國臣民ヲ捕ヘテ之レヲ本國ノ權力ニ移シ目的ヲ以テ大
使館内ニ拘留スルヲ得ス、一八九六年倫敦、支那公使ハ孫逸仙ヲ誘ヒテ公使館内ニ入ラシメ支
那ニ送ルタメ之レヲ拘留シタリ、支那公使ハ支那公使館ハ支那ノ領土ナルヲ以テ英國政府ニ手
涉ノ権利ヲ有セトナセルモ英國政府ハ抗議、結果孫逸仙ハ放セラレタリ、若シ犯罪ガ公使館
内ニ於テ治外法權ヲ有セザル個人ニヨリ行ハルハ犯罪人ハ接受國ニ引渡サルベキ也、一八六七年魯
國大使館内ニ於テ公使館員ヲ攻撃シテ之レヲ負傷セシメタリ、佛國ノ警察官ハ喚ビ入レラ
ル者大使館内ニ於テ公使館員ヲ攻撃シテ之レヲ負傷セシメタリ、佛國ノ警察官ハ喚ビ入レラ
レテ犯人ヲ捕縛セリ、然ルニ魯政府ハ犯罪者魯大使館内ニ行ハレタルトテ故ヲ以テ魯ノ法權ニ
屬シテ犯人引渡ヲ要求セリ然ルニ公國ハ犯人引渡ヲ拒絶シタリ、*(コレヨリニ行目、外國使節云々ハツク)
公使館内ニ火災起リ延焼ノ虞アルカ又ハ疫病者アリテ先介ノ手當ヲナシ得
ズ他ニ傳染ノ虞アルボ公共ノ安全ノ維持ノタメ緊急ノ必要アル場合ニ警察官
吏消防夫医員ガ公使館ニ入ル能ハサルヤ否ヤハ疑問ナルベシ、英オノ場合
ニ公使、明白ナル承諾アレバ入ルヲ得ルヲ疑ナシト虽氏假令明白ニ承諾カ言渡

サレサルモ公共ノ安全ノタメ緊急ノ必要アルトキハ館内ニ入ルヲ得サルヘカ
ラス

使節ノ公使館ニ于スル特権ハソノ沿革上治外法權ニ屬スルモ今日ニ於テハ
稍々内容ノ弛弛ナル不可侵權トシテ説明スルヲ得ヘク而シテソノ不可侵權モ
絶対的ニアラズシテ相對的ノモノナリトス

(4) 租税ニ于スル特権、外交使節ハソノ治外法權ニヨリ接受國ノ法權ニ服
セストナサ、ルヨリ凡ソノ直接的ニシテ且ツ對人的ナル課税ヲ免除セラル所
得税又ハソノ他ノ所謂直接税(不動産ニ于スル財産税ヲ除ク)ヲ払フヲ要セ
ズ市町村税ニ于シテハ外交使節モ利益ヲ得ヘキ地方的目的(例ハ火、下水
水道警察ホ)ノタメニ課セラル、モノハ使節ニモ之ヲ払フコトヲ要求シ得ヘ
シ(但シ實際ハ要求セザル場合有シ)ト虽氏ソノ以外ノ市町村税(例ハ、食
民救恤税ホ)ハ之レヲ払フコトヲ要求シ得ズ、関税ニ于シテハ直接的及ヒ對人
的ナル課税ニ屬セサルヲ以テ國際法ハ外交使節ノ之ヲ免除サル、コトヲ定メ
スト虽氏實際上ニ於テ礼節上ヨリ多数ノ國ノ国内法ハアル範圍ニ於テ外交官
ノ私用ノ貨物ニ對スル関税ヲ免除ス駐劄國ニ不動産ヲ有スル外交使節ハ他ノ

不動産所有者ト均シク賦産税ヲ払ハサルヘカラス但シ公使館ノ地所建物ニテ
シテハ礼節^上ヨリ免除ヲナスヲ常トス

(5) 警察権ニテスル特権。外交使節ハソノ治外法権ニヨリ駐劄國ノ警察権
ニ服セス警察ニテスル命令又ハ規則ノ拘束ヲ受ケス但シ外交使節ハ接受國ノ
内部ノ秩序ニ順適スル行動ヲナスコトヲ敢提シテ特権ヲ享有スルモノナル
ヲ以テ外交使節ハソノ任意ヲ以テソノ職務ノ執行ニ妨ケナク且ツ社会ノ一般
ノ秩序安全ニ必要ナル警察ノ命令又ハ規則ニ順適スルヲ期スヘキナリ仮令此
才、警察ノ命令規則ヲ守ラサルモ外交使節ハ之カタメ処罰ヲ受クルコトナキ
モ接受國ハソノ召還ヲ請求シ得ヘク事體稍重クレハ使節ノ領域外ニ退去スル
ヲ要求シ得ヘキナリ公共ノ安全ノタメ緊急ノ必要アル場合ニハ接受國ハ警察
ノ命令又ハ規則ヲ守ラシムルタメ相当ノ強制ヲ用フルヲ得ヘシ假令ハ傳染病
流行ノ際使節ノ必要ナル衛生警察上ノ規則ヲ守ラシメテ遷延シ人民ノ安全上
大ナル危害^虞アリト認めヘキ場合ノ如キハ強制ヲ用フルヲ得ルナリ

(6) 裁判所ノ証人トナルコトニテスル特権。外交使節ハ民事訴訟又ハ刑事
訴訟又ハ行政訴訟ニテシテ証人トシテ裁判所ニ出ツルノ義務ヲ負ハセラル、

コトナク又特ニ公使館ニ委任ヲ派シテ証言ヲ取ムル場合ニモ之ニ對シテ証言
ヲ負ハセラル、コトナカルヘキナリ然レモ若シ外交使節ニシテ進テ証人トシ
テ出廷シ又ハ証言ヲ与フルハ裁判所ハ之ヲ証拠ニ利用スルヲ得ヘシ此點ニ
于テ一八九六年ニ合衆國ニ起レル一事件アリワシントン駐劄ノ和蘭公使デ
ラ・ボエノ面談ニ於テ殺人犯行ハレソノ証言カ裁判ニ於テ必要ナリシヲ以テ
合衆國ノ國務モ官ハテラ・ボエノ証人トシテ出廷スルノ義務ナキヲ認めタル
ニ拘ハラヌ出廷センコトヲ請求セリテラ・ボエハワシントンノ他ノ外交使節
ト快談シテ國務モ官ノ請求ニ恣セサリシヨリ合衆國政府ハ和蘭政府ニ談判セ
リ和蘭政府ハテラ・ボエノ拒絶ヲ是認シタルモ國務長官ノ面談ニ於テ宣誓ヲナ
シテ証言ヲ与フルコトヲ約シタリ然レモ此ノ如キ証拠ハ犯罪地ノ法律ニヨレ
ハ効力ナキヲ以テテラ・ボエノ証言ハ之ヲトラスレテ止ニ合衆國政府ハ和蘭
政府ニソノ召還ヲ求メタリ

(7) 宗教ニテスル特権。外交使節ハ公使館内ニ自己ノ宗教ノタメニ自己ノ
禮拜堂ヲ設ケテソノ僧侶ヲシテ宗教上ノ禮ヲ行ハレメ且ツ自己家族隨員
及レソノ他ノ本國臣民ノ禮拜ヲナスニ供スルヲ認許サルヘキモノナリ昔時信

一〇〇
教ノ自由カ一般ニ認メラレサル時代ニハ此特権ハ重要ノモノナリシカ今日ニ於テ史的ノ價值ヲ有スルニスキス此特権ハ公使館外ニ於テ儀式ヲ行ヒ行列ヲナシ又ハ公使館内ニ於テモ鳴鐘ヲ鳴ラスコトニ及ハス又駐劄國ノ臣民ノ礼拝ニ供スルコトニ及ハス駐劄國ハ公使館外ニ於テ儀式ヲナシ若クハ行列ヲ作ルコト外部ニ喧シキ鳴鐘ヲ鳴ラスコト自國臣民ノ公使館内ノ礼拝堂ニ於テ礼拝スルコトヲ禁スルヲ得

(8) 本國ノ法ヲ執行ノ補助ニテスル特権。治外法權ノ資格ハ外交使節ノ隨員ニ及フヲ以テ接受國ハ之ニ對シテ法權ヲ行ハス故ニ本國ハ使節ニ相當ノ範圍内ニ於テ自己ノ法權ヲ行フコトヲ補助セシムルヲ得サルヘカラス又犯罪ヲ行ハル隨員ニ對シテ規律ノ事項ニ對シテ法權ヲ行フヲ得サルヘカラス又犯罪ヲ行ヘル隨員ヲ逮捕シ之ヲ審問ノタメ本國ニ送ルコトヲ得サルヘカラス但シ今日於テハ使節自身カソノ隨員ニ對スル刑事訴訟ノ審問及ヒ判決ヲナスコト認メラレサルモ昔時ニハ此例アリ一六〇三年特別ノ使節ヲ帶ヒテ仙國ノアンリ¹四古ニコリソノ國ニ差遣サレタルスユリハソノ隨員ノ殺人ヲ犯セルニ當リ倫敦ニ於テ仙人ノ陪審官ヲ召集シテ死刑ノ宣告ヲナセリ犯罪人ハ刑ノ執行ノ

タノ英國ノ官憲ニ引渡サレシカ英王ジョージエームス一帝ハ之カ執行ヲ猶予セリ
(9) 使節ノ駐劄國ニ住所ヲ有セサルヲ認メラルノ特権。治外法權ノ資格ノ一ノ結果トシテ使節ハ駐劄國ニ住所ヲ有セサルコトヲ認メラルノ特権アリ而レテ本國法ハ使節カ本國ニ住所ヲ有スルト着做ラ常トス駐劄國ニ滞在中小兒生ルハトキ恰モ駐劄國內ニ生レタルカ如ク着做サルヲ常トス

使節ノ特権ハ何時ヨリ享有スヘキヤニテシテ議論アリ理論上ニ於テハ外交使節ノ任務ハ駐劄國カ正式ニ公使ノ接受ヲナセルキヨリ始マルモノナルヲ以テ使節ノ任務ノ必要ノタメニ認ムル特権ハ信任狀提出ノ時期ヨリ開始スヘキモノナリトスル説モ立テ得ヘシト虽モ外交使節ノ特権ハ今日ニ於テハ主トシテ職務執行ノ必要ノタメニ認ムルモノナルモ猶ホ一ハ外交使節カ或ル程度ニテ本國ノ威嚴ヲ代表ストナス着念ニ因ル所アルモノナルヲ以テ理論上ニ於テモ外交使節ハ本國ニ於テ信任狀ヲ受ケタルキヨリ既ニ外交使節タルノ資格確定シ此資格ハソノ携ワル所ノ旅券ニヨリ充分証明サレ得ヘキヲ以テ信任狀提出ニ於テモ駐劄國ノ境ニハルヤ否ヤ駐劄國ニヨリソノ身体ノ安全及ヒ不可

一〇二
侵ニ于係アル特權ヲ認メラルヘキモノナリトスルノ理論立ケ得ヘキナリ且ツ
今日ノ慣例ニ於テ信任狀提出以故ニ於テモ特權ノ認メラル、コトハ之ヲ蔽フ
ヘカラス是レ今日ニ於テハ最早法律上ノ義務ト于係ナキ駐劄國ノ好意ヲ以テ
説明シ得サル所ナリ

外交使節ノ第三國ニ對スル地位

外交使節ハ甲國ヨリ乙國ニ對シテ差遣サレ乙國カ之ヲ接受スルモノナルヲ
以テ甲乙以外ノ第三國タル丙國ハ甲乙兩國向ノ外交使節ニ付テ直接ニ于係ス
ル所ナシト雖モ次ノ三ノ場合ニ于テ甲國ノ乙國ニ差遣スル外交使節ノ丙國
ニ對スル地位ヲ研究セサルヘカラス

(1) 甲國ヨリ乙國ニ差遣サレタル外交使節カ乙國ニ達スルタメ丙國ノ領域
ヲ通過スル場合

(2) 甲國ヨリ乙國ニ差遣サレ乙國ニ駐劄スル外交使節カ乙丙兩國ノ戰爭ノ
際丙國ノ戰時占領地又ハ丙國ノ攻囲地ニ現在スル場合

(3) 甲國ヨリ乙國ニ差遣サレクル外交使節カ兩國ニ于スル事項ニ付キ于復
ヲナス場合

(1) 甲國ヨリ乙國ニ差遣サレタル外交使節カ微行シテ又ハ単ニ自己ノ快樂
ノため丙國ノ領土ヲ通過スル場合ニハ如何ナル特權ヲモ要求シ得サルコト疑
ヲ容レサルナリ此場合ニハ好意上特ニ鄭重ニ取扱ハル、コトアルヘキモ法律
上兩國ノ領土内ヲ旅行スル他ノ外國人ト今地位ニアルナリ然レモ外交使節カ
甲國ヨリ任地タル乙國ニ達スルタメ兩國ノ領土ヲ通過スル場合ニ於テハ外交
使節カ甲國ヨリ乙國ニ差遣サレタルモノナルノ故ヲ以テ直チニ丙國ニ於テハ
何オノ特權ヲ享有シ得スト論スルヲ得今日ニ於テハ丙國カ甲乙兩國ノ孰レ
トモ交戦于係ニアラサル以上ハ該使節ニ對シテ無害通行ノ權利ヲ許与セサル
ヘカラサルコト確立セリト去フヲ得ヘキナリ但レ丙國ハ不可侵權治外法權オ
ノ特權ヲ之ニ認レルヲ要セサルナリ而シテ無害通行ノ權利ハ通行ニ必要ナル以
上ニ領域内ニ滞在スルノ權利ヲ含マサルナリ

一八五四年マドリッド駐劄ノ合衆國使節スーレカ巴里ヲ經由シテマドリッ
ドニ達スルタメカレニ上陸セシカスーレハ曾テ仙國人ニシテ合衆國ニ帰化
シタルモノニシテ且ツナポレオンニ非難スル演説ヲナセリトノ報アリシ
ヲ以テ仙國政府ハソノ巴里ニ滞留スルヲ妨ケント欲シ果シテ巴里ニ滞留スル

ノ意思アルヤ否ヤヲ確ムルタメ一時カレニ抑留セリスレハ直チニカレ
 ヲ去リシカ仏國政府ハ此事件ニ于スル合衆國トノ交信ニ於テスレカマドリ
 ヲトニ達スルタメ仏國ヲ通過スルニ付キテハ異議ナカリシモ仏國政府ハス
 レノ巴里又ハ仏國內ノソノ他ノ場所ニ滞留スルヲ許スヲ欲セサリシト云ヘリ
 丙國カ差遣國タル甲國若クハ接受國タル乙國ト交戦中ニアルハ無害通行ノ
 権利ヲ認ムルヲ要セサルナリ丙國ト交戦于係ニアル甲國ノ使節ニシテ乙國ニ
 達スルヲメ丙國ヲ通過セントスル場合ニハ丙國ハ之ヲ捕ヘテ傳虜トナスヲ得
 一七四四年仏國ノ大使ベルイール元帥カ伯林ニ赴カントシテ途上クグア
 過キントセルニハノグアールハ当時英國ト共ニ仏國ト戦争中ナリシヲ以テ之ヲ
 捕ヘ傳虜トシテ英國ニ送レリ

(2) 戦時ニ於テ乙國ト交戦于係ニアル丙國カ乙國ノ土地ヲ占領セル場合ニ
 ソノ土地ニアル乙國駐劄ノ甲國公使ハ丙國ニ對シテ如何ナル程度ノ特權ヲ享
 有シ得ヘキヤハ國際法上未タ明確ニ定マラサル所ナリ乙國ノ領土ノ一部ニ戰
 時占領行ハルモ乙國ハ滅ビサルヲ以テ乙國駐劄ノ甲國ノ使節ハソノ外交使
 節タルノ資格ヲ保有シ從テソノ外交使節トシテノ特權ヲ認メラルヘキモノ

ノ如キモ戰時占領ヲ行ヘル丙國ハ該使節ヲ接受セル國ニアラサルヲ以テ丙國
 カ如何ナル程度ノ特權ヲ認ムヘキヤハ理論ヲ以テ之ヲ定ムルヲ得スシテ此点
 ニ於テ特別ノ慣例又ハ条約ニヨリ規則ノ確立スルヲ待タサルヲ得ス外交使節
 カ欲スル片ハ自領地ヲ去ルコトヲ認メサルヲ得ス又外交使節ニ對シテ自身体榮
 譽ノ不可侵ヲ認メサルヲ得サルコトハ疑ヲ容レサルモ外交使節カ欲スル片自
 領地ニ留マルコトヲ認メサルヘカラサルヤ否ヤ自領地ニ留マルコトヲ許スト
 キハ外交使節ニ治外法權ヲ認メサルヲ得サルヤ否ヤニ于シテハ國際法規カ未
 タ確立セサルモノト云ハサルヲ得ス攻圍地ノ場合ニ于テ戰スル一ノ先例アリ一
 ハ七〇年独乙軍カ巴里ヲ攻圍セル際巴里駐劄ノ合衆國大使ウオッシュン
 ハ独乙軍ヲ通過シテ封城ヲ施セル囊ニ叔メタ盾ヲ携ッル使者ヲ倫敦ニ送ル
 ノ権利ヲ要求セリ然ルニ独乙人ハ此ノ如キ権利ヲ認メスシテ合衆國政府カ一
 國政府トソノ使臣トノ間ノ秘密ノ通信ハ國際代表者ノ國際法上存スル當然ノ
 結果トシテ認メラレサルヘカラストシテ之ニ抗議セルモ独乙ハ讓歩ヲナサ
 リシナリ蓋シ交戦國ハ交戦ノ必要上攻圍地域内ニアル第三國外交使節ノ交通
 ニ相当ノ制限ヲ加フルコト止ムヲ得スト云ハサルヘカラス

(3) 甲國ヨリ乙國ニ差遣サレタル外交使節ヲ乙國ト第三國タル丙國トノ間ノ事項ニ于テ預スヘカラサルハ言テ俟タス若シテ預ラサハ丙國ニ對シテ何カノ特權ヲモ享有スルヲ得サルニ至ル一七三四年波蘭駐劄ノ仙國使節モシテ侯ハ波蘭及ヒ露國ノ間ノ戰爭ニ于テ露國ニヨリ移屬トセラルル仙國ノ坑譏ヲナセシモ一七三三年ニ至ルマテハ釈放セラレス

外交使節ノ隨員

外交使節ノ隨員ハソノ家族公使隨員及ヒ公使隨員ノ家族通信傳達者及ヒ使節又ハ公使隨員ノ私ノ使用人ヲ含ム

公使隨員ハ本國政府ノ任命スル所ニシテ公ノ資格ヲ以テ使節ニ從屬ス公使隨員ハ參事官層記官外交官補層記生通記官ホラ含ムソノ他法教師醫師又ハ法律顧問カ本國政府ニヨリ任命サレ公使隨員トナルコトアリ公使隨員ノ名簿ハ使節ヲ接受國ノ外務省ニ提出シ變更ナル毎ニ時々訂正ヲナス參事官及ヒ層記官ハ使節之ヲ外務大臣ニ紹介シ時ニ接受國ノ元首ニ謁見ス

外交使節又ハ公使隨員ノ私ノ使用人ハ外交使節又ハ公使隨員ノ私ノ秘書役小見ノ雇教師又ハソノ他ノ雇人ヲ含ム

(公使隨員ノ家族亦含シ)

特權ノ及フ外交使節ノ家族ハ妻子及ヒソノ他ノ全棲スル近親ノ家族ヲ含ム通信傳達者ハ使節ヨリ本國政府ニ送り又ハ本國政府ヨリ使節ニ送ル文層ヲソノ間ニ傳達スル使者ニシテ通信ノ安全及ヒ秘密ニ保ツタメ特ニオクトコロナリ

公使隨員ハ使節ノ如ク不可侵權及ヒ右外法ヲ享有ス故ニ駐劄國ノ民事及ヒ刑事ノ法權ニ服セスソノ警察權ニ服セスソノ課稅ヲ免除サレ証人トシテ出典スルノ義務ヲ免除サル接受國ニ於テ子カ生ルハ皆ヒ本國ニ於テ生レタルカ如ク看做ス公使隨員ノ特權ハソノ差遣國ノ公使隨員タル公ノ資格ノタメニ差遣國ニ對スル關係ニ於テ國際法上認めラルル所ナルヲ以テ外交使節一個ノ考ヲ以テ公使隨員ノ特權ヲ拋棄セシムルヲ得ズ公使隨員自身モ亦自己一個ノ考ヲ以テ拋棄スルヲ得ズ之ヲ拋棄シ得ルハ差遣國自身ノミナリトス差遣國カソノ公使隨員ノ特權ヲ拋棄セ率例アリ一八九九年ニ於テ智利ノサンチアゴ川ノ地ニ公使隨員ノ層記生ウイルヘルム、ベツカートカ智利人ナル公使隨員ノ玄關番ヲ殺シ公使隨員ニ屬スル金田ヲ費消セル罪跡ヲ蔽ハンカタノ公使隨員ノ事務

一〇一
町ニ放火セルニ当リ独乙政府ハソノ智利ニ於テ処罰セラル、ヲ承諾シ審問ヲ
受ケ有罪ニ宣告サレ一九一〇年七月五日サンチアゴニ於テ死刑ニ処セラレ
タリ

外交使節及ヒ公使館員ノ私ノ使用人カ接受國ノ臣民^{タラサル}トキハ之ニ民
事上及ヒ刑事上ノ法ヲ免除スヘキコト認メラル然レモ公使カ私ノ使用人ノ
特扱ヲ拋棄セシト欲セハ拋棄シ得是レ公使館員ノ特扱ト異ナルノ一点ナリ公
使ノ私ノ使用人カ公使館外ニ於テ犯罪ヲ犯セル場合ニ於テ警察ハ之ヲ逮捕シ
得ヘキモ若シ公使カ刑事上ノ法ヲ免除ノ特扱ヲ拋棄セサル^ハ直チニ之ヲ
釈放セサルヘカラス私ノ使用人ノ居住租税^キニ于ル^ル特扱ハ國際法上確立セ
ルヤ否ヤ不明ナルヲ証明シ得ズ

公使ノ妻及ヒ子及ヒ令嬢^{スル}近親ノ家族ニ于シテ區別ヲ立テサルヘカラス
公使ノ妻ハソノ不可侵及ヒ治外法權ニ于シテ公使ト全シテ特扱ヲ有スルモ公
使ノ子及ヒソノ他ノ近親ノ家族ニ于シテハ駐劄國ノ民事上刑事上ノ法ヲ免
除ヲ受フルノ特扱ハ確立セリトモ^{ソノ}以外ノ特扱ハ國際法上確立
セルヤ否ヤ不明ナリ民事上及ヒ刑事上ノ法ヲ免除ノ特扱モ昔時ハ一般ニ認

メラル、ニ至ラザリシナリ一六五三年倫敦駐劄ノ葡萄牙大使ノ兄弟ニシテソ
ノ隨員ノ一人タルドン・パンタレオン・サカグリーンウエート^ト稱スル英人ヲ殺
スヤ英國ニ於テ逮捕審問サレ有罪ノ宣告ヲ受ケ死刑ニ処セラレタリ今日ニ於
テハ公使^{スル}公使ノ近親ノ家族ノ民事上及ヒ刑事上ノ法ヲ免除ヲ受クヘキ
コト認メラル一九〇六年ブリュッセル駐劄ノ智利公使ノ子カルロ・ワッティン
トンカ智利公使館ノ書記生ヲ殺スヤ自耳義ノ官憲ハ捕縛ヲ行ハス然ルニ二日
后智利ノ公使ハソノ子ノ法ヲ免除ノ特扱ヲ拋棄シ三月二日智利政府モ犯人カ
自耳義ニ於テ訴追セラル、コトヲ承認シ一九〇七年七月審問開カレタルカワ
ッティントンハ自耳義人ノ陪審者ニヨリテ無罪トセラレタリ公使館員ノ家族
ニ付キテモ公使ノ家族ニ準スル特扱ヲ認ムヘキナリ

通信傳達者ハソノ携^ル外交文書ノ安全及ヒ秘密ヲ確ムルタノ民事上及ヒ
刑事上ノ法ヲ免除ヲ受ケ又ソノ職^務ヲ行フノ間特別ノ保護ヲ受クヘキモ、
トス通信傳達者ハ第三國ヲ經由シテ無害通行ヲナスノ権利ヲ有セサルヘカラ
ス又荷物中外交文書ヲ含ミ公印ヲ以テ封印セラレタル部分ハ開封搜索スルヲ
得、通信傳達者ハソノ資格ヲ証明スルタノ特別ノ旅券ヲ携^ルルヲ常トス

外交使節ノ職務ノ終了

外交使節ノ職務ノ終了ノ原因タル申実ハ次ノ如シ

(1) 使節カ一定ノ任務ノタメニ派遣セラレタルモノナルハ派遣ノ目的タル任務ノ終了。例ハハ國際會議ノ全權委員トシテ派遣セラレタルモノハ會議終ハレハ任務終了ニ但シ任務終了後帰國スルニ至ルコトヲ特扱ヲ有ス

(2) 使節カ一定ノ期間ヲ限リテ任命セラレタルモノナル時ハソノ期間ノ終了。例ハハ大使ノ更ノ際一時信任状ヲ臨時代理公使ニ附与シテ次ノ大使ノ任命ナルコトヲ期限トシテ代表ヲナサシムルコトアリ得ヘシ此場合ハ次ノ大使ノ任命ヲ以テ臨時代理公使ノ職務終了ス

(3) 使節ノ昇才。例ハハ一國ニ駐劄スル公使カ全國ニ駐劄スル大使トナルコトヲハ公使トシテノ職務ハ終了シ從テ新ナル信任状ヲ受ケテ之ヲ駐劄國ニ提出セサルヘカリス

(4) 使節ノ死去。使節死去スルモノノ家族及ヒソノ他ノ隨員ハソノ國ヲ去ルニ必要ナル相当ノ期間内ハ特扱ヲ有ス相当ノ期間ヲスキテ國內ニ留ルトキハ此才ノモノハ特扱ヲ失フ駐劄國ハ之才ノモノ、出發スヘキ相当ノ期間ヲ定

メテ通告スルヲ得使節ノ遺産ニ于シテ駐劄國ノ法廷及ヒソノ他ノ官憲ハ法廷ヲ有セス之ニ對シテ課税ヲナスヲ得駐劄國ノ官憲ハ使節ノ本國ノ特別ノ要求アルニアラサレハ家財及ヒ唇類ニ于係スルヲ得ス就中公私ノ唇類ニハ駐劄國ノ官憲ハ于係スヘカリスシテ之ヲ封印スルニ當リ之ヲ行フヘキ公使館員若クハ臨時他ヨリ至ル本國ノ外交官又ハ領事館ナキ場合ニ於テハ寧ロ全國内ニ駐在スル他國ノ外交官カ之ヲ行フヘキモノトス

(5) 使節ノ召還。本國政府ノ召還ハ或ハ本人ノ辭職ノ意思ニヨルコトアリ或ハ政府ノ之ニ信任ヲナサシメ又ハ之ヲ免官シ若クハ之ヲ休職トナサントスルニヨルコトアリ或ハ本國ト駐劄國トノ間ノ紛議ニ基キ政府カ自發的ニ召還スルニヨルコトアリ或ハ駐在國カ使節ノ一定ノ行為ノタメニ召還ヲ本國政府ニ要求スルニ因ルコトアリ若シ召還カ駐劄國ニ對スル友誼ノ害サレタルニ因ルニアラサレハ使節ハ本國ノ元首(代理公使ハ本國ノ外務大臣)ヨリ解任状ヲ得テ駐劄國ノ元首ニ謁見シテ之ヲ奉呈ス(代理公使ハ外務大臣ニ交附ス)駐劄國ハ解任状ヲ受フレハ旅券ヲ交付セサルヘカラス而シテ之ト同時ニ駐劄國ノ元首ハ信任状ヲ手ニ任官中ニ于スル満足ノ意ヲ表スルコトアリ

召還カ本国ト駐劄國トノ間ノ紛議ニヨル外交于係ノ中止ニ基テハ解任状ヲ發スルコトナク謁見ヲモサスレテ直ニ外務省ニ寄託セル旅券ノ返還ヲ求メテ帰國ノ途ニ就クヲ常トス此場合ニ於テハ信任答状ヲ受フルコトナシ此場合ニ於テ使節ハソノ帰國スルマテハ特權ヲ有ス

召還カ使節自身ノ駐劄國ノ内政ノ干渉若クハ非行ガノ行為ニヨリテ駐劄國ノ要求スル所ニ係ル場合ニ於テ本国政府カ召還ノ要求ヲ不当ナリト認ムルトキハ外交于係ノ破裂ヲ生スルコトアリ此場合ニ於テ使節ノ帰國ノ際ノ手續ハ本国ト駐劄國トノ間ノ紛議ノ場合ト異ナルコトナシ

(6) 旅券ノ交附。駐劄國カ自發的ニ旅券ヲ使節ニ交附スルトキハ使節ノ職務終了ス駐劄國カ自發的ニ旅券ヲ交附スルハ是レ退去ヲ命スルモノニシテ或ハ駐劄國ト使節ノ本国トノ紛議ニ基クコトアリ駐劄國カ自發的ニ行フ旅券ノ交附ハ外交于係ノ破裂ヲ生スヘキヲ以テ容易ニ之ヲ行フヘキニアラヌ使節ノ行為ニ基キテ退去ヲ命スルハ緊ニ必要アリテ召還ヲ使節ノ本国ニ取ルルノ手續ヲナスノ違ナキニアラサレハ之レヲ行ハサルヘキナリ旅券ノ交附ノ場合ニ公使館ノ唇美ニ封印ヲナシ之ヲ第三國ノ公使館ニ寄託スルコトアリ

旅券ノ交附カ使節ノ召還ナキ場合ニ於テ使節ノ要求ニ基キテ行ハルコトアリ之レ駐劄國ノ取扱ニ不平ナルガノ原因ニヨリ召還ヲ得ルヲ待タスシテ旅券ノ交附ヲ要求スルモノナリ此場合ニハ必スレモ外交于係ノ破裂ヲ生セス(7) 戦争ノ開始。使節ノ召還ノ行ハルニ先テ本國ト駐劄國トノ間ニ於テ戦争ノ開始サルトキハ使節ノ職務ノ開始ニヨリ当然終了ス此場合ニモ旅券ヲ受取リテ帰國スルニ至ルマテ特權ヲ有ス

(8) 使節ノ本國又ハ駐劄國ノ併合。使節ノ本國又ハ駐劄國カ任意的又ハ征服的併合ニヨリ國際法上ノ人格ヲ失ヘル場合ニハ使節ノ職務ハ当然終スルモノトス駐劄國ノ併合ノ場合ニハ併合國ハ併合サレタル國ノ接受セル使節カソノ外交唇美ヲ携ヘテ安全ニ退去スルコトヲ認メレハカラス使節ノ本國ノ併合ノ場合ニハ併合サレタル國ノ唇美及ヒ公使館ノ屬ノ財產ニ付キ相續起リ之ハノ財產ハ併合ヲナセル國ニ歸ス然レモ併合ノ通知ナキ間ハ駐劄國ハ之ニ于係ニテ何ナク処置ヲナスノ義務ナシトス

(9) 元首ノ變動。之ヲニシテ今テ説クハシ
(10) 自然ノ更迭。使節ノ本國又ハ駐劄國ノ元首カ元首ノ崩御又ハ讓位又

ハ任期、終了ガニヨリ一國ノ憲法ノ規定ニ從テ変更スルハ使節ノ職務終了ニ依然ソノ地位ニアルタリニハ新ナル信任状ヲ得サルヘカラス然レハ新ナル信任状ヲ得ルトキハ就任ノ順序ハ旧ニヨルモノト着做サル又新ナル信任状ノ着スルマテノ間モ特權ヲ充テ有ス共和国ノ大統領ノ更迭ハ慣例上必スレモ信任状ヲ更新セス

(四) 事変ニヨル更迭。例ヘハ革命的運動起リ本國又ハ駐在國ニテ共和政ヲ變レテ王政トナシ又ハ王政ヲ變レテ共和政トナシ又ハ一王統ヲ廢シテ他王統ヲ立ツルオノ事起ルトキハ使節カソノ地位ニアルタリニハ信任状ノ更迭ヲナサハルヘカラス更新ヲ得ルトキハ就任ノ順序ハ旧ニヨリ變更ナスト見做ス事変ニ因ル變動ノ際使節ノ召還アルトキハ臣民ノ保護ハ領事之ニ當ル駐在國政府ノ事変ニヨル變動ノ際ニ於テハ使節ノ本國ハ形勢カヲ看望シテ新信任状ヲ与ヘス又召還ヲモナサ、ルコトアルヘシ此場合ニハ國際法上嚴ニ云ハハ使節ノ資格行ハレタルモノナルモ國際ノ特權ニ於テ外交使節ノ特權認メラル

第十九章 領事

領事ノ沿革

希臘人及ヒ羅馬人ハ外國人ヲ保護スルモノヲ任命セルコトアルモ是レ一國カソノ國ニ在爾スル外國人ヲ保護スル^{為シ}任命セル所ニシテ今ノ領事ト異ナレリ領事制度ノ起原ハ之ヲ中古ノ前半ニ求メサルヘカラス第六世紀以右伊西伯ノ地中海ノ諸商業市ニ於テハ商人及ヒ航海業者ノ団体カ互選ニヨリテ仲介者ヲ送ヒ商業上ノ紛議ヲ解決セシメタリ之レ領事ノ制度ノ濫觴ヲ以テ因スヘキ所ナリ

十字軍ノ頃及ヒソノ右ニ於ケル自由都市ノ發達ト共ニ此種ノ制度重キヲ加ヘ伊西伯ノ商人カ東方ノ諸國(小亞細亞、シリヤ、パレスタイン、埃及等)ニ居爾スルヤ領事ノ制度ヲ此ガ一居留地ニモ行ヒ全國ノ商人ノ間ニ領事ヲ送メリ當時法ノ屬人主義行ハレ商人ハ各々ソノ本國ノ法律ニヨリ支配サレタリ此ガ領事ノ權限ハ所謂「カビテユレ」シヨンスルナル條約イカニヨリ拓ケラレ遂ニ領事ハソノ國人ノ民事上刑事上ノ裁判權ノ全般及ヒソノ國人ノ生命財產特權ノ保護ヲ以テソノ權限トナスニ至レリ而シテ領事ノ制度ハ東方ヨリ更ニ西

方ニ移植サレ十五世紀ニ於テハ伊太利諸國ハ和蘭及ヒ英國ニ領事ヲオキ英國
ハ瑞典和蘭那威丁抹及ヒ伊太利ノビサニ領事ヲ置ケリ此ガノ歐洲西部ノ領事
モ東方ニ於ケル如クソノ國ノ商人ニ對スル民事上及ヒ刑事上ノ裁判ヲ專轄
セリ此ノ領事ハ当初商人ノ団体ノ送出ニ係リ本國政府ノ官吏ニアラサリシ
ナリ然ルニ十六世紀ノ頃領事ハ本國政府ノ官吏トナレルモノ、如シ十七世紀
ノ初メニ於テ西方ノ諸基督教國ノ内部ノ組織整頓シテ法ノ屬人主義ノ思想表ヘ
且ツ常駐外交使節ノ制度確立スルニ至レヨリ西方ノ基督教國ニ於ケル領事
ノ職務ハソノ範圍ヲ狭ムルニ至リ領事ハ主トシテソノ本國ノ人民ノ通商航海
ニ于スル便宜ヲ圖ルノ機ヲトナルニ至レリ領事ハ十七世紀ニ於テハ殆ント
度外視サレシカ十九世紀ニ入り國際貿易及ヒ航海カ一般ニ發達セルタメ諸國
ノ政府ハ領事ノ必要ヲ認ムルニ至リ各國ノ国内法ニ於テモ領事ノ制度ハ整頓
スルニ至リ領事ノ地位職務及ヒ特權カ通商條約又ハ特別ノ領事條約ニ於テ規
定サルニ至レリ

領事ノ種類及ヒ階級

領事ヲ差遣領事ト選任領事ノ二種ニ分ツテ得ヘシ所謂選任領事トハ我國ノ

制度ニ於テ名譽領事ト稱スルモノニシテ特ニ領事ヲ差遣セシメテソノ土地ノ
人(多クハ商人)ノ中ヨリ選任シテ領事ノ事務ヲ行フヲ屬托スルモノナリ普
通ハソノ土地ノ國人中ヨリ選任スル自國人又ハ第三國人ヲ選任スルモ可ナリ
差遣領事又ハ專務領事ハ一定ノ俸給ヲ受ケル官吏ニシテ傍ラニ商業ヲ營ム
ヲ得スト虽モ送任領事ハ手當金ヲ受ケルコトアルモ一定ノ俸給ヲ受ケヤレヲ
常トシ商業ヲ營ムヲ妨ケス領事條約中殊ニ差遣領事ニ付キ或種ノ特權ニ享
有ヲ認ムルコトアリ國ニヨリ全ク選任領事ヲ用ヒサルアリ(仙國)然レトモ
多數ノ國ハ時ニ選任領事ヲ用フ
領事ノ階級ニ四ヲ認ムルヲ常トス總領事副領事及ヒ代弁領事是レナリ
又領事代理ヲ領事ノ一ノ階級トシテ認ムル國アリ(英國)
總領事ニ二種アリ數多ノ領事ノ上ニ立ケ之ヲ監督スルモアリ單ニ普通ノ領
事ニ比シテ又キ又ハ重要ナル管轄區域ヲ有スルニ過キタルモノアリ我國ノ現
在ノ總領事ハ第一種ニ屬ス副領事ハ總領事又ハ領事ヲ補佐スルモノニシテ國
ニヨリテハ領事カ本國ノ承認ヲ條件トシテ自ラ選任スルアリ我國ノ制度ニ於
テハ副領事ハ領事ノ次階級ノ領事官ヲ指スモノニシテ副領事モ領事館又ハリ

分館ノ長トナルコトアリ」代弁領事ハ總領事又ハ領事カソノ管轄区域内ノ職務ヲ補佐セシムルモノ本國政府ノ承認ヲ至テ送任スルモノニシテ之ヲ送任スル總領事又ハ領事カ代弁領事ノ行為ニ付キ本國政府ニ對シテ責任ヲ負フモノナリ代弁領事ハ本國外務省ト直接ニ通信セス我國ノ制度ニ於テハ代弁領事ナルモノ認メラレス領事代理(「プロコンサル」)ハ領事ニテラステ總領事又ハ領事ノ一時ノ不在又ハ病氣ノ間臨時ソノ職務ヲ執ル所ノ事務代理ナリ英國ニ於テハ所謂「プロコンサル」ハ領事官ノ一階級ニシテ原則トシテ單一領事館ノ公証的職務ヲ行フ

我國ニ於テハ領事官ニ總領事、副領事及ヒ領事官補ノ階級ヲ認メ領事官ヲ置カサル地ニ於テハ領事事務官又ハ名譽領事若クハ名譽副領事ヲオク又領事館ニ書記生ヲオク

領事ノ一般ノ性質

今日ニ於テハ領事ハ任命國ノ概テニシテ主トシテ通商航海ニ于スル任命國人ノ利益ヲ進擧スルヲソノ職務トナス領事ハ元來駐在國政府ニ對シテ任命國政府ヲ代表シテ談判スルモノニアラス駐在國政府トノ談判ハ自國ノ外交使節

ヲ至由シテ之ヲ行フヘキモノトス但シ領事ハ條約又ハ慣例ニ依リソノ管轄區域内ノ行政官又ハ裁判所ニ照会ヲナスヲ得ヘキコト認メラル又條約又ハ慣例ニヨリ本國代表者ノ不在ノ節ハ直接ニ駐在國ニ申シ出ツルヲ得ヘキコト認メラル

領事ハ外交官ノ特權ヲ有セスソノ職務執行ニ必要ナル特權ハ之ヲ認メラルハヲ常トスルモ現今ニ於テハ概シテ領事ノ特權ノ享有ニハ條約ノ規定ノ基礎ヲ待タサルヘカラストスルヲ普通ノ説トス

一般ノ外國人ニ對スル領事裁判ノ制度ヲ存スル國ニアリテハ領事ハソノ本國人ニ對シテ民事及ヒ刑事ノ裁判管轄ヲ行フ

領事ハ時トシテ通常ノ場合ニ外交官ノ行フヘキ職務ヲ行フコトアリ此場合ニハ普通ニ外交事務官ノ官知ヲ兼有ス外交事務官ヲ兼テハ領事ハ歐洲諸國カ他國ノ從國ニ派スルコトアリ又ハ小國カ他國ニ派スルコトアリ外交事務官ノ名ヲ兼有スルモ特別ノ條約ニ基テニアラサレハ外交使節ノ特權ヲ有スルコト國際法上確立セサルカ如シ但シ領事カ兼テ代理公使トシテ信任狀ヲ授ケラル、トキハ一方ニ外交使節ノ資格ヲ有シ從テ外交使節ノ特權ヲ有スルコト

領事ヲ外交使節ト比較スルハ其ニ違フル諸点ノ差異アリ

- (1) 外交使節ハ外国政府ニ対シテ任命國ヲ代表シテ外国政府ト談判スルノ概チナリト雖モ領事ハ元來任命國ヲ代表シテ直接ニ外国政府ト談判スルキモノニアラス地方官憲ト照会ヲナスコトナキニアラサルモ駐在國ノ中央政府ト談判スルニハソノ國駐劄ノ自國外交使節ヲ經由セサルヘカラス
- (2) 外交使節ハ國家ノ國際上ノ全体ニ于テ利益殊ニ政治上ノ利益ヲ進捗スルヲ主タル職務トシ領事ハ人民ノ通商交通上ノ利益ヲ進捗スルヲ主タル職務トス
- (3) 外交使節ノ差遣接受並ヒニソノ駐在國ニ於テ職務ヲ執ルコトハ特別ノ核定ノ基礎ヲ待タズレテ行ハル、モノナルモ領事ノ差遣接受及ヒソノ駐在國ニ於テ職務ヲ執ルコトハ特別ノ核定ノ基礎ヲ要ス
- (4) 外交使節ハ信任狀ノ提出ニヨリ直チニ職務ヲ行フヲ得ヘキモ領事ハ任命國ノ信任狀ノ提出ノ后駐在國カ認可ヲ与ヘテ始メテ領事ノ職務ヲ行フヲ得

(5) 外交使節ハ外交上ノ係ノ全体ニ付キ一國政府ヲ他國政府ニ対シテ代表スルモノナルヲ以テソノ職務ハ地方的ノモノニアラス然ルニ領事ノ職務ハ多少地方的ノモノナルヲ以テ一國ハ他國ニ收買ノ領事ヲ派遣シテ而シテ各領事ノ職務区域ヲ定ム領事ノ職務区域ハ駐在國政府ノ承認ヲ得テ之ヲ定ム

- (6) 外交使節ハソノ駐劄國ニ駐在スル任命國ノ領事ヲ監督シ領事ハソノ監督ノ下ニ立ツナリ(但シ領事ハ直接ニ任命國政府ト交信シ得ルナリ)
- (7) 外交使節ハ國際法ノ結果トシテ当然特權ヲ享有スルモ領事ノ特權ハ現今ニ於テハ條約ノ基礎ヲ要ストナスヲ普通ノ説トス或ハ領事官ニモ職務ノ執行ニ必要ナル特權ヲ与ヘサルヘカラストナスノ説アリ此説ニヨレハ書類ノ不可侵及ヒ領事館内ニ現在スルコト又ハ領事ノ事務ノタノ居所ヲ移スコトガ防クヘキ駐在國々内法上ノ義務ノ免除(例ハ陪審者トナルノ義務ガ免除シ刑事被告トナル片入獄セサルヲ得セシムルヲ要ス)ヲナスヘシトス
- (8) 外交使節ト領事トハ職務ノ終了ノ原因ニ于シテモ差異ナリ

独立国ハ相手国ノ承認アレハ領事ヲ差遣シ得ヘク又相手国ヨリ差遣スル領事ヲ接受シ得ヘキハ言ヲ須クス從國ト臣民主國カ之ヲ認ムル場合ニ於テハ領事ヲ外國ニ派遣スルヲ得ヘク又他國ノ派遣スル領事ニ認可ヲ与フルヲ得ヘシ保護國ニ付キテハ自ラ對外ヲ維持スル乙種保護國ハ他國ノ派遣セル領事ニ認可ヲ與ヘ得ヘク又他國ニ自ラ領事ヲ派遣シ得ヘキモ普通ハ自ラ領事ヲ外國ニ派遣セシテ保護ヲ与フル國ノ領事ニ在外人民ノ護保ヲ委ヌ對外ヲ係ヲ保護ヲ与フル國ニ委テタル甲種保護國ニ於テ他國ノ派遣スル領事ノ認可ハ原則トシテ保護ヲ与フル國カ之ヲ与フヘキナリ此種ノ保護國ハ他國ニ領事ヲ差遣スルニハ極メテ稀ニシテ保護ヲ与フル國ノ領事カ保護國ノ在外人民ヲ保護スルヲ常トス聚合同内ノ各邦カ領事ヲ接受派遣シ得ルヤ否ヤヲ知ルニハ聚合同ノ憲法ヲ按セサルヘカラス独乙ノ憲法ニヨレハ中央ノ國家ノシカ領事ヲ任命シ得ルナリ(独乙ノ各邦ハ自己ノ外交使節ヲ任命シ得ルニ係ラス領事ヲ任命シ得ス)

現今ノ國際法ニヨレハ領事ノ差遣接受及ヒソノ駐在國ニ於テ職業ヲ執ルコトハ特別ノ決定ノ基礎ヲ要スト臣民實際上國際団体内ノ國家ハソノ相互ノ間

ニ通商条約及ヒ領事条約ニヨリ第三國ノ領事カ既ニソノ職務ヲ執リヌハ將來職務ヲ執ルヲ許サルヘキ相手國ノ地方ニ領事ヲ差遣スルノ權利ヲ定ムルヲ常トスルヲ以テ第三國ノ領事ノ職務ヲ執ルヲ認メタル相手國カ領事ヲ差遣スルヲ認メサルヲ得サルニ至ル

一國ノ叛徒カ独立セントスル際叛徒ノ勢力ヲ有スル地方ニ領事ヲ派遣スルハ叛徒ノ獨立ノ承認トナルヘキヤ否ヤニ于テ異説アリ若シ領事ノ職務執行ノタメニ正式ニ認可ヲ受フルトキハ認可ヲ与フル叛徒ニ國家タルノ權利ヲ行フヲ認ムルモ、ナルヲ以テ默示ノ國家ノ承認ヲ含ムトナスヲ得ヘシ然レハ正式ニ認可ヲ受フルコトナクシテ領事ヲ叛徒ノ勢力ヲ有スル地方ニ派遣シ叛徒モ亦ソノ職務ノ執行ヲ默認スルコトアリ实例ニ於テ英國ハ承認ニ先チテ西班牙ヨリ獨立セントス南米諸國ニ領事ヲオキタリ此場合ニハ領事ノ派遣ハ國家ノ默示的ノ承認ヲ含ムト認ムルヲ得ス

領事ノ任命

國際法上ニ於テハ國家ハ他國ノ領事ヲシテソノ国内ニ於テ職務ヲ執ラシムルノ承認ヲナスヲ要セスト臣民現今ノ各國ノ商業上ノ利害ハ重要ナルヲ以テ

實際ニ於テ各國ハ相互的ニ此ノ如キ承認ヲナクハ必要アリトス故ニ諸國ノ間ノ通商條約ニ於テ又ハ領事條約ニ於テ第三國カ領事ヲオクヘキ場所ニハ自國モ之ヲ置クヲ得ヘキコトヲ相互的ニ約定スルヲ常トス

領事カ任命セラルルハ本國政府ハ之ニ元首ノ名ヲ以テ与フル委任状ヲ授ク而シテ駐在國ハソノ元首ノ与フル認可ヲ与ヘテ承認ノ意ヲ表ハスソノ國ニ駐劄スル外交使節カ委任状ヲ外務大臣ヲ經テ駐在國ノ元首ノ閱覽ニ供シ之ニ對シテ与フル認可ハ或ハ特別ノ認可状ヲ以テ与ヘラレ或ハ委任状ニ認可ノ旨ノ記入ヲナスコトニヨリテ与ヘラレ

認可即チ外國ノ領事ノ國內ニ於テ職務ヲ執行スルコトノ承認ハ領事ニ于スル個人的ノ理由ニヨリ之ヲ拒ムヲ得一八六九年英國ハ合衆國ノクラスゴ―駐在ノ領事トナルルハツガーチート称スル英領人ニ認可ヲ拒メリ又一旦共ニタル認可ヲ個人的理由ニヨリ撤回シ得一八三四年德國ハ普魯國ノベ―イヨンヌ駐在ノ領事カ西班牙ノ「カルロ」党ニ兵器ノ供給ヲナスヲ補助セルノ故ヲ以テ認可ヲ撤回セリ

領事ノ職務

領事ハ通商交通航海ニ于スル任命國人ノ利益ヲ進捗スルヲ主タル職務トナスモ猶ホソノ以外ニ於テモ種々ノ職務ヲ有ス惟例條約國內法ノ規定又ハ訓令ニヨリ此ガ職務ニ于スル詳細ノ規則定メラル今領事ノ職務ヲ(1)通商産業ノ利益ノ保護獎勵 (2)航海ノ監督 (3)自國民ノ保護 (4)公証的及ヒ司法補助的ノ職務ホニ分テテ説カントス

(1) 通商産業ノ利益ノ保護獎勵ノ職務。是レ領事ノ主要ノ職務ノ一ニシテ領事ハ本國ト駐劄國トノ條約殊ニ通商航海條約ノ履行ヲ監視セサルヘカラス通商産業ノ利益ニ于保アル駐在國ノ扶植ヲ觀察シテ本國ノ商工業ノタメニ有利ナル事實ヲ本國ノ商工業者ニ知ラレムルヲ努メサルヘカラス

(日本領事規則第一條參照)

(2) 航海ノ保護監督ノ職務。港津ヲ管轄區域トスル領事ハ駐在國ノ法ヲ害セサル範圍内ニ於テ港ニ入ル自國商船ヲ保護スルト同時ニ之ヲ監督シ公ノ證明ヲ與ヘ船隻同ノ紛議ヲ仲立シ船隻ヲ保護スル例ハ海難ニ必要ナル救助ヲ与ヘ船難報告及ヒ船難證明書ヲ作成シ難破ニ若クハ職業ヲ失ヘル本國ノ水夫ヲ本國ニ送還シ又國旗ノ使用ヲ監督シ船舶ノ假藉証各ヲ

手へ本國ノ船舶ノ港ノ出入ノ届出ヲ受理シソノ船舶証書ヲ保管シ船舶ヲ
係人ノ依頼ニヨリ仮ニ船長ヲ選定シ本國商船ノ海貨傭入契約ヲ公認シ本
國商船ノ脱走船員ノ復役ノタメ駐在國ノ官ヲ照會ヲナシ本國船舶ノ売
却抵当ヲ公認スルモノ種々ノ事務ニ従事ス又領事ハ入港スル本國ノ軍艦
ソノ他ノ公船ニ對シテ監督權ナキモ之レニ出來得ル限ノ便宜ヲ与ヘサル
ヘカラス

(3) 在留人民ノ保護ノ職務。領事ハ駐在國在留ノ本國人ヲ保護セサルヘカ
ラス例ヘハ常ニ駐在國官ヲ本國人ニ對スル処分ノ條約ニ進反セサルマ
石ヤ又當ヲ得タルヤ否ヤヲ注意シ本國ノ移民ヲ監督保護シ本國人ノタメ
ニ種々ノ證明ヲナシ本國人間又ハ本國人ト外國人トノ間ノ紛議ニ付キ依
賴ヲ受ケレハ和辨ヲナサシメ本國人民死亡ノ際必要アレハ遺産ヲ保管ス
ルモノ事ヲナシ又本國人保護ノ目的ノタメ領事館ニ在留本國人ノ名簿ヲ
供ヘ居住移転婚姻出生死亡ノ届出アレハ之ヲ名簿ニ登録ス領事ハ本國人
ノミヲ保護スルヲ原則トスルモ條約ニ基キ本國ノ和親國ニシテソノ地ニ
領事ヲオカサル國ノ人民ニ保護ヲ与フルコトアリ又國家間ノ保護ヲ係ニ

於ケル保護ヲ与フル國ノ領事トシテ保護國ノ人民ニ保護ヲ与フルコトア
リ又戰時ニ一方ノ交戰國ノ特別ノ依頼ト駐在國ノ承認トニ基ツキ中立國
ノ領事トシテ駐在國ノ敵國タル交戰國ノ人民ノ保護ヲナスコトアリ
(4) 公証的及ヒ司法補助的ノ職務。領事ハソノ本國人ノ出生死亡結婚宣誓
ヲ登録証明シ本國人ノ遺産ヲ管理シ本國人ノ婚姻ノ届出ヲ受理シ在留國
ノ裁判所ソノ他ノ官ヲ各美ニシテ本國ニ於テ使用サルヘキモノヲ証明
シ本國ノ裁判所ソノ他ノ官ヲタメニ証據ヲ得ルタメ本國人ノ陳述ヲ聽
キ本國人ノ单独法律行為遺言並ニ契約ハ登記証明ヲナシ本國官ノ
文書ヲ錄記シ之レヲ証明ス又在留國ノ港内ニアル本國商船内ノ船員間ノ
紛議ニシテ港内若クハ陸上ノ安寧秩序ヲ妨害セサル場合若クハソノ在留
國臣民若クハ船舶ノ船員以外ノモノカ右紛議ニ于係セサル場合ニ於テハ
駐在國トノ條約ニ基キ此種ノ紛議ハ領事ノ本國ノ管轄ニ歸シ領事ハ此紛
議ニ于係スヘキニ至ルコトアリ公証的及ヒ司法補助的ノ職務ハ駐在國カ
條約若クハ慣例ニ基キテ認許スル範圍外ニ亘リテ之ヲ行フコトヲ主執シ
得ル領事裁判ノ制度ヲ存スル國ニアル領事ハソノ國人ニ對スル民事及

レ刑事、裁判ヲ行ヒ專管居留地又ハ一般居留地ヲ存スル地ノ領事ハ居留地ノ行政及ヒ警察ヲ單獨ニ又ハ他ノ領事ト共ニシテ指揮又ハ監督ス

領事ノ地位及ヒ特権

領事ハ國際法ノ主体ナルコトナラソノ駐在國ニ於テ職務ヲ行フノ自由及ヒソノ駐在國內ニ於テ享有スル特権ハ直接ニ國際法上ニ於テ領事ノ有スル權利ニアラズシテ駐在國ノ國內法上認ムル自由及ヒ特権ナリトス唯條約及ヒ慣例ニ基キ駐在國ニ一定ノ自由一定ノ特権ヲ領事ニ認ムルノ領事任命國ニ對スル國際法上ノ義務ヲ存スルナリ今日ニ於テハ領事ハ外交使節トソノ地位ヲ異ニシ外交使節ノ特権ヲ享有スルコトナシ然レモ駐在國ノ認可ヲ得テ外國ノ機子トシテ其職務ヲ行フコトヲ認メラルモノナルヲ以テ單純ナル外國人トソノ地位異ナリトス

領事ハ外交使節ノ如ク駐在國ノ中央政府ニ對シテ任命國ヲ代表スルモノニアラス領事ノ職務ハ地方的ニシテ地方官ニ向ツテ照會ヲナシ又ハ申シ出ヲナスコトアルモ中央政府ト談判スルニハ外交使節ヲ經由スルヲ要ス

領事ハ駐在國ニ於テ任命國ノ機子トシテ職務ヲ行フコトヲ特ニ認可サルハ

モナル故一般ノ外國人トソノ地位ヲ異ニシ駐在國ハソノ自体及ヒ居宅ニ保護ヲ與フヘキナリ然レモ領事ノ特権トシテ現今認メラル所ハ各國ノ條約又ハ慣例ヲ基礎トシ此點ニ于シテ未タ一般的ノ國際法ノ規則認メラルニ至ラヌトナスヲ普通説トス

領事ノ特権ニ于スル諸條約ニ於テ注意スヘキ點ハ左ノ如シ

- (1) 數多ノ條約ニ於テ專務領事又ハ差遣領事ト名譽領事又ハ選任領事トヨ區別シ專務領事又ハ差遣領事ニ多クノ特権ヲ認メシム又選任領事又ハ名譽領事申任命國ノ臣民タルト否トテ區別シ任命國ノ臣民タルモノハ特権ノ點ニ於テ專務領事ト全視スルアリ又領事ニシテ職業若クハ商業ニ従事スルモノニハ特権ニ于スル條約ノ規定ヲ適用セサルコトヲ定ムルコト屢々之アリ

- (2) 秀致ノ條約ニ於テ領事ハソノ事務所(又ハ居宅)ノ内ニ本國ノ徽章ヲ掲ケ且ツ本國領事館ト記セル標牌ヲ出スコトヲ得ヘク又國旗ヲ掲クルヲ得ヘキヲ定ム但シ國旗ヲ付キテ首布ニシテソノ本國ノ公使館アルトキニハ此限ニアラストス又港内ニテ職務執行ノクメニ使用スル船艇ニモ均

- シクソノ本國ノ国旗ヲ掲クルコトヲ得ルトナス
- (3) 多数ノ条約ニ於テ領事ノ事務所ニ於ケル公用居類ハ不可侵ナリトシ駐在國ノ官吏カ之ヲ檢閲シヌハ差押フルヲ得ストナス但シ領事ハ平素公用居類ヲ私用居類ト命高シテ保ルルヲ要ストス
- (4) 或ル条約ハ領事ノ事務所又ハ事務所及ヒ居宅ニ付キテ不可侵ヲ認ム此場合ニハ地方官ハ領事ノ許諾ナケレハ之ニ入ルヲ得サルナリ但シ犯罪人ヨリノ事務所又ハ居宅ニ庇護スルヲ得ス
- (5) 領事ハ民事及ヒ刑事ノ法権ノ免除ヲ受ケサルモ許多ノ条約ニ於テ駐在國ノ刑法上重罪ト認メラルモノヲ犯スニ付キテハ拘留セラレストナス(拘留ヲナサスレテ罰金又ハ科料ニ処スルヲ得)又或ル条約ハ民事上ノ訴訟ノタメニ引致留置セラレストナス
- (6) 領事ハ對人的直接税(人頭税所得税)ヲ免セラレ(但シ不動産所有ノ故ヲ以テスル課税ハ免除セス)陸海軍宿營ノ義務ノ他一切ノ對人的負担ヲ免セラレ
- (7) 或ル条約ニヨレハ領事カ駐在國ノ法廷ニ証人トシテ出頭スルヲ要セス

トナス此場合ニハ裁判官カ自ら領事ノ居宅ニ付キテ供逮ヲ聞クカ然ラザレハ領事ヨリ供逮旨ヲ提出セシム或ル条約ニ於テ刑事上ノ証人トシテハ領事カ必ラス自ら出廷スルヲ要ストシ民事上ニ於テ止ムヲ得サル事故アル時ニハ自ら出廷スルヲ要セストナス

或ハ領事ヲ判制度ヲ有スル國ニアル領事ハ慣例及ヒ条約ニヨリ實質上ニ於テ外交使節トシテ特權ヲ享有スルニ至リソノ地位實度上外交使節ト異ナルナレトナスモアリ此キ國ニ於ケル領事ハ事實ニ於テ領事ヲ判制度ノ利益ニ浴スル一般ノ外國人トシテ或程度マテ治外法权的ノ資格ヲ享有スト去フコトヲ妨ケサルモ外交使節ニ特有ナル不可侵權式上ノ榮譽ホヲモ總テ當然享有ストナスモノナラハソノ誤謬タル甚クレキモノト云ハサルヘカラス

領事ノ職務ノ終了

領事ノ職務終了ノ原因トシテ疑ナキ事實ハ領事ノ死亡認可ノ取消召還又ハ退去ノ要求及ヒ任命國ト駐在國ト間ノ戰爭ナリトス

領事カ死亡シタルトキ又ハ戰爭カ開始シタルトキハ領事館ノ居類ハ駐在國ノ官憲カ之ニ触レハ得ズ他ノ領事館又ハ他ヨリ至ル領事館所屬

一三二、
國ノ外交官若クハ領事館又ハ駐在國ニアル他國ノ領事カ之ヲ保管シテ右任者
到着若クハ平和ノ克復ヲ待ツヘキモノトス

領事ノ駐在地カ征服割讓又ハ命命ニヨリ他ノ國家ノ領有ニ歸セルトキハ領
事ノ職務終了スヘキヤ否ヤ暫行上明白ナラズ然レド領事ノ職務執行ヲ認可セ
ル國家ハ最早存在セサルカ又ハソノ地方ヲ有セサルヲ以テ理論上ニ於テハ職
務終了セルモノト認メサルヲ得ヌ一八三六年ニ於テ故ニ和蘭カ認可ヲ与ヘタ
ルアントウワープ駐在ノ露國ノ領事エージニ付キソノ地方ヲ得タル白耳義カ
之ヲ領事トシテ取扱フコトヲ否メルニ對シテ露國之ヲ爭ヒ白耳義遂ニ屈シタ
ルコトアリ然レド單純ナル法理論トシテハ白耳義ノ主權ハ正シト云ハサルヘ
カラス

外交使節ト異ニシテ領事ノ職務ハ任命國又ハ駐在國ノ政体ノ變更若クハ元
首ノ變更ニヨリ終了スルコトナシト認メラル故ニ之レガノ場合ニモ委任狀又
ハ認可ヲ更新スルノ必要ナシトス

第二十章 領事裁判及混合裁判

領事裁判ノ沿革

現今ノ領事ハソノ起源ヲ中古ノ前半兩歐ノ地中海ノ商業市ニ於ケル商人及
航海業者ノ互送ニ係ル爭議ヲ決者ニ發シ東方諸國ニモ此種ノ領事オカル
至リシカ東方諸國ニ於テハ十二世紀ノ頃ヨリ領事ノ裁判ニ于スル制限ハ
論謂「カピチエレーションス」ナル條約ノカヨリテ抗ケラレ遂ニ領事ハソノ自國
人ノ民事上及ヒ刑事上ノ裁判權及ヒ自國人ノ生命財產特權ノ保護ヲ以テソノ
權限トスルニ至レリ而シテ領事ノ制度ハ東方ヨリ更ニ西方ニ移植サレ歐洲ノ
西部ノ領事モ東方ニ於ケル如クソノ國ノ商人ニ對スル民事上及ヒ刑事上ノ判
判權ヲ專轄セルモ西方ノ基督教國ノ内部ノ組織整頓シテ法屬人主義ノ思想衰
ヘ外國ノ商人モ所在國ノ法權ノ下ニ立ツニ至リシカ東方ニ於テハ一方ニ於テ
回々教國カ異教徒ニソノ國法ノ保護ヲ与フルヲ好マス他方ニ於テ耶蘇教徒ノ
回々教國ニ行ク者異文明異宗教ノ法律ニ服スルヲ喜ハサルヨリ領事ノソノ國
人ヲ裁判スルノ權利ハ依然條約ニヨリ認めラレ十六世紀ニ於ケル仏國ノ一五
二八年及ヒ一五三五年ノ條約ヲ初メトシテ歐洲諸國ハ土耳其ト別々ノ條約
ニヨリ領事裁判權ヲ確認セシ今日ニ及ヘリ波斯ハ一七〇九年仏國カ初メテ

領事裁判権ニテスル最初ノ条約ヲ締結セル后露英ソノ他ノ諸國亦領事裁判権ヲ認メタリ

支那ニ於テハ露國カ一六八九年ネルツインスク条約ニヨリ犯罪人ハ各々ソノ本國ニ引渡シ本國ノ法律ニ從フテ判決スヘキヲ定メ一七二七年キヤクタ条約ニヨリ支那ニアル露國人民ノ自國領事裁判権ニ服スルコトヲ認メシメタリ英國ハ一八四三年及ヒ一八六九年ノ条約ニヨリ仙國ハ一八四四年及ヒ一八五八年ノ条約ニヨリ各々領事裁判権ヲ認メシメタリ我カ國ニ於テモ安政元年ノ日露条約安政二年ノ日蘭条約安政五年ノ日露日英日仏日蘭オノ条約ニヨリ領事制度認メラレシク明治二十七年条約改正(三十二年七月實施)ニヨリ遂ニ之ヲ全廢セリ韓國ニ於テモ領事裁判制度存セシカ我カ國カ之ヲ併合スルニ及ヒ撤廢サレタリ暹羅安南マスカット及ヒマダガスカルニ於テモ領事裁判権認メラレタリマダガスカル及ヒ安南ハ仙國ニ併合サレテ領事裁判権ハ廢サレタ又土耳其ノ屬國アリシバルカンノ諸邦ハソノ獨立スルニ隨ヒテ領事裁判制度廢サレ又併合故墺國ノ自領及ヒ行政ヲ行ヘル旧土耳其領ホスニヤヘルツェゴヴィナ及ヒ英國ノ占領及ヒ行政ヲ行ヘル土耳其ノサイプラスモ領事裁判権撤

廢サレタルカ今猶ホ名義上土耳其領タル埃及ニ領事裁判制ヲ存スニモスニモ領事裁判権カ存セシカ仙國ノ保護トナリテ右撤廢サレタリモロツコニ於テモ仙國ノ保護制度確立スルニ及ハハ領事裁判制度ハ撤廢ヲ見ルニ至ルナルニ

領事裁判権ノ概略説

歐米諸國カ条約ニヨリ東方諸國ニ在留スル自國人ニツキ認メシメタル法律上ノ特別ノ地位ハ領事裁判権ノ名ヲ以テ呼ハル、ヲ常トスルモ必スシモ並当ナリト云フヲ得スルカ裁判ヲ行ハ領事ニ限ルニテラスシテ普通第一審ハ領事カ行フモ外交官カ之ヲ行フコトアリ又控訴及ヒ上告及ヒ重罪ノ裁判ハ本國ノ裁判所ニ行フヲ常トス又時ニ外交官カ之ヲ行フコトアリ (一)且ツ條約ノ明文ハ普通裁判管轄カ本國ノ官憲ニ屬スルヲ定ムルモノナルモソノ結果トシテ或ル範圍マテ駐在國ノ法令ノ支配ヲ受ケサルコトナリ而シテ慣例又ハ特別ノ條定上立法及ヒ警察ニテスル本國官憲ノ機能カ認メラルニ至ル故ニ外國人ノ法律上ノ特別ノ地位ハ單ニ領事ノ裁判管轄ヲ受クルコトヲ以テテテ終フルニテラズシテ或ル程度マテ所在國ノ法權ノ下ニ立タスニテ本國ノ法權ノ下ニ立ツニ

アリ故ニ實際ノ結果ニ於テハ或ル程度マテ外國元首又ハ外交使節ノ有スル治
外法権ニ似タル点アリ然レモ東方諸國ニ於ケル外國人ノ特別ノ地位ハ元來治
外法権ノ擬制ト尙オ于係アルコトナク全然條約ニ基クモノナレテ以テ治外
法権ノ名ヲ与フルモ適當ナリトセヌ余ハ不完全ナカラ之ヲ領事裁判權ト呼ビ
以テ之レヲ外國ノ元首又ハ公使オノ享有スル治外法権ト區別スルヲ以テ満足
セルト欲ス

今領事裁判權ト治外法権トノ差異ヲ擧ケルハ左ノ如シ

- (1) 治外法権ハ少クトモ沿革上ニ於テ此資格ヲ有スル人又ハ物カ所在國ノ
領裁以外ニアリトノ擬制ニ于係ス然レモ領事裁判權ハ此ノ如キ擬制ニ于
係ナキナリ
- (2) 治外法権ハ國際法上当然認めラル、モ領事裁判權ハ特別ノ條約又ハ特
別ノ慣例ニヨリテ成立ス
- (3) 治外法権ハ所在國ノ法権ニ服セサルノ消極的且ツ受動的ノ内容ヲ主ト
スルモノナルモ領事裁判權ハ外國在留人ニ付キ本國ノ法権ヲ行フノ積極
的且ツ能動的ノ内容ヲ主トス

(4) 治外法権ヲ有スルモノハ國家ノ元首外交使節軍隊若クハ軍艦ニ屬スル
者オニ限り普通人民ハ治外法権ヲ有セサルモ領事裁判權ノ結果ハ之ク普
通人民ニ及フ

領事裁判制度ノ存スル國ニ於テ裁判ニ于スル原則ヲ擧ケレハ左ノ如シ

- (甲) 民事ノ原告及ビ被告刑事ノ被告及ビ被害者カ雙方共ニ全一ノ外國ノ臣
民ナル場合ニハ全クソノ外國憲官ニ屬ス

- (乙) 民事若クハ刑事ニ於テ一ノ外國ノ臣民カ原告又ハ被害者トナリ他ノ
外國ノ臣民カ被告トナル場合ハ裁判權ハ被告ノ本國官憲ニ屬ス

- (丙) 民事若クハ刑事ニ於テ原告若クハ被告又ハ刑事ノ被害者若クハ被告ノ
一方カ内國臣民ニシテ他ノ一方カ外國臣民ナル場合ハ種々ノ制度アリ或
ハ兩國ノ官憲(普通内國ノ法廷ト外國ノ領事若クハ外交使節)カ共全ニ全
審ヲナシ(歐米諸國ト支那トノ條約ニ於テ民事ニ于シ之ヲ認ム)或ハ内
國ノ法廷カ外國ノ使節若クハ通譯官ノ立會ノ上ニテ審判ヲナシ(歐洲諸
國ト土耳其及ビ波斯トノ條約ニ於テ民事及ビ刑事ニ于シ之ヲ認ム)或ハ
被告ノ所屬國ノ官憲ノミニテ審判ヲナス(我カ國ト支那トノ條約ニ於テ民

事及ヒ刑事ニ于シ之レヲ認メ歐洲諸國ト支那トノ條約ニ於テ刑事ニ于シテ之レヲ認ム又合衆國ト土耳其トノ間ノ條約ニ於テ刑事ニ于シテ之レヲ認ム

領事裁判制度ノ行ハルル場所ニ於テ外國人ニ對シテ孰レノ國ノ法令ヲ適用スヘキヤノ問題ヲ生ス

(第一) 刑事ニ于シテハ被告ノ本國ノ法律ヲ適用スルヲ通則トス或ル國例

ハハ支那暹羅旧韓國ノ條約ニハ被害者カ内國人タル場合ト雖モ加害者ヲ罰スルニハソノ本國ノ刑法ヲ適用スヘシト明記ス條約上之レヲ明記セサル國ニ於テモ實際ニ於テ領事又ハ外交官カ立會ノ場合ハ被告ノ本國ノ刑法ヲ參酌スヘク而シテ領事若クハ外交官又ハ本國裁判所ノ裁判スル場合ニ於テハ本國ノ刑法ニヨリテ裁判サルニ至ルハ自然ノ勢カナリトス

(第二) 民事及ヒ商事ニ于シテ適用スヘキ法律ハ條約ニ明記セサルヲ常トス領事若クハ外交官又ハ本國裁判所ノ裁判スル場合ハソノ本國ノ法令又ハ

訓令ニヨリ何國ノ法律ヲ適用スヘキヤヲ定ムヘキモ本國法律ヲ適用スルニ至ルハ自然ノ勢ナリ(独乙ノ規定ニヨレハ民事ニハ獨テ独乙ノ法律ヲ適用

シ商事ニハ東洋各地方ノ慣習法ヲ適用ス又英國ノ規定ニヨレハ事情ノ許ス限リハ民商事共ニ英國ノ法律ヲ適用ス又北米合衆國ノ規定ニヨレハ民商事共ニ一切東洋ノ法律ヲ參酌セ合衆國ノ法律ヲ適用ス)民事及ヒ商事ニ于シ内國ノ法律カ領事若クハ外交官ト共ニ審判スル場合ニハ何レノ法律ヲ適用スヘキヤヲ明記スル條約ナク唯時ニ衡平及ヒ正義ノ法ニヨリテ裁判スヘキヲ説クノミ

領事若クハ外交官)カ裁判ヲナスニ當リテハソノ所屬國ノ法制上ノ國ノ法令ニマラサレハ適用シ得サル國アルヲ以テ此キノ國ニ於テハ領事(若クハ外交官)ハ該地方ノ必要ニ爲シテ定ムヘキ刑法ソノ他ノ法令ヲ本國ノ他ノ官ノ可又ハ認可ヲ經スハ之レヲ至スルテ制定スルノ权限ヲ有セサルヘカラヌ此ノ如キ权限ハ特別ノ慣例及ヒ特別ノ規定ニヨリ認メラルルヲ常トス居留地ノ警察規則ニ付キテ地方官憲カ外交官若クハ領事ト決定シテ定ムルヲ認メタル例アリ又條約ニ於テハ領事カ警察權ヲ有スルコトヲ明記スルコト稀ナリト雖モ居留地ノ制度ヲ存スル場所ニ於テハ特別ノ慣例又ハ特別ノ規定ニヨリ領事ハ或ハ單獨ニ或ハ他國ノ領事ト共ニシテ居留地内ニ警察權ヲ行使シ又ハ

之レカ行使ヲ監督スルヲ認メラル、ニ至ル又一般ニ条約ニ於テ在番國ノ警察
扱ノ行使ニ于スル制限ヲ定ムルコトアリ但シ居留地外ニ於テハ特別ノ合意又
ハ特別ノ慣例ニ基クニアラサレハ領事ハ警察扱ヲ行フ能ハサルモノト解ス、
ナナリ

領事裁判所ノ構成

領事裁判所ノ構成法ニ于スル主義ヲ各國ノ法令ニ基ク法理上ノ性質ヨリ三
ニ大別シ得ル(領事)又ハ公使館員)ヲシテ裁判セシメ第一審モ亦普通ノ裁判
所ヲシテ裁判セシメサルモノ(露國ハ第一審ハ領事又ハ公使館ノ上席通訳官
ヲ裁判長トシ第二審ハ公使館上席書記官ヲ裁判長トシ第一審及ヒ第二審共ニ
陪審者ヲ用フ)(2)領事又ハ領事裁判所及ヒ真正ノ裁判所トシ混用シ第一審ハ
原則トシテ領事又ハ領事裁判所カ之ヲ行フモノ(多數ノ國ハ之ニヨリ他國ハ
第一審控訴及ヒ上告ノ別ヲ設ケ第一審ハ民事事共ニ(重罪ヲ除ク)領事又ハ
領事裁判所(領事及ヒ二名ノ「アッセル」ヨリ成ル)之ヲ裁判シ控訴ハ殖
民地若クハ本國ノ級裁判所ニ於テ之ヲ裁判シ上級裁判所ノ判決ニ對シテ巴
里ノ破棄院ニ上告スルヲ許ス)(3)領事裁判所ヲ行フ場合ヲ少クシ而シテ一定

ノ場合ニ第一審ヲ行ハシメ又領事ノ裁判ニ對スル第二審ヲ行ハシムルコトヲ特

ニ專務裁判官ヲ派遣スルモノ(英國ノ構成法ハ國ニヨリ異ナリ上海ニ *His*

British Majesty's Supreme Court of China ヲ

置キコンスタンチノーブルニ *His British Majesty's Sup-*

reme Consular Court for the Provinces of the

Sublime Ottoman Porte ヲ置キ第一審及ヒ第二審ノ訴訟ヲ聞

カシメ外ニ *Provincial Courts* ヲ置キ領事ヲ裁判官トシ普通 *As-*

sessors (二名乃至四名)ノ意見ヲ参考シテ裁判セシメ而シテ終審ハ枢密

院 *His Majesty in Council* ノ法律委員會ニテ取り扱フモノトス

等見レナリ

我カ國ニ於テハ領事ハ民事事共ニ單獨ニ(陪審者若クハ「アッセル」ルナ

クシテ)審判スルヲ原則トス重罪ハ予審ヲナシ之ヲ長崎地方裁判所ニ移入控

訴又ハ抗告ハ事件ノ輕重如何ニヨリ或ハ長崎地方裁判所ニ於テ或ハ長崎控

訴院ニ於テ之ヲ受理ス(明治三十二年三月第七十号法律)

領事裁判制度ノ弊害及ヒソノ存立理由

領事裁判ハ外國人ニ于テハ在留國ノ法ヲ在留國領域内ニ行フヲ得サ
ラシノソノ結果ハ當ニ裁判管轄ヲ行フヲ得サルノミナラス一方ニ於テ在留國
ノ國內法ノ規定ノ領域内ニ於テ行ハレサル場合ヲ生シ他方ニ於テ居留地ノ制
度ノ發達ヲ促シ終ニ領域内ニ警察ヲモ行フヲ得サル区域ヲ生スルニ至ル之
カタメニ在留國ノ威信ハ傷ケラレサルヲ得ス且ツ在留國人民ハ外國人トノ于
係ニ於テ外國法ニヨリ權利義務ノ于係ヲ定メラルル場合アルニ至リ殊ニ領事
ト地方官憲トノ合審ノ場合ノ如キハ如何ナル法律ニヨリテ權利義務ヲ定メラ
ルハキヤ不明ニシテ^必外ノ損失ヲ受クルコトアルヘク又領事裁判權ヲ有スル
或ル國ニ於テハ終審ヲモ純粹ノ裁判官ニアラサル領事又ハ外交官ヲシテ裁判
セシムルヲ以テ裁判ノ公平ヲ保タシムルコト困難ナリ而シテ復令控訴上告又
ハ抗告ヲナス場合ニモ遠隔ナル本國ノ裁判所ニ控訴上告又ハ抗告セサルヲ得
サルコト屢々ナルヲ以テ在留國人民ハ不利ヲ受クル大ナリトス而シテ刑事ノ
共犯ノ場合ノ救人ノ被告カ國籍ヲ異ニスル場合又ハ民事ノ場合ニテモ被告カ
救人アリテ國籍ヲ異ニスル場合ニ於テハ複雜ナル問題ヲ生ス
領事裁判制度ノ存スルハ或ハソノ國カ文明ノ程度低キカタナリトスルヲ

リ或ハ文明ノ種類カ異ナルカタメナリトスルアリ故説ハ在留國ノ國內法及ヒ
裁判制度カ絶対ニ依頼スルヲ得サルカタメニ領事裁判權ノ制度ヲ必要トスト
ナスモノニシテ右説ト雖モ在留國ノ國內法及ヒ裁判制度カ文明ノ異ナルカタ
メ相對的ニ依頼シ得サルコトヲ以テ領事裁判制度ノ存在ヲ説明スルヒナリ
余ハ制度ノ沿革上ノ起源ヨリ云ハハ多クノ場合ニハ文明ノ程度カ低キタメニ
此制度カ認めラレタルモノナルモ或ル場合ニハ文明ノ程度低シト言フヲ得サ
ルモ文明カ異ナルカタメニ認めラレタルコトアリト云ハサルヘカラス但シ
文明ノ程度カ極メテ低クシテ野蛮ノ域ヲ脱セサル國ニハ領事裁判制度ヲモ行
フ能ハサルヘク此制度ノ認めラルル國ハ少クモ半開國ノ域ニ達シタルモノナ
ラサルヘカラス
然レモ今日ノ國際ニ係上漠然ト文明ノ種類ト云フ如キモノヲ以テ領事裁判
權ヲ繼續スヘキ論據トナスラ^{不可}レズ領事裁判權ノ存立事由ハ或國ノ法律カ極
メテ不備又ハ不可解ニシテ外國人ノ生命財產ヲ保護スルニ足ラサルカ又ハ
裁判官カ概シテ無能ナルカ若クハ腐敗行ハレ外國人ニ對シテ公平ナル裁判ヲ
得サル場合ニ於テノミ存スト云フヘク苟クモ法律整ヒ且ツ裁判ノ公正ヲ得

ハキ國ニ對シテハ領事裁判權ノ如キ弊害多キ制度ノ撤去ヲ見ルコト正裁ニ違
ストナサハルハカラス

混合裁判所

混合裁判所トハ裁判所々在國ノ裁判官ト外國人ノ裁判官トヨリ組織セル
裁判所ナリ混合裁判所ハ土耳其埃及クリートサモアビルマボルネオ等ニ現存シ
又ハ曾テ存在セシ所ナリ而シテリノ最モ發達セルハ埃及ニ於ケル混合裁判制
度ナルヲ以テ此ニ之ニ付キテ述フヘシ

一八六七年以來埃及ノ副王政府ハ領事裁判制度ノ弊害ヲ見テ之ヲ改革セン
ト欲レシ土耳其政府ノ全意ヲ得テ歐洲諸強國ト牧議ヲ重テ遂ニ一八七四年及
一八七五年ニ諸強國ト条約ヲ結ビ五ヶ年ヲ期限トシテ一八七六年一月一日開
カレタリ此期限ハソノ右屬ク之レヲ延期シ今日ニ至リテハ諸強國ハ無期限ニ
之ヲ繼續セシムルヲ間接ニ承認セリ混合裁判所ノ权限ハ猶狹クシテ未タ領事
裁判制度ヲ廢スルニ至ラズ混合裁判所ハ主トシテ民事商事ノ訴訟ヲ管轄シ埃
及人長ト外國人トノ間若クハ國籍ヲ異ニスル外國人ノ間ノ事件ヲ審判ス全一
國籍ヲ有スル外國人間ノ事件ハ領事裁判所ノ管轄スル所トス又刑事ニアリテ

ハ原則トシテ進警罪ノミ混合裁判所ノ管轄ニ屬ス外國人ノ進警罪ヲ犯シタル
中混合裁判所ノ外國人ノ裁判官一名ニテ之レヲ審判ス輕罪及ヒ重罪ハ該裁判
所若クハソノ役員ニ對シ執務中若クハ執務ニテ犯シタル場合又ハソノ役
員ニテ職務上ニ於テ罪ヲ犯シタル場合ニ限リ該裁判所ノ管轄ニ屬ス此種ノ
犯罪ヲ審判スルニハ外國人ノ裁判官一名ト埃及人ノ裁判官一名並ヒニ在留外
國人ヨリ選ヘル四名ノ陪審者トニテ之レヲ行フ重罪中殊ニ重大ナルモノヲ審
判スルニハ在留外國人十二名ヲ選ビテ宜増シテ審判ニ与カラシム埃及ノ混
合裁判所ノ構成ヲ見ルニ第一審ノ裁判所ハアレキサンドリヤカイロイスメイ
リヤニ設ケ第二審ノ裁判所ハアレキサンドリヤニ設ケ第一審ノ各裁判所ニ七
名ノ裁判官ヲオキ中四名ヲ外國人トシ三名ヲ埃及人トス又第二審ノ裁判所ハ
十一名ノ裁判官ヲオキ七名ヲ外國人トシ四名ヲ埃及人トス而シテ第一審ノ審
判ハ五名ノ裁判官合議ヲナシソノ三名ヲ外國人トシ他ノ二名ヲ埃及人トス第
一審ノ商事ニハ裁判官ノ外ニ外國人及ヒ埃及人ヨリ各一名ノ商人ヲ選定シ
テ陪審セシム外國人ニシテ裁判官トナルニハ埃及政府ヨリ本國政府ニ交渉シ
本國政府ノ全意ヲ得ルヲ要ス故ニソノ名ニ於テハ埃及政府ノ任命スル所ナル

モソノ実ニ於テハ外國政府ト共ニシテ任命スルモノナリ
領事裁判ト混合裁判トノ差異ヲ述ツルハ

- (1) 裁判官ノ資格、裁判官ノ資格カ異ナリ領事裁判ニ於ケル裁判官ハ外交官領事官又ハ普通ノ裁判官タルコトアルモホシク派遣國ノ官吏ナリ然レニ混合裁判所ノ裁判官ハ少クモ名義上ニ於テ所在國ノ官吏ナリ
- (2) 適用スル法律、領事裁判ニ於テ適用スルハ普通派遣國ノ法ナリ然レニ混合裁判ニ於テ適用スルハ裁判所々在國ノ法ナリトス

(3) 管轄事項、管轄事項ニ于シテ性質上当然ニ種シ裁判所ノ間ニ差異アルヘキモノト云フヲ得ス混合裁判所ハ条約ニヨリ現今領事裁判ノ管轄ニ屬スル裁判ノ事件ヲ管轄シ得ヘク又現今國內裁判所ノ管轄ニ屬スル裁判ノ事項ヲモ管轄シ得ナルニテ現在ノ混合裁判所ノ管轄事項ハ場所ニヨリ異ナリボルチオノ混合裁判所ノ管轄事項ノ如キハ領事裁判ノ普通管轄ニ屬スル裁判ノ事項ニ及ビ且ツ普通國內裁判所ニ屬スル土人ヲ被告トスル外國人于保ノ民事訴訟ヲモ管轄スルニ至ルト雖モ最モ有名ナル埃及本ノ混合裁判所ニ付キテ云フハ混合裁判ノ管轄事項ハ普通ノ領事裁判ノ管轄

事項ハ普通ノ領事裁判ノ管轄事項ノ一部分(精察ニ去ハハ普通國內裁判所ニ屬スル土人ヲ被告トスル外國人于保ノ民事訴訟ヲモ含ム)ニシテ民事ニ於ケル全一國籍ノ外國人間ノ訴訟並ヒニ刑事ニ於ケル外國人ヲ被告トスル普通ノ重罪、訴訟ハ別ニ領事裁判ノ管轄スル所トナルナリ

第二十一章 外國ニアル軍隊及ヒ軍艦

外國ニアル軍隊

軍隊カ平時ニ於テ外國ノ領域ニアル場合ハ例ハ普魯西カルクサンブルグノ中立國外ナレハ以故ニ於ケルルクサンブルグニ於テ行ヘル如キ外國ノ要港守備ノタメニ軍隊ヲオク場合ナルコトアリ又葡萄牙ノ亞利加領ニ于シテ英國カトランズヴァールノ戰爭中行ヘルカ如キ軍隊ヨシテ外國領域ヲ通過セシムル場合ナルコトアリ又諸國ノ軍隊カ支那ニ駐屯スルカ如キ自國民ノ保護ホノタメニ軍隊ヲ外國ニオク場合ナルコトアリ又日清戰役后馬關條約ニヨリ我カ國ノ軍隊カ威海衛ニ屯在セル如キ條約履行担保ノタメナルコトアリ又カロライン号事件ニ於テ英國ノ軍隊ヲ合衆國ノ領域内ニ入レルカ如キ自衛取ノ舉動又

ハ緊急状態行為ノタメナルコトアリ
軍隊カソノ本國ノ役務ノタメ外國ノ領域ニアルハ治外法权的資格ヲ有
シ所在國ノ法ヲ服セスト認メラレ從ツテ本國ノ法ヲ下ニ立ツモノトス而
シテ本國ハ軍隊ノ行動ノ不法行為タルモノニ對シテ責任ヲ負フ又軍隊ニ屬ス
ルモノ、外國ニ於テ行ハル犯罪ハソノ地ノ文武ノ官憲ノ処罰スル能ハサル所
ニシテ之レヲ処罰スルハ軍隊ノ指揮官又ハ本國ノ他ノ官憲タリトス軍隊カ治
外法权ヲ認メラルハソノ組織上ニ重シ法权ノ下ニ立タシムルヲ得スレテ治
外法权ノ特權ナキハ軍隊ハソノ職務ヲ行フコトヲ得サルカ為ナリトス軍隊
ニアリテハ指揮官カソノ命令ノ下ニアル者ノ一定ノ犯罪ヲ処罰スルノ技能ヲ
認メラル是レ君主又ハ外交官ノ特權ト異ナル所ナリ但シ一國ノ軍隊ニ屬スル
者カ外國ニ於テ治外法权ヲ有スルハソノ外國ニアル軍隊ノ一部タルカタメニ
シテ本國ニアル軍隊ニ屬スル將校カ单独ニ外國ニアルハ治外法权ヲ有セス
又外國ニアル軍隊ニ屬スルモ軍隊ノ任務ノタメニアラシテ单独ニ軍隊ノ所
在地ニ屬レテ犯罪ヲ行ハル場合ニハ治外法权ヲ有セストナスヘキナリ」外國
ニアル軍隊ノ行動ノ一部トシテ行ハル行為ニ于テラ軍隊ニ屬スルモノハソノ

當時ニ於テ該外國ノ法权ノ下ニ立タサルノミナラス他日平人トシテ該外國ニ
入レル場合ニ於テモ此ノ如キ行為ノタメニ処罰ヲ受クルコトナシトス(仏國
及シ独乙ノ間ニ起レルモロツコノカサ、ブランカ事件ノ仲立判決ハモロツコノ
如キ歐洲人カ領事裁判制度ノ利益ヲ受テ實際上恰モ治外法权的資格ヲ有スル
ニ似タル國ニ於テ歐洲人ノ本國ノ法ハ此ノ如キ歐洲人カ就役スル外國ノソ
ノ地ニ於ケル白領軍トシテノ法权ニ及ハサルヲ認メ白領軍ヨリ脱走セントス
ル外國人白領軍ノ法权ヲ脱スルヲ得ストナセリ)

外國ニ於ケル軍艦

軍艦ナルモノハ(1)國家ノ相当官憲ニヨリ軍艦ノ資格ヲ与ヘラレ(2)所屬國
ノ直接ノ权カ直接ノ支配及ヒ責任ノ下ニオカレ(3)ソノ指揮官カ國家ノ勤務
ニ服シ且ツ相当ノ官ナニヨリ正式ニ任命セラレテソノ氏名カ海軍ノ武官名簿
中ニ記入セラレ、(4)ソノ乗員カ軍規ニ服シ且ツ(5)所屬國ノ軍艦ノ外海上ノ
識別記章ヲ具備スルモノナラサルハカラス(海牙第二平和會議ノ戰時ニ際シ
商船ヲ軍艦ニ變更スルコトニ于テスル條約参照)軍艦ノ資格ハ先ツ軍艦ノ外帆
上ノ識別記章タル旗流カ之レヲ証シ而シテ猶木疑ヲ存スル中ハ軍艦ノ異ナル

任命層又ハ軍艦所爲國政府ノ証言カ充分ノ証状ヲナス

軍隊ハ平時ニ於テハ特別ノ条約又ハ特別ノ外國ノ認許ニ基ク場合カ然ラサレハ緊急ノ必要ニ基ク場合ニアラサレハ外國ニアルコト殆ントナシト云フヲ得ヘキモ諸海國ノ軍艦ハ平時ニ於テモ屢々外國ノ沿岸海ヲ航過シ又ハ外國ノ港灣ニ入ルコトアリテ之ヲナスニ特別ノ条約ヲ要セス今日ニ於テハ諸國ノ領海及ヒ港灣ハ特別ノ國際條約ノ禁止ノ規定又ハ沿岸國ノ特別ノ禁止ノ宣言又ハソノ國內法上ノ特別ノ禁止ノ規定アルニアラサレハ外國ノ商船及ヒ軍艦ノ航過出入スルヲ得ルモノトス但シ軍艦所爲國ト沿岸國トノ間ニ反對ナル特別ノ條約アルニアラサレハ國家ハ最正ナル國際法上ノ論トシテハ常ニソノ禁止ノ宣言ヲナシ又ハソノ國內法上ノ禁止ノ規定ヲ作りテ外國ノ軍艦カソノ一定ノ港灣ニ入ルコトヲ禁スルヲ得ヘク又反對アルモ國際航海ノ要路ニ當ラサル限リハ平時ニ於テ一定ノ沿岸海ノ部分ニ入ルコトヲモ禁シ得ヘシト主張サル但シ他國ノ軍艦ニ許シテ特別ノ理由ナキ一國ノ軍艦ニ禁スルトキハ國際禮讓ニ悖ルコトナルヘキナリ(軍艦外務令第五條參照)而シテ國家ハ又一般ニ認メラル軍艦ノ特許ヲ否認スルニ至ラサル以上ハ外國ノ軍艦ノソノ港

灣ニ入ルヲ許スニ付キ必要トスル航入滯泊ニ于スル條件ヲ定ムルヲ得軍艦ハ海難ニヨリ絶対ニ必要アル時ハ軍艦ノ入港ヲ禁止サレタル港灣ト虽モ入ルコトヲ得(軍艦外務令第六條參照)

外國ニアル軍艦ノ地位ヲ浮動ノ領土ナリトノ擬制ニヨリ説明セントスルモノ多シ然レニ領土ヲ領土トシテノ目的物タル意義ニ解スルハ軍艦ハ領土ニアラズ本國ノ國權ノ行ハル、區域即チ領域トシテハ軍艦ハ外國ノ領海内ニ入ルモ本國ノ領域ニ屬スト虽モ是レ軍艦ニ認メラル、特許ノ結果ニ外ナラズシテ特許カ領土タルノ結果トシテ生スルニアラズ故ニ上述ノ擬制ニヨリテ特許ノ基礎ヲ説明スルニ足ラサルヲ以テ上述ノ擬制ハ特許ノ基礎ヲ説明スルタメニ之ヲ用アルモノトモハ無用ナリト云ハサルヘカラス軍艦ハ一方ニ於テハ本國ノ威嚴ヲ代表スト認メラレ他方ニ於テハ軍隊ノ場合ト左シクソノ組織上ニ重ノ法ヲ以テ國家カ相互的ニ自國領域内ニアル他國ノ軍艦ニ對シテ特許ヲ認ムルモノニシテ特許ノ基礎ハ軍艦ヲ浮動ノ領土トスル如キ特別ナル法ノ擬制ヲ借ラスレテ之ヲ説明シ得ヘキナリ又特許ノ範圍ヲ説明スルニ當リテモ軍艦ノ特

扱ノ範圍ハ可不侵扱及ヒ治外法扱ヲ以テ説明スルヲ得ヘク且ツ之レヲ以テ説明スルハ軍艦領土説ノ擬制ヲ以テ説明スルニ比スレハ便利ナリトス

軍艦ノ不可侵扱ノ一ノ結果トシテ沿岸國ノ官吏ハ艦長ノ特別ノ認許ナケレハ艦内ニ入ルヲ得ス從テ外國ノ警察吏稅關吏ガ艦内ニ於テソノ扱カヲ行フヲ得ス軍艦ノ乗員ニ屬セシテ陸上ニ於テ常事犯又ハ政事犯ノ犯罪ヲナシ軍艦ニ逃込メル者又ハ政事ニ當リテ危難ヲ避クルタノ軍艦ニ庇護ヲ求ムルモノモ沿岸國ノ官憲之レヲ艦内マテ追及シ強カク以テ軍艦ヨリ引出スヲ得ス艦長カ之カ引渡ヲ拒ムトキハ外交上ノ手續ヲ踏ミテ軍艦ノ本國政府ニ引渡ヲ要求スヘキ、但シ常事犯人ハ軍艦之ヲ庇護スルコトハ不正ニシテ之ヲ庇護スル外國軍艦ニ領域外ニ退去スルヲ求メ得又政事犯人又ハ政事ノ際ノ危難ヲ避クル者ニ付キテモ軍艦ノ指揮官ハ軍艦カ沿岸國ニ對スル犯罪ノ準備所又ハ政事ノ策源所トナルコトヲ妨グル知置テ執ラサルヘカラス軍艦外務令ハ犯罪者ニ對シ「指揮官ハ帝國臣民ニシテ軍艦ノ庇護ヲ求ムル者アルモ之ヲ艦内ニ入ルヘカラストナン但シ一旦許シテ我艦内ニ入レタルモノハ外交上ノ手續ヲ經ルニテアラサレハ之ヲ他ニ引渡スヘカラス」トス(第十七條)又政治上ノ避難者ニ

于レ「外國ニ政事上ノ争亂アリテ之レニ于係有スルモノ、危急ノ難ヲ避ケンカラス我カ艦ニ保護ヲ請フキハ之ヲ艦内ニ保護スルコトヲ得」トシ「保護スルニ先テ成ル可クソノ地ニ駐在セル我外交官又ハ領事官ト快談スヘシ」トス而シテ指揮官ハソノ保護スル所ノ者ヲシテソノ党ト一切ノ交通ヲ絶クシメ且ツ遠カニ之レヲ安全ノ地ニ移スヘシトス(第二十七條)

奴隸ノ認メラル、國ノ港ニ旋泊スル軍艦ハ逃込メル奴隸ニ庇護ヲ与フルヲ得ヘキト英國ニ於テ主張サレタルモ未タ國際慣例ノ尤ク認メタル所ニアラズ我軍艦外務令ハ英國ニ倣ヒ奴隸ノ庇護ヲ請フ者ニ對シテ事情ノ許ス限リ之ニ応スヘシトス(第三十條)

軍艦ノ不可侵扱ノ一ノ結果トシテ軍艦ハ外國政府ノ于涉(内部ノ事項ニ對スル強制的ノ于涉)ヲ受クルコトナキモノトス(軍艦外務令カ「若シ外國政府強ヒテ之ニ于涉ヲ加フントセハ兵カヲ以テ拒ムコトヲ得」ト云ハルハ外國政府ニ依リ強制ヲ加ハラレ且ツ自衛上ノ緊急ノ必要ヲ生シタル場合ヲ見タルモノナルヘシ)(軍艦外務令第三條第一号)

軍艦ハ治外法扱ヲ有スソノ第一ノ結果トシテ「外國ノ法扱ニ服セス從ツテ

外國ノ警察權之判權臨檢搜索權オシ艦内ニ行ハルコトヲ許サス(軍艦外務令第三條第二号)軍艦内ニ外國ノ法權ヲ行ハレサル結果トシテ一國ノ軍艦ノ艦内ニ起リタル犯罪ハ仮令軍艦ハ外國ノ領海内ニアルトキモ於テ行ハルモ犯罪者ノ国籍ノ如何若クハ軍艦ノ乗員タルト否トヲ問ハス又ソノ犯罪ノ性質如何ニ拘ハラズ軍艦所屬國ノ法權ニ屬スルモトス(外務令第十三條)此點ニ於テ軍艦ノ場合ニハ公使館ノ場合ヨリモ治外法權的資格ヲ顯著ナリ但シ沿岸國ノ臣民ニシテ一時的ニ艦中ニアリタル者ノ艦中ノ犯罪ハ艦長カ本國利益ニ反ヒスト認ムレハ沿岸國官憲ニ引渡シテ処罰ヲ受ケシムルヲ得ヘキナリ(軍艦外務令第十三條ハ一ニ帝國ノ法律及ヒ彼此ノ約條ニヨリ取リ扱フヘシトス)

外國領海ニアル軍艦ハ沿岸國ノ法權ニ服従セスト云フモ全然拘束ナキモノト云フヲ得ズ軍艦ハ任意ニ沿岸國ノ地方法律規則殊ニ港則及ヒ行船衛生警察ニ于スル規則ヲ遵守スヘキモノトス(外務令第七條)若シ軍艦ニシテ之ヲ守ラス沿岸國ニ之ニテ注意ヲ与フルモソノ故ナキ場合ニハ港灣又ハ領海外ニ出ツルヲホメ得ヘク又必要アレハ退去ヲ強制シ得ヘシ而シテ此場合又ハ其

他ノ場合(例ハ地方官憲ニ於テ外國軍艦ノ停泊スルコトソノ國ノ秩序ヲ乱スノ原因トナリ若クハ公安ニ危害アリト認ムルニ當リテ退去ヲ迫ル場合)ニ於テ軍艦カ沿岸國ノ官吏又ハ他ノ船舶ニ對シテ暴行ヲナスハ暴行ノ再ヒ生ズルヲ妨クルヲ必要ナル処置ヲ執リ得ヘシトス但シ港則及ヒ行船衛生警察ニ于スル規則ヲ遵守セス又ハ暴行ヲ行フ場合ニ於テモ沿岸國ハ港灣又ハ領海ノ外ニ出ツルヲホメ又ハ暴行ノ再ヒ行ハルヲ妨クルニ必要ナル処置ヲ執リ得ヘキモノニシテ軍艦ヲ沿岸國ノ法權ノ下ニ立タシムルヲ得ルニアラス

軍艦ノ治外法權ノ第一ノ結果トシテ軍艦ハ外國ニ對シテ納税ノ義務ナキモノトス(外務令第三條第三号)故ニ入港税商税カノ課税ヲ免除セラル但シ特別ノ設備ノ利用ニ對スル報酬ハ之レヲ私ハサルハカラス(例ハハスエズ運河ノ通航料)

軍艦ハ國家ノ威嚴ヲ代表スルト思惟セラリヲ以テ之レニ對シテ尊敬ト禮遇トヲ興ヘサルヘカラス軍艦外務令ハ「軍艦ハ主權ニ伴フ所ノ尊敬ト禮遇トヲ受クヘキモノトス」トナセリ(第三條第四号)軍艦ノ掲揚スル國旗ヲ侮辱スル場合ニハ國家ノ威嚴ノ相互尊重ニ于スル基本權ヲ侵スコトハナルヘキナ

リ然レモ軍艦ニ于スル海上礼式ノ事項ハ今日ニ於テハ國際礼讓ニ屬スルヲ以テ沿岸國カ礼式上相当ノ待遇ヲナサヌ又ハ軍艦ノ發スル礼砲ニ對シテ答砲ヲナサ、此場合ニ於テモ權利侵害トシテ得スレテ單ニ報復ヲナシ得ヘキノミ

軍艦所屬ノ端艇ハ軍艦ト同一ノ特權ヲ有ス（外務令第四條）

外國ニアル軍艦ニ屬スル兵員カ操練儀式又ハリノ他ノ事故ノタメ軍裝シテ上陸スル場合ハ予メ地方官憲ノ承認ヲ受クヘキモノトス（全第十一條）又本

國臣民ノ生命自由財産ノ非常ノ危害ヲ被ラムトシテ所在國ノ政府カ之レカ保護ノ任ヲ盡サ、此他ニ保護ノ途ナケレハ兵員ヲ上陸セムルコトアリ此

場合ニハ先ツソノ地ニ駐在スル本國ノ外交官又ハ領事官ト快談ス急危ノ場合ニ際シ予メ快談ヲナス追ナキトキハ此ノ限リニアラズ但シ成ルヘクソノ地ノ

所轄ナク承認ヲ求ムルニ注意スヘキナリ（全第二十三條参照）

上陸セル軍艦ノ乗員ニ對スル法扱ニ于テハ該論アルモ多敷説ハ上陸ノ場合ヲ區別シ地方官憲ノ明示又ハ默示ノ許可ヲ得テ公務ノタメニ上陸セル艦員

ハ治外法扱的性質ヲ保有シリ、土地ノ法扱ニ服セスシテ上陸中犯罪アルモ地方官憲ノ管轄ニ屬セストシ地方官憲ハ暴行ノ再ヒ行ハルニ妨タルヲメ必要

アルトキ之カ身体ヲ拘束スルヲ得ヘキモ軍艦ノ艦長ヨリ引渡ノ請求アルトキハ盜チニ軍艦ニ引渡サ、ルハカラストス而シテ上述ノ場合以外ニ於テハ上陸

中犯罪アルハソノ土地ノ法扱ニ服スルトス但シ此場合ニモ犯人逮捕ヲ免レテ軍艦ニ復歸セハ地方官憲ハ艦内ニ就テ逮捕スルヲ得ヌ此場合ニハ該官憲ハ唯

犯人カソノ本國ノ裁判所ニ引致セラレ且ツソノ訴訟ノ結果如何ヲ通知セラレ

ンコトヲ要請スルヲ得ルニ止マルモノトス（國際法快會決議）然ルニ上述ノ

説ニ反對シテ公務ヲ以テ上陸セルト否トノ區別ヲ認メスレテ軍艦員ハ如何ナル場合ニ於テモ上陸中治外法扱ヲ保有シ上陸中犯セル犯罪ニ付キテモ總テソ

ノ土地ノ法扱ニ服セストスルノ説アリ我カ國ノ軍艦外務令ニ於テハ艦員ニ付キ所在地ノ法扱ノ行ハルノ場合アルヲ認メテ「指揮官ハソノ部下ノ者ソノ地

ノ法律ニヨリテ逮捕セラレタルニ當リ之カ引渡ヲ受クル能ハサルトキハソノ者ノ受クル待遇並ヒニ裁判ノ公平ナリヤ否ニ注意スヘシト定メタリ（第十

六條）

軍艦ト外國ノ官憲トノ公ノ通信ハ必ズソノ地ニ駐在スル軍艦所屬國ノ外交

使節又ハ領事ヲ經由ス但シ外交使節又ハ領事ソノ地ニアラサルハ直接ニ通

一五七

信ヲナスヲ得ル(軍艦外務令第八條)

國家ノ元首又ハ外交使節ノ專用ノタメニ使用セラルル船舶ハ特權ニ于テ軍艦ノ如ク取扱ハル軍艦旗ヲ掲ケスニテ國家ノ役務ニ從事スル公船ニ付キテハ異論アルモ營利的事業ニ關係セサル此種ノ公船ハ特權ニ于テ軍艦ノ如ク取扱ハントスルノ傾向ヲ見ル

第二十二章 國際于係ノ進歩及ヒ維持ノ方法

國際ノ談判又ハ商談

國家ハ國際法上ノ能力ノ範圍内ニ於テソノ相互ノ間ニソノ代表权限ヲ有スル概テニヨリテ國際ノ談判又ハ商談ヲ行フ外務大臣大使及ヒソノ他ノ外交使節カ之ヲ行フヲ原則トスレトモ時ニ元首カ自ら之ヲ行フコトアリ又外交官ノ資格ヲ有セサル使節ノ之ヲ行フコトアリ戰時ニ於テハ軍軍指揮官カ戰時規約ヲ結フ談判ヲ行フ

國際談判又ハ商談ノ目的ハ兩國間ノ現在ノ爭議ヲ平和的ニ解決スルニ在ルコトアルヘク或ル他國ニ于スル政治上ノ問題ニ付キ意見ヲ交換スルニアルコトアルヘク或ハ將來ノ國家行為ニ于スル約束ヲサントスルニアルコトアル

トアルヘク或ハ將來ノ國家行為ニ于スル約束ヲサントスルニアルコトアルヘク或ハ戰時ニ於テ軍ニ關スル一時ノ規約ヲ結フタノナルコトアルヘク國際法ハ國際談判又ハ商談ニ于テ別ニ形式ヲ定ムルコトナシ各面ノ頭執レニテモ之ヲ行フヲ得重要ナル談判ハ各面ヲ用フルコト多キモ複雑ナル問題ニ于テハ談判(例ヘハ媾和談判)ハ口頭ニテ之レヲ行ヒ議事中ノ段落毎ニ議定各又ハ始末各ヲ作ルヲ常トス

國際談判ノ際外交使節々本國ヨリ受ケタル文各ヲ讀ムコトアリ此場合ニハ請求アルハ駐在國ノ外務省ニ該文各ヲ讀本ヲ殘サレハカラス若シ讀本ヲ得フルヲ拒メハ外務大臣ハ文各ノ朗讀ヲ聽クコトヲ拒ムヲ得ヘキナリ(一八二五年カンエンタハ倫敦駐劄ノ露國大使カ南米ノ西班牙領地ノ獨立ニ于シテ本國ヨリ受ケタル文各ノ讀本ヲ英國外務省ニ殘ヌコトヲ拒メルヨリ露國大使カ該文各ヲ讀ムヲ聽クコトヲ拒メリ)

國際談判又ハ商談ハ數回間ニテ國際會議ニヨリ行ハルコトアリ國際談判又ハ商談ノ目的カ將來ノ國家行為ノ約束ニ于スル場合ニハ談判ヲ成功セハ普通通之ニ于スル條約カ結ハルニ至ル國際會議ニ於ケル所謂一般決議會又ハ最

終決議局ハ一種ノ条約ニ外ナラス

國際會議

國際會議ハ國際的ノ利益ニ于保アル問題ヲ審議スルタノ多數ノ國家ノ代表者ノ正式ニ令合スルモノトス

國際會議ハ普通之レヲ區別シテ二種トナシ列國公令及ヒ列國會議トナス此二者ノ間ニ學理上ノ精密ナル區別ヲ設クルコト困難ナリ概シテ言ハテ政治上ノ重要ナル國際的問題ヲ議スルタノ元首又ハ國家ノ重臣カ會議スルトキハ列國公令ト稱スルカ如シ但シ重要ナル問題ヲ議スル會議ナルモ或ハ國際法ノ原則ヲ議シ或ハ軍備廢止若クハ義務的仲立々判ニ于スル事項ヲ議スルカ如キ會議ハ之ヲ列國會議ト稱スルヲ常トス(第一及ヒ第二平和會議)

國際會議ニ加ハルヲ得ル國家ハ獨立國(所謂主權國)ニ限ルトノ説アルモ苟クモ國際法上ノ行為能力ヲ有スル國家ハリノ能力ノ範圍内ノ事項ニ于シ會議ニ加ハルヲ得ヘキナリ

國際會議ニ於テ諸國ハ或ハ數名ノ全權委員ヲ派スルコトアルモ特約ナケレハ一國一票ヲ有スルニ過キス國際會議ニ出席スル全權委員ハ會議ノ席カレト

國ニ對スルソノ本國ノ信任狀ヲ携フルヲ要セス單ニ會議ニ于スル全權委任狀ヲ有スルヲ以テ足ル全權委任狀ハ會議ノ初メニ各國全權委員カ相互ニ相呈示シ相檢閱ス

國際會議ニ代表者ヲ出サレル國家ハ會議ノ決議ニ拘束セラレサルハ言ヲ須タサルモ國際會議ニ代表者ヲ出セル國家モ會議ノ多數決ノ故ヲ以テ決議ヲ強ヒラルコトナシトス

國際會議ハ招請國又ハ會議ニ用カル國ノ外務大臣ヲ議長トスルヲ普通ノ慣例トスルモ是レ國際法上一定セル所ニアラス複雜ナル事項ヲ審議スルタメ委員會ヲ組織スルヲ常トス議事毎ニ議定局又ハ始末局ヲ作ル會議ニ列セル各國ノ代表者ノ一致セル點ハ會議ノ最終決議局又ハ一般決議局中ニ之ヲ掲ケテ

調印ヲナス決議局ノ外ニ許多ノ條約ヲ作ルコトアリ(維納會議及ヒ平和會議)又決議局ヲ作ラシテ宣言又ハ條約ヲ作ルコトアリ(倫敦海軍法規會議)決議局ニ調印スルニ當リソノ中ノ條款ノ辭氣又ハ適用ニ于シ宣言又ハ留保ヲナ

シ得決議局中ニ明カニ會議ニ于係セサリレ國ノ將來決議局ニ加ハルヲ認ムルコトアリ決議局ハ一種ノ條約ニシテソノ效力ノ確定スルニハ批准ヲ要ス

一六一

國際法上ノ法規于係概説

國際法上ノ法規于係ハ國家間ノ于係タルヲ原則トシ國際法ノ主体ハ原則トシテ國家ニ限レハナリ故ニ其ノ結果ヲ生ス

(1) 異ナレル國家ニ屬スル個人間ノ法規于係ハ直接ニ國際法上ノ于係ヲナスコトナシ所謂國際私法ノ原則ハ概シテ國際法ノ原則ニアラスシテ國內法ノ原則ナリト云フヘシ但シ國家ハ國際私法ニ于テスル立法行為ニ付キ條約ニヨリ國際法上ノ法規于係ヲ有スルコトヲ得ヘク又國際慣例ニヨリ此ノ如キ立法行為ニ付キ國際法上ノ法規于係ヲ生スルコトモ有り得ヘキナリ

(2) 一國ト他國家ニ屬スル個人トノ間ニ直接ニ國際法上ノ于係ヲ生セス例ハハ一ノ外國人カリノ在留國ニ於テ法律ノ保護ヲ受クルコトハ個人ニ屬スル國際法上ノ權利トシテ存スルモノニアラス外國人ノ在留國ニ於テ享有スル權利ハ在留國ノ國內法上ノ權利ニ外ナラス唯在留國ハ國際法上外國人ノ所屬國ニ(本國)對シテソノ國內法ニヨリ法律上ノ保護ヲ該外國人ニ對シテ与フル

ノ國際法上ノ義務ヲ負フコトアルニシテ交戦國ハ中立人ノ禁制品輸送封鎖侵破ホノ行為ヲ妨クルノ國際法上ノ權利アルモ是レ中立國ノ個人ニ對スル于係ニ於テ有スル權利ニアラス交戦國ノ中立國ノ個人ニ對スル直接ノ于係ハ交戦國ノ國內法上ノ于係ニアラサレハ事實上ノ于係タルノミ唯ソノ于係カ中立國ノソノ所屬ノ個人ヲ保護スル一般の權利ヲ制限スル点ヨリ交戦國ハ中立人ノ屬スル于係ニ於テ戰爭ノ目的ニ有害ナル個人ノ行為ヲ防遏スルヲメニ行ヒ得ヘキ処置ノ範圍ニ于レテ國際法上ノ權利義務ヲ有スルニ至ルナリ

或ハ國際法上ノ法規于係ノ特徴ノ一トシテソノ權利義務ノ内容カ國家ノ主權ノ作用ナルヲ要スルヲ説クモノアリ然レモ對テナル國家間ノ于係ナルトキハ主權ノ作用ニ直接ニ于係ナキ金錢上ノ貸借又ハソノ保証ノ問題ホト首尾國際法上ノ法規于係ニ生スルヲ得ルト云ハサルヘカラス但シ國際法上一國ノ領域内ニ於テ該國ノ國內法ノ管轄ニ屬スル財產于係ヲ作ルトキ例ハ土地ノ所有權ヲ取得スルトキハ是レソノ國ノ國內法上ノ于係ニ外ナラサルハ言ヲ須タサルナリ

國際法上ノ事實概説

國際法上ノ事實トハ國際法上ノ法規于係ノ發生消滅及ヒ變更ニ于係スル事實ナリトス

國際法上ノ事實ハ左ノ如キモノヲ含ム

(1) 國家ノ行為以外ノ事實

(A) 全ク人意ニ基カサル自然的事實(例ハ地震ニヨル土地ノ陷落、時ノ至過)

(B) 國際法ノ主体ニテラサル自然人ノ行為(例ハ海賊ノ行為、中立國個人ノ交戦國ヲ援助スルノ行為)

(2) 國家ノ国内法上ノ行為(主トシテ主權ノ發動ナリトス)

(3) 國家ノ國際法上ノ法的行為及ヒ進法行為

今(3)ニ基ケタル國際法上ノ法的行為及ヒ進法行為ニテシテ説クノ必要アリ

國際法上ノ法的行為

國際法上ノ法的行為トハ國際法上ノ效果即チ國際法上ノ法的于係ノ發生消滅又ハ變更ヲ致サレムヘキ行為ナリ國際法上ノ法的行為中最モ重要ナルハ條約ニシテ次章ニ於テ詳述スヘキ所ナリ

或ハ國際法上ノ法的行為ハ常ニ主者間ノ行為ナリトス者アルモ必スシモ然ラズ存在スル人格者ヲ消滅セシムルノ行為(併合)又ハ新ニ人格者ヲ發生セシムルノ行為(國家ノ承認)タルコトアリ

國際法上ノ法的行為ニ付キ注意スヘキ点左ノ如シ

(1) 國際法上法的行為ニ含マル、意思表示ハ國家ノ取扱アル機于カ之ヲ行ハサルヘオラス

(A) 國家ノ元首及ヒ外務大臣ハ特別ノ全權委任ヲ待タズシテ國家ノタメ

ニ如何ナル意思表示ヲモ行ヒ得但シ元首及ヒ外務大臣ノ行フ意思表示

ニ付キ国内法上ノ制限ヲ存スルコトアリ例ハ元首ノ行フ意思表示ニ付キ元首ノ認可ヲ要スルハトナスカ如キ是レナリ此場合ニ於テハ國際法

ハ国内法上ノ制限モ國際法上ノ事實トシテ之レヲ認メテ果シテ元首又

ハ外務大臣ノ行ヘル意思表示カ國家ノ意思表示ト認ムヘキヤ否ヤヲ決スルナリ

(B) 外交使節ハソノ全權委任ノ範圍内ニ於テ國家ヲ代表シソノ範圍内ニ於テ行フ意思表示ハ派遣國ニ對シテ國際法上ノ效果ヲ生ス但シ條約締

結ニ付キテハ別ニ元首ノ批准ヲ要スル外交使節ノ普通ノ職務ニ於ケル
全權委任ノ範圍ハ國際慣例ニヨリ定マリ而シテ特別ノ任務ニ于テハ
全權委任状ニヨリテ範圍ヲ定ム

(イ) 國家ノ國際法上ノ意思表示ヲ行フノ权限ヲ有セサル官吏ノ行フ意思
表示ハ國際法上ノ效果ヲ生ズルタメニハ國家ノ追認ヲ要スル例ハ軍
艦カ無主ノ土地ノ先占ニ于テモソノ實際ノ行為ヲ行フモノノ國際法上ノ效
果ヲ生ズルタメニハ國家ノ追認ヲ要ス

(ニ) 私人ノ行フ意思表示ノ國際法上ノ效力ヲ生ズルニハ國家ノ追認ヲ要
ス

(2) 意思表示ニシテ相手國ニ傳達スルヲ要スルモノハ之ヲ受クルノ权限ア
ル相手國ノ代表者カ之ヲ受ケタル旨ニアラサレハ國際法上ノ效果ヲ生
ズ 普通外務大臣ヨリソノ國駐劄ノ外國大使ニ傳ヘ若クハ大使ヨリ駐劄
國ノ外務大臣ニ傳フ但シ效力發生ノ時期ニ于テ假令外務大臣ヨリソノ
國駐劄ノ外國大使ニ意思表示ヲ傳フルモ未タ大使ノ本國政府ニ知ラレサ
ル間ハ效力ヲ發生セスト認ムヘキコトアリ

(3) 意思表示ニハ明示的ナルアリ默示的ナルアリ默示的ノ意思表示アリト
スフヲ得ヘキタンニハ少クトモ法律上ノ狀態ノ變動ヲ正式ニ告知セラレ
之レニ抗議スヘキ概念アルモ抗議ヲナサリシコトヲ要スル默示的意思
表示ノ存スルタメニ要スヘキ告知ハ相手國ニ傳ヘラレサルヘカラス但シ
相手國ニ傳ヘタル以上ハ相手國ノ相當機手カ受信ヲ承認スルモ單ニ告知
ヲ聞キオク旨ヲ達フルモ可ナリトス受信ノ拒絶サレタル片ハ告知ハ效力
ヲ生ズル 既ニ起リ又ハ起ラントスル法規上ノ狀態ノ變更ハ該變更ニヨ
リ権利ヲ侵サルヘキ國家ニ告知セサルヘカラス而シテ權利ヲ害サルヘキ
國家カ権利ヲ保存スルニハ抗議ヲナスヘキモノトス若シ默シテ止ムトキ
ハ新ナル法規上ノ狀態ノ變更ト兩立セサル權利ヲ放棄セルモノト認ムヘ
キニ至ル

(4) 國際法上ノ意思表示ニ条件付ト然ラサルモノナリ条件ニモ解除条件
ト停止条件トアリ
(5) 國際法上ノ意思表示ノ取扱ハ一定セサルモ文層ヲ以テ之レヲ行フヲ通
則トス

(6) 國際法上ノ意思表示ハ國家ノタメニ意思表示ヲナス、概テタル個人ニ相
 ハシレタル強制ノ故ヲ以テ之レカ無効ヲ主張スルコトヲ得、戰時規約及
 レ購和条約ハモ亦此規則ノ例外ヲナスモノニアラス、但シ國家自身ニ加
 ラレタル強制ノ故ヲ以テ意思表示ヲ無効トスルヲ得、國際法上ノ意思
 表示ニ付キ國家ノタメニ意思表示ヲナス概テタル個人カ重大ナル錯誤ヲ
 ナセル場合又ハ相手國ノ概テニヨル欺欺ヲ存セル場合ニハ錯誤又ハ詐欺
 ニヨリ不利益ヲ受ケル國家ハ法的行為ノ無効ヲ主張シ得ヘキナリ

國際法上ノ法的行為中条約ハ之ヲ別章ニ詳論ス、キヲ以テ今國際法上ノ法
 的行為中ノ宣言告知、抗議、拋棄承認、ノ單獨行為ニ付キ速テ所アラントス
 (a) 所謂宣言中ソノ実ハ条約ニシテ救國ノ間ニ將來守ルヘキ規則ヲ約定ス
 ルモノアリ(一八五六年ノ巴里宣言、一八六八年ノビーターズブルグ宣言
 一九〇九年ノ倫敦宣言) 此種ノ宣言ハ法理上条約ト異ナルコトナキナリ
 此ニ特ニ速テ要スルハ單獨行為タル宣言ナリトス、單獨行為タル宣言
 ニシテ過去ニ於ケル行為ノ説明又ハ辯明ヲナシ又ハ或ル事項ニ于テ
 見ヌハ目的ノ説明ヲナスモノアリ、此レガ、宣言中重要ナルモノナキニア

ラサルモ他國家ノ權利義務ニ于係スル法的行為ニテラス、此ニ法的行為ノ
 種類トシテ挙ケルヲ要スル宣言ハ他國家ノ權利義務ニ于係アルモノニシ
 テソノ中種々ノモノヲ含メリ、開戦ノ宣言、中立ノ宣言、交戦國ノ戰時禁制品
 ト認ムル貨物ノ品物ノ宣言ハ是レナリ

(b) 告知トハ法規上于係アル或ル事實ヲ他國家ニ通知スルモノナリ告知ニ
 モ種々ノ種類ノモノアリ、國家元首ノ變更ノ告知、國家ノ政体ノ變更ノ告知
 征服ニヨル併合ノ告知、新外務大臣ノ任命ノ告知、戰爭ノ開始ノ告知、封鎖
 ノ告知ハ是レナリ一定ノ場合ニ於テ告知ヲナスコトカ条約上ノ義務トナ
 ルコトアリ例ヘハ(第二回平和會議ノ開戦ニ于スル條約ノ定ムル所ノ)
 戰爭開始ヲ中立國ニ通知スルノ告知又ハ(第二回平和會議ノ國際紛争平
 和的處理条約ノ第八十四条ニ規定スル所ノ) 許多ノ國ノ間ノ条約ノ締結
 ヲ二國間ニテ仲立判ニ付スル場合、他ノ締約國ニ對スル告知又ハ(倫
 敦宣言ノ第十一条ニ規定スル所ノ) 封鎖ノ宣言ノ告知ノ如キ是ナリ
 (c) 抗議トハ一國カ他國ノ既ニ行ヒヌハ將ニ行ハントスル行為ニ對シテ異
 議アルコトヲ他國ニ正式ニ告グルモノナリ、抗議ハ或ハ權利保存ヲ目的ト

レテ行ヒ或ハ抗議ヲナス國家カ或ル行為ヲ認許若クハ承認セサルコトヲ
告グル目的トシテ行フ抗議ハ告知ヲ受ケ又ハリノ他ノ方法ニ依リテ知
レル他國ノ行為ニ于テ該國ニ提出スルヲ得ヘキモノニシテ若シ一國カ
國際法上ノ権利ヲ害セラルト思考スル行為ノ行ハレタルヲ行為ヲ行ヘ
ル國ノ告知ニ依リテ知リテ抗議ヲササ、ルトキハ此ノ如キ権利ヲ放棄
シタルモノト認メラル、ニ至ルナリ又告知ヲ受ケサルモ他ノ方法ニヨリ
テ事實ヲ知レルトキハ抗議ヲササ、レハ場合ニヨリ権利ヲ放棄セリト認
メラル、コトアリ得ヘキナリ但シ事情ニ依リ單純ナル抗議ヲ行ヘルノミ
ニテ何オ、他ノ行為ヲササ、レキハ抗議ノ目的トスル権利ノ保存ニ充分
ナラサルコトアリ

(d) 放棄トハ權利ノ任意ノ拋擲ナリ放棄ハ明示的ナルコトアリ默示的ナル
コトアリ例ハ若シ甲國カ乙國ノ領土タル一島嶼ヲ占有スルトキ乙國カ
新ナル占有ノ事實ヲ知リテ之レニ抗議セザルトキハ默示的ニ權利ヲ拋
棄セリト看做スヘキナリ

國際法上ノ進法行為

國際法上ノ進法行為トハ一國家カ他國家ノ國際法上ノ法益ヲ害スルノ行為
ナリ國際法上ノ進法行為ハ一般的ノ國際法規ニ違反スル場合アリ又ハ條約ノ
規定ニ違反スル場合マリ進法行為ニシテ注意スヘキ莫ハ左ノ如シ

- (1) 國際法上ノ進法行為ノ主体ニシテ該行為ニ基テ國際法上ノ責任ヲ負フ
モノハ原則トシテ國家ナリトス
- (2) 國際法上ノ進法行為ヲ行フノ能力ヲ完全ニ有スルモノハ國際法上ノ行
為能力ヲ完全ニ有スル國家ニ限ル國際法上ノ行為能力ヲ有セサル國家（
例ハ北米合衆國內ノ各州）ハ國際法上ノ進法行為ヲ行フノ能力ヲ有セ
ズ又國際法上ノ行為能力ヲ限定セラル、國家例ハ族及ノ如キ從國）ハ
ソノ限定サレタル行為能力ノ存スル範圍内ニ於テノミ進法行為ヲ行フノ
能力ヲ有ス
- (3) 國際法上ノ進法行為ハ常ニ國際法上ノ法益ヲ害スルモノナリ
- (4) 國際法上ノ進法行為ハ常ニ國家ニ對スル侵害ナリ但シ場合ニヨリテハ
物質的ニ否ハ直接ニ個人カ害ヲ被ムルコトアルモノソノ國際法上ノ進法
行為トナルハ個人ノ國家ニ對スル國際法上ノ法益ノ侵害ヲ含ムカクメナ

(5) 國家ハ自己ノ國際法上ノ進法行為ニヨリ責任ヲ負フ以外ニ於テソノ特別ノ子係ヲ有スル者ノ行為ニ付キ國際法上代位的責任ヲ負フコトアルハ既ニ國家ノ責任ヲ説クニ當リテ之レヲ連ヘタリ

第二十四章 國際條約

條約ノ定義及ヒソノ國際法上ノ地位

條約トハ數國家間ノ國際法上ノ權利義務ノ發生消滅若クハ變更ヲ致スヘキ合意ナリ

(1) 條約ハ合意ナリ。條約ハソノ意義ニ於テハ條約條約一般決議層又ハ最終決議層宣言取極決定規約議定層オノ名稱ノ如何ニテモス尙クモ國家間ノ合意ナレハ總テ之ヲ含ムモノナリ又賞層又ハ外交文層ノ交換ニヨル國家間ノ約束ヲモ含ムモノトス

(2) 條約ハ國家間ノ合意ナリ。羅馬法皇ノ旧教團ト東教上ノ事項ニ于テテ結フ所ノ教法條約ハ條約ト云フヲ得ス

(3) 條約ハ國際法上ノ權利義務ノ發生消滅變更ヲ致スヘキ合意ナリ。一國カ他國ノ主權ノ範圍内ノ事項ニ于テテ私人ト對テノ地位ニ立テ私人ノ資格ニテ該他國又ハソノ國ノ私人ト結ヘル合意ハ國際法上ノ條約ニアラス條約ハ直接ニハ政治上若クハ經濟上オノ目的ノタメニ結フコトアリ又直接ニ國際法ノ規則ニ于係スル目的ノタメニ結フコトアリ直接ニ國際法ノ規則ニ于係シテ結ハルノ條約ノ中多數ノ國家ヲ將來ニ向ツテ新ナル國際法ノ原則ヲ定メントスルモノアリ(所謂立法條約)又少數ノ國家カ現在ノ國際法ノ規則ニ付キ解決ヲ一定シ若クハ國際法ノ原則ニ對スル例外ヲ約セントスルモノアリ條約ハ國際法上重要ノ地位ヲ占メ國際法ノ規定ヲ發生セシメソノ効力ヲ与フル事實ヲ以テ淵源トナスノ意義ニ於テ條約ハ國際法ノ淵源ノ一タリ國家カ條約ニ基キテ取得スル權利ハ國家ノ基本權ニ屬スル獲得權ニ屬ス

條約ノ成立ノ要件

條約ノ成立ニハ(1) 條約ノ主体即チ條約締結國ニ締約能力具ハルコト、(2) 條約締結ヲ委任サレタル國家ノ概テノ权限具ハルコト、(3) 自由ナル意思ノ一致

ヲ存スルコト、(4) 条約ノ目的カ不法又ハ不能ナラシムルコトオノ要件ヲ要ス

条約ノ主体及ヒ概テ

条約ノ主体ハ国家ナルヘキハ勿論ナルモ一ノ条約ノ有、效ニ成立スルタメニハ更ニ条約ノ主体カ該条約ノ定ムル事項ニ于テ条約ヲナスノ能力ヲ有スルヲ要ス単純ナル独立國ハ尚クモ不法又ハ不能ナラサル以上ハ如何ナル事項ニ于テモ当然然条約締結ノ能力ヲ有ストスソノ他ノ國家ニ至リテモソノ有スル行為能力ノ許ス範圍内ニ於テ結ハル条約ハ有效ナリトス

条約ノ主体ノタメニ条約締結ニ當ル概テ何タルヤハ国内法ノ定ムル所ニ依ルヘキモ他國家ニ對シテ國際法上ノ意思表示ヲ行フノ权限ヲ有スル概テニ限ルハ言テ復タス普通ノ条約ハ國家ノ元首カソノ名ニ於テ締結權ヲ行フヲ常トス但シ元首カ直接ニ談判シ且ツ署名調印スル例トキニテラサルモ(一八五九年ノヴィラ、フランカノ予定和約) 普通ノ手續ハ元首カ所謂全權委任スル談判委員(外務大臣外交使節又ハソノ他ノ全權委員カ談判ニ當リ且ツ条約案ニ署名調印ヲナシ而シテ右元首カソノ名ニ於テ批准ヲナスモノナリ又一種ノ条約(例ハ明治三十八年十一月十七日ノ日韓条約)ニ於テハ元首ノ名ヲ用ヒ

スレテ政府又ハ全權委員ノ名ヲ以テ締結シ元首ノ批准ノ手續ヲ終サルアリ又元首カ一定ノ事項ニ于スル条約締結權ヲ特ニ明示的ノ意思表示ヲ以テ一定ノ概テニ委任スルコトアリ(例ハ露國ノターケスタン邊境ノ条約締結權英領加泰陀政府ノ關稅ニ于スル条約締結權) 又軍軍指揮官ハ戰時ニ於テ當然一定ノ戰時規約(降伏傳屬交換ホニ于スル規約オ)ヲ締結スルノ权限アリト認メラル普通ノ条約ノ締結ノ談判ニ於テハ談判委員ハ所謂全權委任状ニヨリ元首ヨリシテ权限ヲ委任セラルノミナラス元首ヨリ教種ノ訓令ヲ受クルモノトス

談判委員カ委任期限ヲ越エテ署名調印シタル件ハ理論上ニ於テ國家間ノ合意存セサルヲ以テ条約成立シ得サルナリ既ニ署名調印サレタル条約案モ署名調印ヲナセル者カ权限ヲ有セス又ハ权限ヲ踰越セルトキハ學者之ヲ「スポンジオリSpontio」ト稱ス「スポンジオリ」ハ國家ノ元首ノ追認ヲ得レハ條約トナリ得而シテ追認ハ批准ノ形式ヲ以テ之ヲ行フヲ得ヘキナリ
元首ノ条約締結權ニ對シテ国内法上ノ制限ヲ存スルコトアリ此レホノ制限ヲ存スルニ拘ハラヌ元首カ締結ヲナセルトキハ條約トシテ成立スルヤ否ヤニ

于シテ議論アルモ国内法上ノ制限カ条約ノ執行権ヲ制限スルモノニアラスシテ元首ノ条約ノ締結権ヲ物ヲ制限スル場合ニ於テハ此種ノ限制ニ于係ナク元首ノ締結セルモノハ真ノ国家ノ合意ナリト云フヲ得サルヘク従ツテ条約トシテ有效ニ成立シ得サルヘキナリ元首ノ条約締結権ニ于スル国内法上ノ制限ハ我々國ニ於テハ存セスト且臣民他國ニ於テハ媾和条約及通商財政キ一定ノ事項ニ于スル条約ハ大統領キ他國議會ノ快カラ得サレハ有效ニ締結スルヲ得ス(仙國憲法第八條)又独乙帝國ニ於テハ境界通商キ一定ノ事項ニ于スル条約ハ独乙皇帝カ朕拜議會及帝國議會ノ快カラ得サレハ有效ニ締結スルヲ得ス(独乙帝國憲法第一條第四條第十一條)又合衆國ニ於テハ總テノ条約ハ大統領カ元老院ノ合意ヲ経ルニマラサレハ之ヲ締結スルヲ得ス(合衆國憲法第二節第二條)元首ノ条約締結ハ国内ニ於テハ批准ノ手續ニヨリ又國際ニ係ニ於テハ批准交換ノ手續ニヨリ完了ス批准ハ既ニ署名調印ヲ経タル条約ニ對シテ与ヘラルヘキモノトス批准ノ向タルヤニ于シテハ右ニ詳述スヘキナリ

自由ナル意思ノ一致

条約ハ合意ナルヲ以テ双方ノ國家ノ意思ノ一致ヲ存セサルヘカラス一方ノ

申込ハ他方ノ承諾ナケレハ条約トシテ拘束カヲ生セヌ又一方ヨリ他方ニ對スル一方的ノ宣言ニヨリ將來ノ行為ニ付キ一方的ニ約束スル所アルモ相手國ノ明示ノ承諾ナケレハ条約ノ拘束カ生セヌ条約ニ于スル意思ノ一致ハ明示的ニ与ヘラルヘキモノトス慣例ニ對立ス可キ条約ハ默示ノ承諾ニヨリテ締結セラレコトナレトスヘキカ如シ

条約ノ成立ハ真ノ意思ノ一致ヲ要スルヲ以テ意思ノ一致カ自由ニ行ハレタルコトヲ要ス然レトモ此点ニ於テ國際法ハ国内法ト異ナル所アリ國家カ強國ニ威圧サレタル結果又ハ戰爭ニ敗レタル結果トシテ結ヘル条約モ國際法上有效ナルモノト看做サルヘキモノトス若シ國際ニ係ル於テ此種ノ条約ヲ有效トナサレトキハ國際ニ係ル中固カ永久ニ維持サルヲ得サルニ至ル且ツ此種ノ条約ヲ無効トセハ現今ノ國際狀態ニ於テハ弱國ハ戰爭ノ際強國ノタメニ威サレサレハ止マサルノ現象ヲ生シ却ツテ弱國ノ不利益トナルヘキナリ但シ國際法上ニ於テモ國家ノ概テトシテ談判締結ニ當ル個人ニ對シテ加ヘラレタル暴行強迫ニヨリテ結ハレタル条約ハ相手國カ之レカ無効ヲ主張スルヲ得ヘキモノトス

重大ナル錯誤ノ存セル場合又ハ相手国ノ概于ノ詐欺ノ存セル場合(例ハハ境界条約カ不精密ナル地圖ニヨリ又ハ他方ノ詐欺ヲ以テ変更ヲ加ヘタル地圖ニ基キテ定メラルトキ)ニハ精密ニ公ハ意思ノ一致ナシトセテ得サルモ此ホノ場合ニ於テモ意思ノ一致ニ重大ナル瑕疵アルヲ以テ錯誤又ハ詐欺ニヨリ不利益ヲ受クル國家ハソノ無効ヲ主張スルヲ得サルヘカラス

条約ノ目的ノ可能及ヒ道法

条約ノ目的タル権利義務ノ内容カ(1)不可能ナルヘカラス又(2)不法ナルヘカラス

事实上不可能ナル事項ヲ約スル条約ハ無効ナルヲ以テソノ不履行ニヨリ責任ヲ生ズレトナシトス

国際法上不法ナル事項ヲ約スル条約ハ無効ナリトス例ハ公路自由ノ原則タル国際法ノ強行的規定ニ反シテ公海ノ白領ヲ約スル条約ハ無効ナリトス此場合ニモ不履行ニヨリ責任ヲ生セス

一國カ第三國ト結ヘル条約上ノ義務ト相容レサル義務ヲ目的トスル条約ヨ右ニ結ヘル場合ニハ故ニ結ヘル条約ニヨル義務ト相容レサル旨ノ条約ノ部分

ハ当然無効トナスノ説立の行ハル、モ故ニ条約ノ権利者カリノ条約上ノ権利ヲ主張シ后ノ条約ノ取消ヲ要求スルノ権利ヲ条約ノ相手国ニ対シテ有スルニ止マルトナスヲ正解ト信ス從ツテ故ニ条約ニ基キテ権利者カ締結ノ事實ヲ知リナカラ抗議ヲナサレハ権利放棄ヲナセルモノト看做サレ后ノ条約カ有效ニ行ハレ得例ハ一八七八年ノ露土戦争ノ際結ハレタルサンスタフマノ条約ハ一八九六年ノ巴里条約及ヒ一八七一年ノ倫敦條約ト両立セサル条約有スルノ故ヲ以テ英國カ抗議シ伯林會議開カレテ伯林条約ノ議定ヲ見タリ當時サニスタフマノ条約ハ当然無効ト認メラレサリナリ

条約締結国カ第三國ニ義務ヲ負ハスニヨリテ定ムル条約ハ無効ナリト説ク學者アルモ此種ノ条約ハソノ表見ノ文句ニ拘ハラズ締結国カ該第三國ヲシテ条約ノ目的トスル行為又ハ不行為ヲ行ハシムルコトニ尽カスヘキシ約スルノ趣意ヲ有スルニ過キサルヲ常トスルヲ以テ一概ニ無効ナリトセテ得ス且ツ(從國ニ對スル)主國又ハ(甲種保護國ニ對スル)保護ヲ与ル國家カソノ名ニヨリ從國又ハ保護國ノ行為又ハ不行為ニ于スル条約ヲ結ヒ得ヘキコトニ注意セサルヘカラス

不道德ナル内容ヲ有スル条約ハ無効ナリトスルコト許多ノ學者ノ唱フル所ナリ此ホハ學者ハ例ヘハ奴隷売買ヲ奨励スルヲ約シ又ハ誘因ヲクシテ共ニ第三國ヲ攻撃スルヲ約スル条約ノ如キハ初メヨリ無効ナリトナス然レモ現今ノ狀態ニ於テハ条約ヲ無効ナラシムルニ至ルヘキ所謂不道德ノ標準ヲ定ムルコト實際上困難ニシテ此点ハ未タ確定セル國際法規ヲ以テ認メ得サルナリ但シ將來國際法カ發達シ殊ニ國際仲裁司法裁判ノ制度確立スルニ及ハハ國際ニ於ケル公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スル事項ヲ目的トスル条約ハ無効トスルノ規則確立スルニ至ルヘキナリ

条約ノ形式

条約ハソノ有效ナル為メニ特別ナル形式ヲ要件トスルコトナシトス故ニ締結國ノ意見ノ一致ヲ存スルコト明白トナルトキハ条約カ締結サレタリト云フヲ得

國家ノ合意ハ必スレモ唇面ヲ以テ之ヲ締結スルヲ要セスト屋門國家ノ合意ハ之ヲ精確明瞭ナラシメ唇面ノ紛議ヲ避ケルヲ要スルヲ以テ極メテ稀ナル場合ノ外ハ唇面ヲ以テ之ヲ行フヲ常トス唇面ヲ以テスル場合ニモ單ニ元首又

ハ外務大臣ノ署名スル外交文書ノ交換ニヨリテ之ヲ結フコトナキニテラサルモ通常ノ場合ニハ慣例上定マレル一定ノ方式ヲ備ヘタル條約案ニ双方ノ全權委員カ署名調印ヲナシ之ニ對シテ元首カ批准ヲ行ヒ而シテ唇面批准ヲ相交換スルコトニヨリ確定的ニ締結セラル

普通ノ條約ニハ故テアリ特定ノ目的ノタメニ某々ノ國ノ元首某々カ某々ヲ全權委員トシテ條約ノ締結ニ當ラシメ各委員カ相互的ニ全權委任狀ノ良好妥當ヲ認メタルコトヲ記載ス而シテ本文ニ於テ先ツ條約ノ實ノ實ニテスル規定ヲ設ケ本文ノ左ノ部分ニ於テ批准條約ノ有効期間又ハ第三國ノ加入ギニテスル規定ヲオク本文ノ右ニ全權委員ノ署名アリ

國家ノ合意ニハ種々ノ名義アリ狹義ノ條約及ヒ條約ノ二者ノ間ニハ理論上區別ヲ立ツルヲ得ス慣例上講和條約通信條約ナニハ條約ノ語ヲ用ヒ郵便電信條約領事職務條約又ハ國際法規ヲ定ムル諸條約ホニハ條約ノ名ヲ用フ宣言ノ名カ一種ノ條約ヲ表ハスニ用ヒラル場合ニ於テモソノ法理上ノ性質ハ他ノ條約ト異ナルコトナシ唯實際ニ於テ國際法規ヲ定ムル場合ニ於テ締結國間ニ有效ナル特別ノ國際法上ノ規定ヲ作ル趣意ノ場合ニハ條約ノ名ヲ用ヒ既存ノ

一八一
國際法規ノ認定解釈ニ于テ締結國ノ一致セル所ヲ表自スル趣意ヲ有スト主
張スル場合ニハ宣言ノ名ヲ用フル傾向マルモ法理ヨリ云ハハソノ名ノ條約ヲ
ルト宣言タルトニ拘ハラズ締結國間ニシテ効カアルヘキモノニシテ法理上ノ
性質ニ於テ異ナルヘキモノニアラズ又國際會議ノ決議ハ條約又ハ條約トシテ
調印セラル、コトアリ國際會議ノ決議カ一般若クハ最終決議各ニ記載ナル、
場合ニ於テモリノ内容カ國際條約ノ實質トシテ且ツソノ全權委員ノ署
名調印ヲ經テハ一種ノ條約ニ外ナラス但シ一般又ハ最終決議各ノ中ニ
記載スル事項モ單ニ國際會議ノ全權一致又ハ多數ニテ行ヘル希望ヲ表ハスノ
決議トシテ記載スル事項ハ當然會議ニ代表者ヲ出セル諸國ヲ拘束スルノ力ナ
キモノトナサル(第一平和會議ノ最終決議各参照)又議定各ヨリ條約ノ適
用解釈若クハ意義ノ制限ニ付キ全權委員ノ名義ヲ以テ批准ヲ踏マシテ決定
ヲナスコトアリ又取極決定議定各オノ名ヲ以テ批准ノ手續ヲ經シテ政府カ
結フ條約アリハ戰時規約ハ軍指揮官ノ當然締結ノ權能ヲ有スルト認メラル、
所ナリ

條約ノ批准

條約ノ批准ハ全權委員ヨリ署名調印セラレタル條約ニ對シ普通元首ノ興
フル所ニシテ國家々條約ヲ確認スル手續ナリトス條約ハ全權委員ノ調印ニヨ
リ成立スト虽モ(此点反對説ナク行ハル)批准ヲ要スヘキ一般ノ條約ニマリ
テハ調印ハ批准ヲ條件トシテ條件付キニテ條約ヲ成立セシムルモノニシテ條
約ノ拘束力ヲ確定スルハ批准ヲ待タサルヘカラス條約ノ實施力ノ發生モ特約
ナケレハ概シテ批准交換ノ後ヨリ生スルト見做サル此点ニ付キテ區別ヲ立テ
論スヘキハ右ニ述フル所ナリ普通ノ條約ニ於テ仮令批准ヲ行フヘキコトヲ
特ニ明言セサルモ批准ハ署名調印ニヨリ條件付キニテ成立セル條約ヲ確定的
ニ成立セシメソノ拘束力ヲ確定セシムルタメニ必要ナル條件ニシテ批准ナキ
間ハ條約ノ拘束力確定セス又批准ノ拒絕アレハ條約ハ調印アリタルニ拘ラズ
消滅スルモノトス故ニ批准ハ條約ノ有效ニ成立スルタメノ停止條件ナリト云
フハレ

或ハ批准ニヨリ始メテ國家ノ意思カ表示ナルトシ條約ハ批准ニヨリ始メ
テ成立スルモノニシテ署名調印ハ單ニ條約案ヲ定ムルニ過キストナスモノアリ
然レモ國際ノ慣例ノ實際ヲ考フレハ調印ニヨリ條約成リ批准ヲ要スヘキ一

一般ノ条約ニアリテハ単ニ拘束カ批准ニ至ルマテ確定セム又約条ノ一般的ノ実
施カカ多收説ニヨレハ當時者ノ反対ノ意思表示ナケレハ批准又ハ批准交換ノ
時ヨリ發生スル見做スニ外ナラズシテ署名調印ノ片既ニ条約成立スルモノト
セハサルヲ得ス故ニ条約ニ付キ全權委任ヲ有スルモノリ署名調印ヲナセル
時日ニ重キヲオキ、(1)条約文中ニ條々批准ノ留保ニ条約若クハ批准ヲ何時マ
デニ行フヘキヤヲ定ムル條款ヲオクヌ、(2)一旦(何キ)留保ヲナサスレテ
署名調印ヲ經タル条約ハ分割シ又ハ変更シテ批准シ得ストナス又、(3)或ル場
合ニ於テ予メ批准ヲ要セスレテ調印ノ時ヨリ直ニ實施スルコトヲ得ヘキ
条約ヲ結コトヲ認メラシムルコトアリ(例ハ一八四〇年七月十五日ノ埃及
ニ于スル倫敦条約ノ議定各及ヒ一八八〇年ノモロッコノ保護民ニ于スル条約
又(4)或ル種ノ条約ニ於テハ署名調印ノ日ヨリ一種ノ實施カヲ生スルコト認メ
ラル例ハハ媾和条約ノ署名調印ノ時ヨリ休戦ノ效力ヲ生シ又或ル學者ノ説及
ヒ英米仏ホノ諸國ノ慣例ニヨレハ割讓条約ニヨル讓割地ノ人民ノ国籍ノ変更
オノ將來ノ行為ニ于セサル条約ノ國際間ノ實施カハ署名調印ノトキヨリ生ス
ルカ如キ是レナリ又(5)条約ノ種英ニヨリテハ全ク批准ヲ要セサルモノアリ(

例ハ戰時規約或ル種ノ取極快約議定各)

批准ハ条約締結扱ヲ有スル概テ之ヲ行フ普通ノ場合ニハ國家ノ元首之ヨ
行フモノトス元首カ一定ノ事項ニ于スル条約締結扱ヲ特ニ明示的ノ意思表示
ヲ以テ一定ノ概テ委任スルコトアリ又或ル種ノ事項ニ于レテ國內法上元首
ノ条約締結扱ニ制限ヲ存シ元首カ批准ヲ与フル故ニ或ル種ノ國家概テ議決
ヲ要スルコトアリ

批准ハ元首カ全權委任ノ談判快定シ署名調印セル条約ヲ嘉納スルコトヲ表
示スル所ノ局面ニヨリテ之ヲ行フ行為ニシテ國際法上ニ於テハ批准ノ交換ニ
ヨリテ批准カ完成スルナリ批准層ハ國家ノ元首カ署名調印シ外務大臣カ副署
スルヲ常トス批准層中ニ条約ノ全文ヲ掲クルコトアリ或ハ單ニ條約ノ名称故
文調印ノ時日調印セル代表者ノ氏名ヲ掲クルニ止ムルコトアリ批准ハ國際
于係ニ於テハ批准ノ意思表示ノ國際的ニ完成スル片即チ批准層ノ贈本ノ交換
ニヨリ始メテ完成スルモ數多ノ國家ノ間ニ條約ニ於テハ相互的ニ交換スル代
リニ一ヶ所ニ寄託ヲナスノ手續ヲ行フヲ以テ足レリトスルコトアリ
多數ノ學者ハ默示的批准ナルモノ存スルヲ説キ國家ノ元首カ批准ヲ行ハサ

ルモ条約ヲ實施セハ默示的ノ批准ヲ存スト看做スヘシトス然レモ批准ハ必ス
 層面ヲ以テ行ヒ層面ノ交換ニヨリ國際法上完成スル形式的行為ニシテ層面ニ
 ヨリ正式ニ批准ヲサスシテ條約カ有效ナリト認メラル、コトアルハ余ク以
 テ批准ヲ要スルト認メラル、普通ノ條約ニマリテモ條約ノ成立ニハソノ性質
 上必スレモ批准ナル形式的行為ヲ要スルコトナク尙クモ國家カ條約ノ確立ヲ
 認ムルノ意思ヲ明示的又ハ默示的ニ表示スルキハ條約カソノ効力ヲ確定スル
 コトヲ平スモノナリ

國際法カ普通ノ條約ニ付キ原則トシテ批准ヲ要スルヲ認メタル理由ニアリ
 國家ヲシテ全權委員ノ署名調印ノ後更ニ條約全体ニ于テ國家ノ種々ノ利害
 ヨリ打差シテ再考ヲナスノ餘地ヲ得セシメントセルコトソノ一ナリ又條約ハ
 許多ノ國內法ニ於テ議會ノ核積ヲ得サレハ効力ヲ認メシレサルコトアルヲ以
 テ議會ノ核積ヲ得サルキハ條約ヲ撤回スルノ機會ヲ國家ニ興ヘントセルコト
 ソノ一ナリ第一ノ理由ハ交通ノ利便發達シ全權委員カ迅速ニ本國政府ノ訓令
 ヲ請フノ便宜加ハリ全權委員カ專斷ニ署名調印スルコト少キニ及ヒテ益クソ
 ノ價值ヲ減スル傾向アルモ第一ノ理由ハ今日ニ於テ上述ノ如キ法制ヲ有スル

國多キヲ以テソノ價值猶ホ衰ヘサルナリ

今日ニ於テハ普通ノ條約ニ對シテハ仮令批准ヲナスコトヲ明言スル條款ヲ設
 ケサルモ國際慣習上批准ヲ待テ初メテ條約拘束力カ確定スルモノナリ且ツ
 多數說ニ從ヘハ條約ノ一般的ノ實施カモ反對ノ明言ナケレハ批准交換ノトキ
 ヲリ發生スルモノト推定スヘシトナス然レモ批准ヲ必要トセサル特種ノ條約
 ヲ存ス國家ノ元首自身ノ談判調印スル條約ハ特ニ國內法上ノ制限ヲ存セサル
 場合ニハ批准ノ手續ヲ經スシテ完成ス又元首以外ノ國家機子モノノ當然ノ權
 限内ニ於テ批准ヲ要セサル國家ノ合意ヲ締結スルコトアリ(例ハ軍指揮官
 ノ戰時規約ヲ結フカ如キ是レナリ)又特ニ一定ノ事項ニ于テテ元首以外ノ機
 子ニ批准ヲ待タスシテ條約ヲ締結スルノ制限ヲ与アルコトアリ(例ハ印度
 總督ハ英國王ノ名ヲ以テ一定ノ詳細臣ノ君主ト批准ヲ經スシテ條約ヲ結ブノ
 權限ヲ与ヘラレ露國ノ土耳其斯坦ノ總督モ露國皇帝ノタシニ全權ノ權限ヲ与
 ヘラル)

條約ノ批准ハ何時迄ニ之ヲナスヘキヤニ付キ批准ニ于スル條款中ニ之ヲ、
 明記スル條約アリ或ハ此ノ如キ條款中ニ單ニ成ルヘキカ早ク批准スヘキヲ

定ムルコトアリ批准ノ時期カ明定セサル場合ニ於テ相当ノ時期ノ間ニ批准ヲ
行ヒ得ヘキ所ナリ固ヨリ相当ノ理由ナクシテ一旦全权委員ノ署名調印セル条
約ノ批准ヲ拒ムハ國際ノ不信ヲ招ク所以ニシテ今日ニ於テハ國際禮讓ニ反
スト認メ得ヘキヲ以テ何國モ止ムヲ得サルニアラサレハ之ヲ行ハサルヘキモ
一八八〇年二月五日署名調印サレタル

現在ノ國際法上ニ於テ批准ヲ拒ムコトニ關スル法律上ノ制限ヲ存スト云フヲ
得ス仮令相当ナル理想ナクシテハ國際法上批准ヲ拒ムヲ得サルコトヲ定ムルモ
相当ナル理由ノ何タルヘキヤヲ限定スルコト困難ナルヘシ實際ニ於テ條約ノ
批准ヲ拒ムル事例尠ク存セリ(例ハ一八〇〇年二月五日署名調印サレタル
大西洋ト太平洋トヲ連絡スル運河ニ于スル合衆國及ヒ英國間ノ「ヘーグ」ポー
ンズフォート」條約)或ハ國際法ノ著者ニ於テ道德上正当ノ理由ナクシテハ批
准ヲ拒絕シ得ストナシノ正当ノ理由ト認ムル場合ヲ列挙スルモノアルモ是
レ國際法ノ議論ト道德ノ議論トヲ混令スルモノニシテ不可ナリトス
批准ハ條約ノ拘束カヲ確定シ批准故條件付ニテ成立セル條約ハ批准交換后

完全ニ成立スルニ至ル而シテ條約ノ實施カニ多數說ニヨレハ反對ノ特約ナキ
以上ハ批准又ハ批准交換ノ件ヨリ發生スト認ムヘシトス但シ實施カニ付キテ
特ニ批准ニ先タテ例ヘハ全权委員ノ署名調印ノ件ヨリ直チニ之ヲ發生セシム
ルコトヲ明約シ得ヘク又或ル學者ノ說ニヨレハ將來ノ行為ニ于セサル條約ノ
實施カハ溯リテ署名調印ノ時ヨリ發生スヘキモノトス
一國カ自國ノ全权委員ノ制限ヲ超越セルヲ知レムニ拘ハラズ批准ヲナセル
條約ハ完全ニ成立ス又一國カ全权委員ノ署名調印ヲ終タル條約ニ付キ重大ナ
ル錯誤又ハ詐欺ニヨリテ無効ヲ主トシ得ヘクニ此事實ヲ知りテ批准ヲナサハ
條約ハ完全ニ成立スルニ至ル

批准ハ既ニ調印ニヨリ條件付ニ成立セル條約ニ對スル嘉納ノ意ヲ表スルモ
ノナルヲ以テ條約全体ニ對シテ与ヘラレサルヘカラス國家カ調印ヲ終タル條
約ニ變更ヲ加ヘテ批准スルハ批准拒絕ト全視スヘキナリ但シ許多ノ國ノ間ニ
條約ニ付キ調印ノ際固保ヲナセル國ハ固保ヲナセル條款ヲ除キソノ他ノ條款
ノニ付キ批准ヲ与フルコト認メラルニ至レリ(例ハ一八八〇年
七月三日ブリュッセルニ於テ簽反對全議ノ一般決議各ヲ批准スルニ當リ第二十一
一八九

一九〇。 条乃至第二十三條及第四十二條乃至第六十一條ヲ除外シテ批准セリ）又批准ニ際シテ条約中ノ條款字句ノ辭釈ニ于テ一定ノ辭釈ヲ取ルコトヲ條件トシテ批准ヲナスコトアリ得ヘキナリ（例ハ英國政府ハ倫敦宣言ニ于テ全宣言ノ辭釈ヲ与ヘタル全會議ノ編纂委員會ノ報告カ救カアリト認メラレ且ツ宣言中ノ曖昧ナル字句カ一定ノ意味ヲ以テラルルコトヲ條件トスルニアラサレハ宣言ヲ批准セサルヘシトナセリ）

条約ノ效力

条約ハ締結國ヲ羈束スルモノニシテ第三國ハ宗主权又ハ保護權ノ于係オノ特別ノ于係ニ基クニマラサレハ他國間ノ條約ニヨリテ拘束ヲ受クルコトナキモノトス故ニ之オノ特別ノ于係ニ場合ヲ除キテハ第三國ハ他國間ニ締結サレタル條約ニ基キ權利若クハ義務ヲ有スルニ至ルコトナシトス所謂最惠國條款ヨリテ第三國ハ他國間ニ締結サレタル條約ニヨリ實際ノ利害上ニ影響ヲ受クルコトナリトモ是レ他國間ニ締結サレタル條約ノ權利義務カ締結國ノ一方ニ對シテ最惠國條款ノ利益ヲ有スル第三國ニ至ルニ及ブモノニアラヌ又兩國間ニ締結スル條約ニ於テ第三國ノ利益ニ于テ約定スル所アルモ未タ第三國ハ

之ニヨリ條約上ノ權利ヲ得ルモノニアラヌ（例ハ一九〇一年ノ英米兩國間ノパナマ運河ニ于スル「ハーボーンズフォート」條約ハ送テノ國民ノ船艦ニ對シテ運河ヲ開放スルヲ定ム）

第三國ハ他國間ニ既ニ結ハレタル條約ニ加盟スルハ條約上ノ權利義務ヲ得ルニ至ルコトナリ言フ須ヲス加盟申學者ニヨリ「アクセツション」ト「アドヒージョン」トヲ區別シ故者ハ第三國ハ既存ノ條約ノ當事國トナリ原條約締結國ト全ク全株ナル權利義務ヲ負フニ至ルヲ指ストシ而シテ「アドヒージョン」ハ第三國ハ既存ノ條約ノ規定ノ一部又ハソノ定ムル原則ノ一部ニ于テ既存ノ條約ニ加ハルヲ謂フトナス然レモ此ノ如キ用語ノ區別ハ實際ニ於テ明確ニ認メラレヌ

條約ハ締結國自身ヲ拘束スルモ國際法上ニ於テハ直接ニソノ國民ヲ拘束スルモノニアラヌ故ニ條約上締結國ノ國民ノ權利義務ニ于係アル事項ヲ定ムルハ締結國ノ國內法上特ニ條約自身ニ法令ノ效力ヲ興フル概括的ノ規則ヲ存スルニアラサレハ條約ノ定ムル所ヲ実行スルヲ締結國ハ別ニ國民ノ國內法上ノ權利義務ヲ變更スヘキ國內法上ノ手續ヲナササルヘカラス